

# 認知症に関するアンケート調査

平成22年3月

宇都宮市

## 目 次

I	調査の概要	3
1	調査の目的	3
2	調査の種類	3
3	調査方法	5
4	調査期間	5
5	回収結果	5
6	集計上の注意事項	5
II	調査結果	6
1	高齢者のいる世帯アンケート調査	6
○	認知症について	6
○	認知症介護について	9
○	認知症サポーター養成講座について	19
○	認知症対策全般について	20
2	認知症に関する市民意識アンケート調査	21
○	回答者の状況について	21
○	認知症について	23
○	認知症サポーター養成講座について	27
○	認知症対策全般について	28
3	栃木県認知症の人と介護者の会アンケート調査	29
○	認知症介護について	29
○	認知症対策全般について	40
4	医療機関アンケート調査	41
○	医療機関の状況	41
○	認知症の診断・治療について	43
○	介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携について	44
○	地域包括支援センターとの連携について	47
○	認知症対策全般について	50
5	医療機関（歯科診療機関）アンケート調査	51
○	歯科診療機関の状況	51
○	認知症について	52
○	介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携について	53

○ 地域包括支援センターとの連携について .....	56
○ 認知症対策全般について .....	60
6 介護支援事業者アンケート調査 .....	61
○ 介護支援事業者の状況 .....	61
○ 認知症のサービス利用者について .....	63
○ 医療機関との連携について .....	66
○ 地域包括支援センターとの連携について .....	70
○ 認知症対策全般について .....	74
7 地域包括支援センターアンケート調査 .....	75
○ 認知症の対応について .....	75
○ 医療機関との連携について .....	76
○ 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携について .....	80
○ 認知症対策全般について .....	83
8 認知症地域支援体制構築等推進事業モデル地区別調査結果 .....	84
○ 認知症について .....	84
○ 認知症介護について .....	89
○ 認知症サポーター養成講座について .....	112
○ 認知症対策全般について .....	113

## I 調査の概要

### 1 調査の目的

認知症高齢者等対策の検討及び認知症地域支援体制構築等推進事業を進めるにあたり、認知症高齢者・介護者の意識・生活状況や、若年層の認知症に対する意識、医療機関等における認知症対応の状況などを把握し、本市の認知症対策の課題の整理に向けた参考資料とする。

### 2 調査の種類

#### (1) 高齢者のいる世帯アンケート調査

ア 目的 認知症高齢者の介護等に関する状況把握

イ 対象者 市内3モデル地区（西・桜地区、古里地区、横川地区）在住の65歳以上高齢者がいる世帯の世帯主（2,000世帯）

ウ 調査項目

・ 認知症に関する認識など
・ 認知症高齢者・介護者の状況 (主な相談先・介護者、介護保険サービスの利用状況など)
・ 認知症高齢者や介護者に必要な支援
・ 認知症サポーター養成講座の受講希望
・ 認知症対策に関する意見

#### (2) 市民意識アンケート調査

ア 目的 認知症に関する一般的な理解等に関する状況把握

イ 対象者 市内在住の20歳以上64歳以下の市民（2,000人）

ウ 調査項目

・ 認知症に関する認識など
・ 認知症に関する相談先など
・ 認知症サポーター養成講座の受講希望
・ 認知症対策に関する意見

#### (3) 栃木県認知症の人と介護者の会アンケート調査

ア 目的 認知症高齢者の介護等に関する状況把握

イ 対象者 市内在住の栃木県認知症の人と介護者の会会員 79名

ウ 調査項目

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症高齢者・介護者の状況 (主な相談先・介護者, 介護保険サービスの利用状況など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症高齢者や介護者に必要な支援</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症対策に関する意見</li> </ul>

(4) 医療機関アンケート調査 (医師)

ア 目的 認知症診療, 介護保険や地域包括支援センターとの連携に関する状況把握

イ 対象者 市内の病院・診療所 (小児科単科を除く) (401箇所)

ウ 調査項目

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の診断・治療の実施状況など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護支援専門員 (ケアマネジャー) との連携 (連携内容, 満足度, 必要性など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センターとの連携 (連携内容, 満足度, 必要性など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症対策に関する意見</li> </ul>

(5) 医療機関アンケート調査 (歯科医師)

ア 目的 認知症と口腔ケア, 介護保険や地域包括支援センターとの連携に関する状況把握

イ 対象者 市内の歯科 (297箇所)

ウ 調査項目

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症高齢者の受診状況, 口腔ケアなど</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護保険との連携 (連携内容, 満足度, 必要性など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センターとの連携 (連携内容, 満足度, 必要性など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症対策に関する意見</li> </ul>

(6) 介護支援事業者アンケート調査

ア 目的 認知症介護支援, 医療機関や地域包括支援センターとの連携に関する状況把握

イ 対象者 市内の介護支援事業者 (111事業者)

ウ 調査項目

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の介護保険サービス利用者の状況 (利用者数, 利用サービス, 困難事例の相談先など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関との連携について (連携内容, 満足度, 必要性など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センターとの連携について (連携内容, 満足度, 必要性など)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症対策に関する意見</li> </ul>

(7) 地域包括支援センターアンケート調査

ア 目的 認知症に関する地域支援，医療機関や介護支援事業者との連携に関する状況把握

イ 対象者 市内の全地域包括支援センター（25箇所）

ウ 調査項目

・ 認知症に関する相談件数，困難事例の相談先など
・ 医療機関との連携について（連携内容，満足度，必要性など）
・ 介護支援専門員との連携について（連携内容，満足度，必要性など）
・ 認知症対策に関する意見

3 調査方法 郵送による配布・回収

4 調査期間 平成22年1月22日（金）から2月4日（木）

5 回収結果

調査名称	対象者数等	回収件数	回収率
高齢者のいる世帯アンケート調査	2,000 世帯	978 世帯	48.9%
認知症に関する市民意識アンケート調査	2,000 人	896 人	44.8%
認知症の人と介護者の会アンケート調査	79 人	43 人	54.4%
医療機関アンケート調査	401 機関	196 機関	48.9%
歯科診療機関アンケート調査	297 機関	200 機関	67.3%
介護支援事業者アンケート調査	111 事業者	76 事業者	68.5%
地域包括支援センターアンケート調査	25 センター	25 センター	100.0%
			49.1%

6 集計上の注意事項

集計値は，原則として回答数の合計を100とした場合の構成比で，小数点第2位以下を四捨五入した値で示している。このため，内訳の合計が100.0%にならない場合がある。

なお，属性によってはサンプル数が少ないことがあるため，当該属性の集計結果をみる際には，サンプル数が少ないことに留意する必要がある。

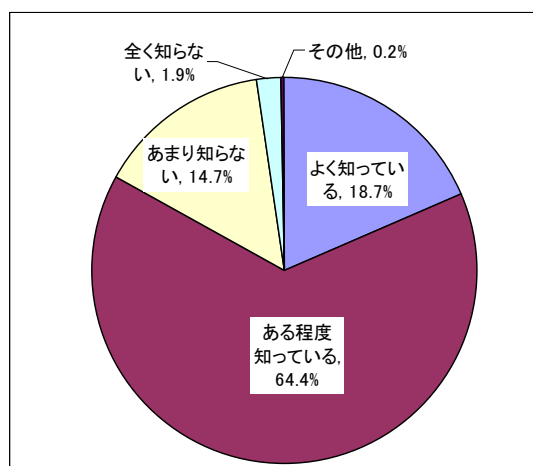
## II 調査結果

### 1 高齢者のいる世帯アンケート調査

#### ○ 認知症について

【問1】あなたは、「認知症」についてどの程度知っていますか。(1つに○)

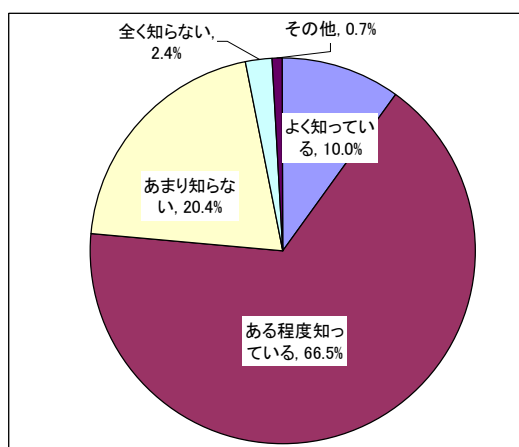
選択項目	件数	構成比
よく知っている	176	18.7%
ある程度知っている	605	64.4%
あまり知らない	138	14.7%
全く知らない	18	1.9%
その他	2	0.2%
合計	939	100.0%



認知症についてどの程度知っているかについては、「ある程度知っている」(64.4%)との回答が最も多くなっています。次いで「よく知っている」(18.7%),「あまり知らない」(14.7%)の順になっています。また、「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計は83.1%となっています。

【問2】あなたのまわりでは、「認知症」についてどの程度知っているとおもいますか。(1つに○)

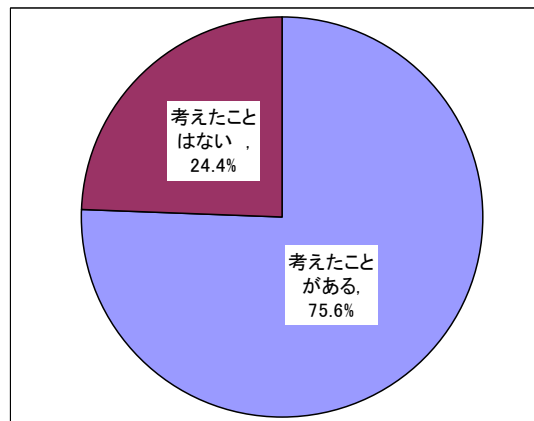
選択項目	件数	構成比
よく知っている	97	10.0%
ある程度知っている	642	66.5%
あまり知らない	197	20.4%
全く知らない	23	2.4%
その他	7	0.7%
合計	966	100.0%



回答者のまわりでは「認知症」についてどの程度知っているとについては、「ある程度知っている」(66.5%)との回答が最も多くなっています。次いで「あまり知らない」(20.4%),「よく知っている」(10.0%)の順になっています。また、「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計は76.5%となっています。

【問3】 あなたは、今までに、あなた自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいの、考えたことがありますか。(1つに○)

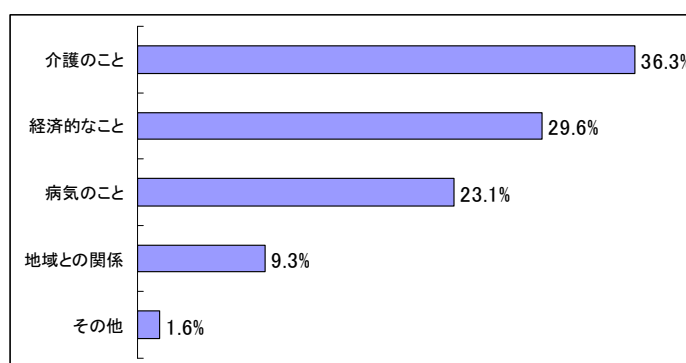
選択項目	件数	構成比
考えたことがある	711	75.6%
考えたことはない	230	24.4%
合計	941	100.0%



回答者自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいか、考えたことがあるかについては、「考えたことがある」との回答が75.6%となっています。

【問4】 問3で「考えたことがある」と答えた方にお聞きします。どのようなことを考えましたか。(複数回答可)

選択項目	件数	構成比
介護のこと	650	36.3%
経済的なこと	529	29.6%
病気のこと	414	23.1%
地域との関係	167	9.3%
その他	29	1.6%
合計	1,789	100.0%



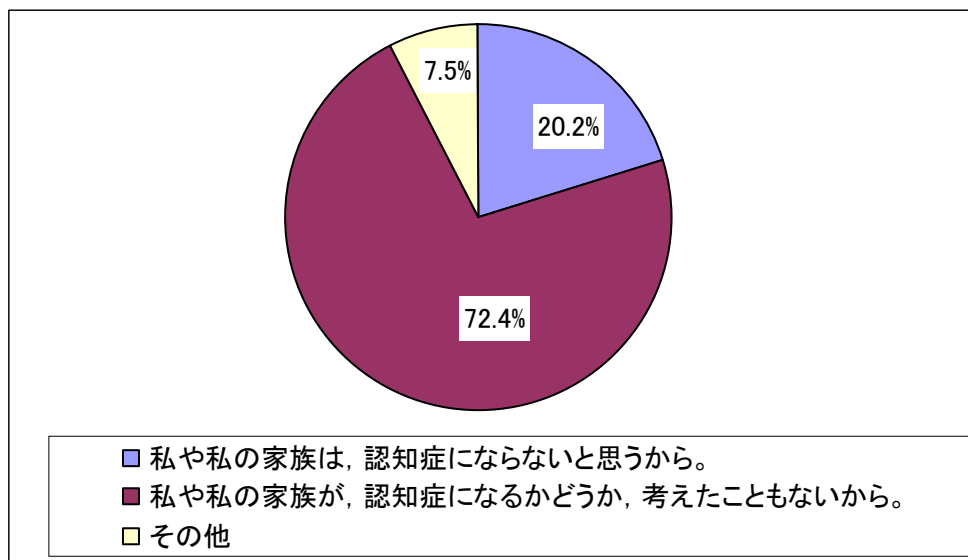
【問3】の「考えたことがある」主な内容については、「介護のこと」(36.3%)との回答が最も多くなっています。次いで「経済的なこと」(29.6%)、「病気のこと」(23.1%)の順になっています。

なお、「その他」としては、「家族への迷惑」、「一人暮らし」、「介護保険施設の利用」という回答がありました。



【問5】 問3で「考えたことはない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。(1つに○)

選択項目	件数	構成比
私や私の家族は、認知症にならないと思うから	46	20.2%
私や私の家族が、認知症になるかどうか、考えたこともないから	165	72.4%
その他	17	7.5%
合計	228	100.0%



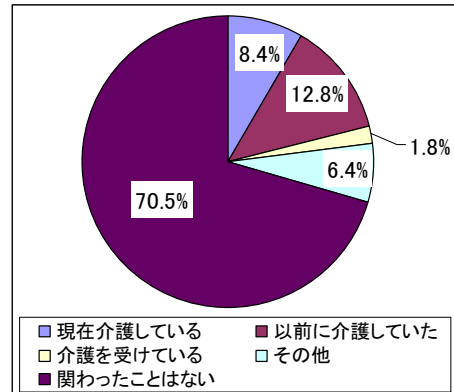
回答者自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいのか「考えたことがない」と答えた主な理由については、「私や私の家族が、認知症になるかどうか、考えたこともないから」との回答が最も多く、72.4%となっています。

なお、「その他」としては、「認知症になった家族がいない」や「認知症について実感がない」という回答がありました。

○ 認知症介護について

【問 6】 認知症介護の状況

選択項目	件数	構成比
現在介護している	64	8.4%
以前に介護していた	98	12.8%
介護を受けている	14	1.8%
その他	49	6.4%
関わったことはない	539	70.5%
合計	764	100.0%



認知症介護の状況については、「関わったことはない」（70.5%）との回答が最も多くなっています。次いで「以前に介護していた」（12.8%）、「現在介護している」（8.4%）の順になっています。なお、「その他」としては、「家族が認知症だった」や「身近に認知症の人がいる」、「職業上の関わり」という回答がありました。

【問 7】 認知症のご本人の状況

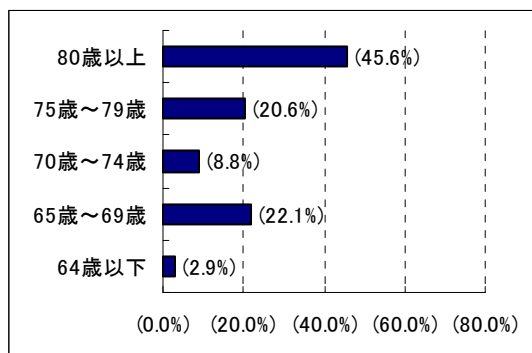
(1) 性別

選択項目	件数	構成比
男性	71	34.6%
女性	134	65.4%
合計	205	100.0%

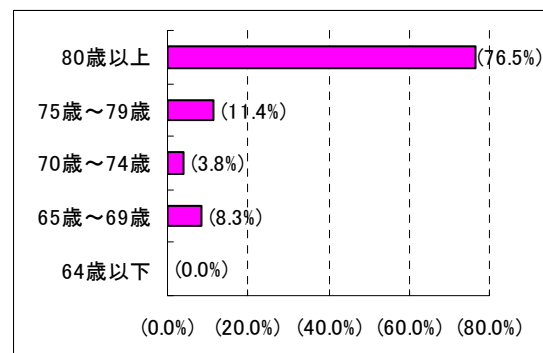
(2) 年齢

選択項目	件数	構成比
64歳以下	2	0.9%
65歳～69歳	29	13.3%
70歳～74歳	11	5.0%
75歳～79歳	33	15.1%
80歳以上	143	65.6%
合計	218	100.0%

[表：性別・年齢階層別の状況（男性）]



[表：性別・年齢階層別の状況（女性）]

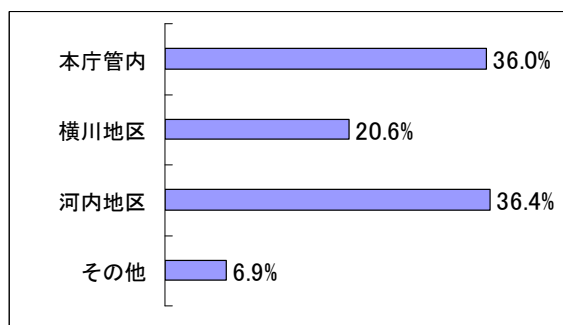


性別については、男性が34.6%、女性が65.4%となっています。また、年齢については、「80歳以上」（65.6%）が最も多く、次いで「75歳～79歳以上」（15.1%）、「65歳～69歳」（13.3%）の順になっています。

なお、男女別・年齢階層別の状況でみると、男女ともに80歳以上の割合が最も高くなっています。

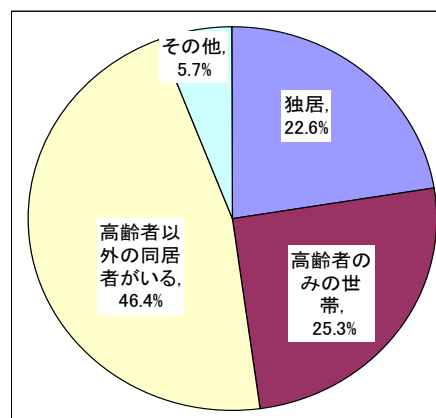
(3) 居住地域

選択項目	件数	構成比
本庁管内	89	36.0%
横川地区	51	20.6%
河内地区	90	36.4%
その他	17	6.9%
合計	247	100.0%

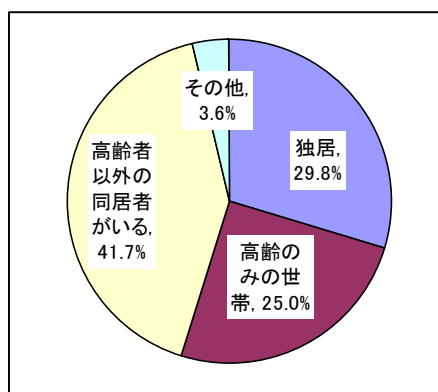


(4) 世帯

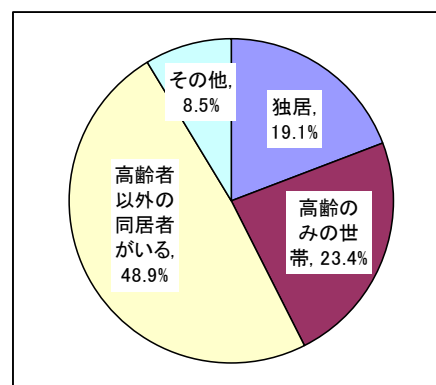
選択項目	件数	構成比
独居	59	22.6%
高齢者のみの世帯	66	25.3%
高齢者以外の同居者がいる	121	46.4%
その他	15	5.7%
合計	261	100.0%



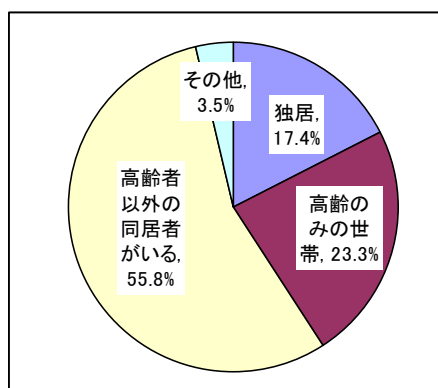
[本庁管内]



[横川地区]



[河内地区]



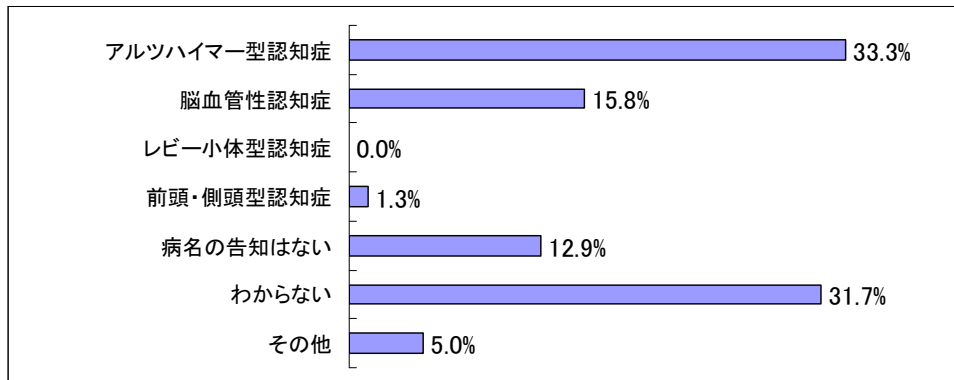
世帯の状況については、「高齢者以外の同居者がいる」(46.4%)との回答が最も多くなっています。

次いで「高齢者のみの世帯」(25.3%)、「独居」(22.6%)の順になっています。

また、モデル地区別にみると、本庁管内については、2地区に比べ「独居」の割合が最も高くなっており、河内地区については、2地区に比べ「高齢者以外の同居者がいる」割合が半数を超える結果となっています。

(5) 認知症の原因となる病名

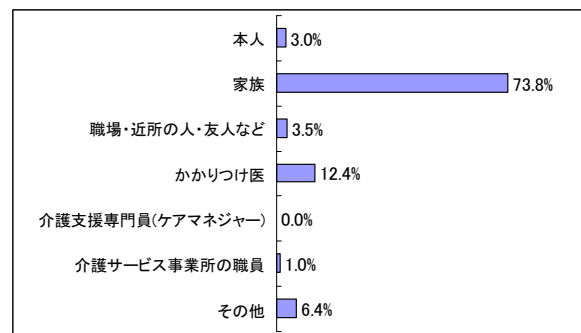
選択項目	件数	構成比
アルツハイマー型認知症	80	33.3%
脳血管性認知症	38	15.8%
レビー小体型認知症	0	0.0%
前頭・側頭型認知症	3	1.3%
病名の告知はない	31	12.9%
わからない	76	31.7%
その他	12	5.0%
合計	240	100.0%



認知症の原因となる病名については、「アルツハイマー型認知症」（33.3%）との回答が最も多くなっています。次いで「わからない」（31.7%）, 「脳血管性認知症」（15.8%）の順になっていますが, 「わからない」と「病名の告知はない」（12.9%）との回答を合計すると, 約45%が原因となる病名がわからないという結果になっています。なお, 「その他」としては, 「加齢によるもの」, 「パーキンソン病」, 「うつ病」という意見がありました。

【問8】認知症のご本人の変化に, 誰が最初に気づきましたか。(1つに○)

選択項目	件数	構成比
本人	6	3.0%
家族	149	73.8%
職場・近所の人・友人など	7	3.5%
かかりつけ医	25	12.4%
介護支援専門員(ケアマネジャー)	0	0.0%
介護サービス事業所の職員	2	1.0%
その他	13	6.4%
合計	202	100.0%

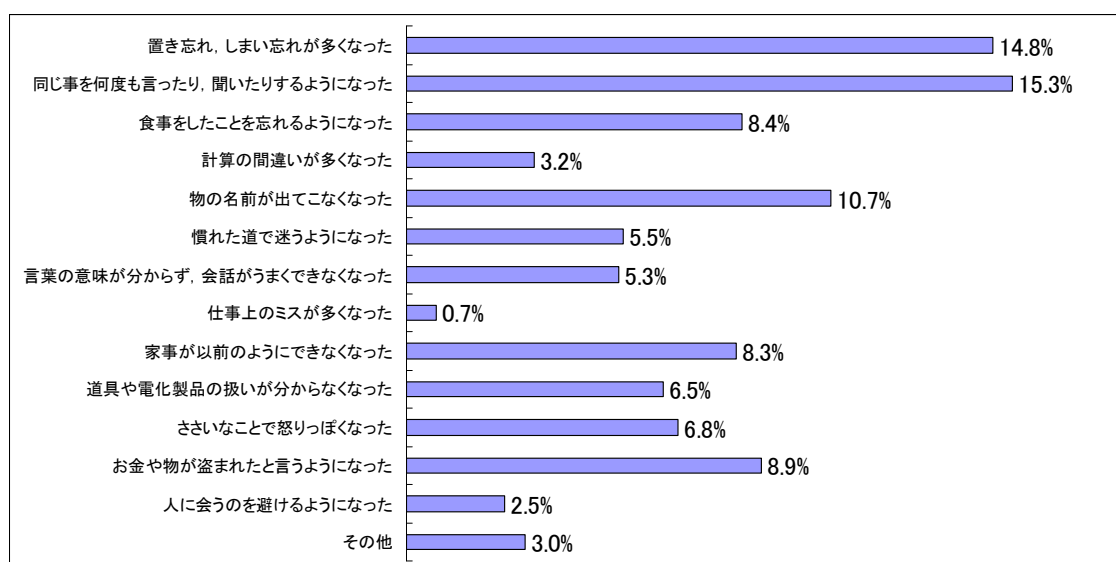


本人の変化に最初に気がついた方については, 「家族」（73.8%）との回答が最も多くなっています。次いで「かかりつけ医」（12.4%）, 「その他」（6.4%）の順になっています。

なお, 「その他」としては, 「親族」という回答がありました。

【問9】 認知症のご本人の家族が、認知症ではないかと気付いた、あるいは不安に思うきっかけとなったのは、どのようなこと（変化）でしたか。（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
置き忘れ、しまい忘れが多くなった	119	14.8%
同じ事を何度も言ったり、聞いたりするようになった	123	15.3%
食事をしたことを忘れるようになった	68	8.4%
計算の間違いが多くなった	26	3.2%
物の名前が出てこなくなった	86	10.7%
慣れた道で迷うようになった	44	5.5%
言葉の意味が分からず、会話がうまくできなくなった	43	5.3%
仕事上のミスが多くなった	6	0.7%
家事が以前のようにできなくなった	67	8.3%
道具や電化製品の扱いが分からなくなった	52	6.5%
ささいなことで怒りっぽくなった	55	6.8%
お金や物が盗まれたと言うようになった	72	8.9%
人に会うのを避けるようになった	20	2.5%
その他	24	3.0%
合計	805	100.0%

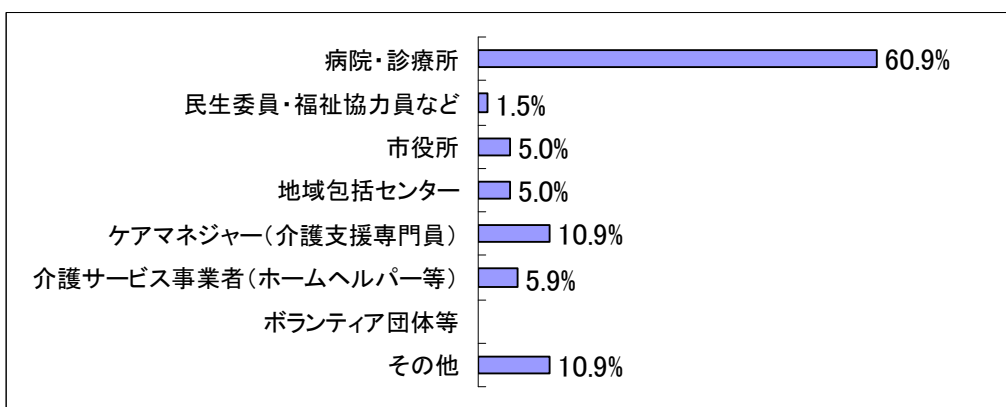


認知症のご本人の家族が認知症ではないかと気付いた、あるいは不安に思うきっかけについては、「同じ事を何度も言ったり、聞いたりするようになった」（15.3%）との回答が最も多くなっています。次いで「置き忘れ、しまい忘れが多くなった」（14.8%）、「物の名前が出てこなくなった」（10.7%）の順になっています。

なお、「その他」としては、「服薬の乱れ」や「失禁」という回答がありました。

【問10】 問9の変化に気づいたときに、家族、親戚、知人以外で最初に相談（または受診）したのは誰（どこ）ですか。（1つに○）

選択項目	件数	構成比
病院・診療所	123	60.9%
民生委員・福祉協力員など	3	1.5%
市役所	10	5.0%
地域包括センター	10	5.0%
ケアマネジャー(介護支援専門員)	22	10.9%
介護サービス事業者(ホームヘルパー等)	12	5.9%
ボランティア団体等	0	0.0%
その他	22	10.9%
合計	202	100.0%

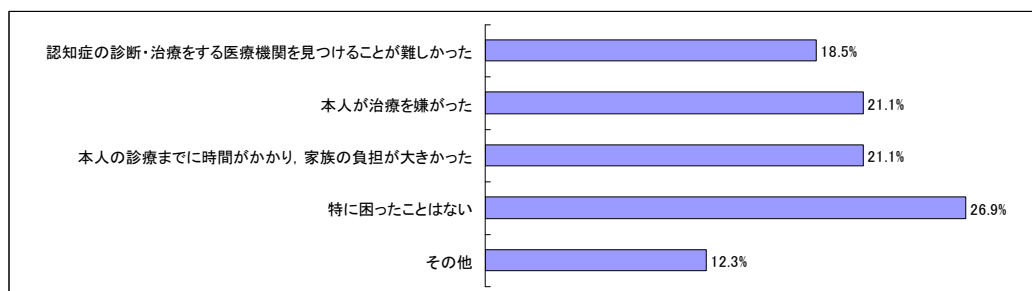


【問9】の変化に気づいたときに、家族、親戚、知人以外で最初に相談（または受診した人や場所については、「病院・診療所」（60.9%）との回答が最も多くなっています。次いで「その他」、「ケアマネジャー」が10.9%と横並びになっています。

なお、「その他」としては、「相談しなかった」という回答が多くなっています。

【問11】 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、どのようなことに困りましたか。（複数回答可）

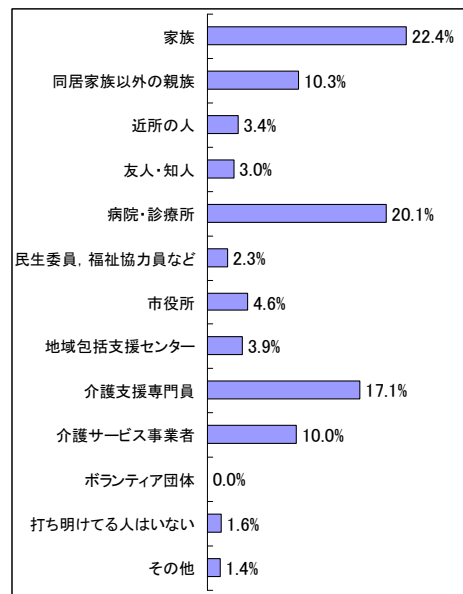
選択項目	件数	構成比
認知症の診断・治療をする医療機関を見つけることが難しかった	42	18.5%
本人が治療を嫌がった	48	21.1%
本人の診療までに時間がかかり、家族の負担が大きかった	48	21.1%
特に困ったことはない	61	26.9%
その他	28	12.3%
合計	227	100.0%



認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったことについては、「特に困ったことはない」（26.9%）との回答が最も多くなっています。次いで「本人の診療までに時間がかかり、家族の負担が大きかった」、「本人が受診を嫌がった」が21.1%と横並びになっています。なお、「その他」としては、「医療機関を受診していない」という回答が多くなっています。

【問 12】 認知症の診断後、認知症のご本人への必要な支援について、どなたに相談していますか。（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
家族	98	22.4%
同居家族以外の親族	45	10.3%
近所の人	15	3.4%
友人・知人	13	3.0%
病院・診療所	88	20.1%
民生委員、福祉協力員など	10	2.3%
市役所	20	4.6%
地域包括支援センター	17	3.9%
介護支援専門員	75	17.1%
介護サービス事業者	44	10.0%
ボランティア団体	0	0.0%
打ち明けてる人はいない	7	1.6%
その他	6	1.4%
合計	438	100.0%

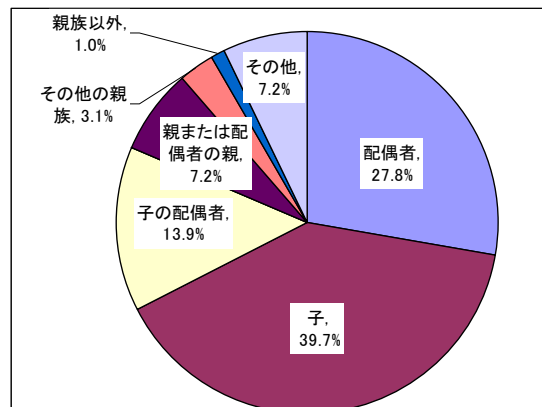


本人への必要な支援についての相談先については、「家族」（22.4%）との回答が最も多くなっています。次いで「病院・診療所」（20.1%）、「介護支援専門員」（17.1%）の順になっています。

【問 13】 主な介護者の属性

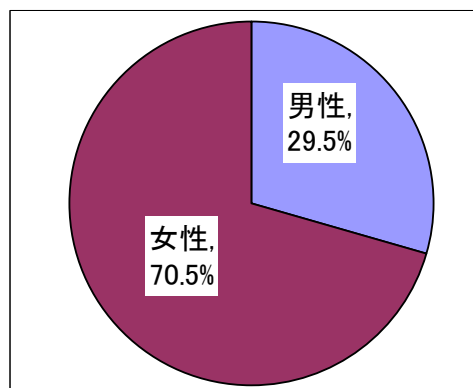
(1) 主な介護者

選択項目	件数	構成比
配偶者	54	27.8%
子	77	39.7%
子の配偶者	27	13.9%
孫	0	0.0%
親または配偶者の親	14	7.2%
その他の親族	6	3.1%
親族以外	2	1.0%
その他	14	7.2%
合計	194	100.0%



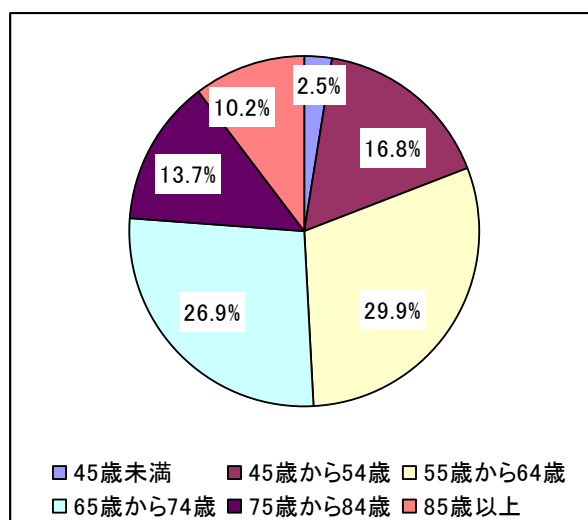
(2) 性別

選択項目	件数	構成比
男性	57	29.5%
女性	136	70.5%
合計	193	100.0%



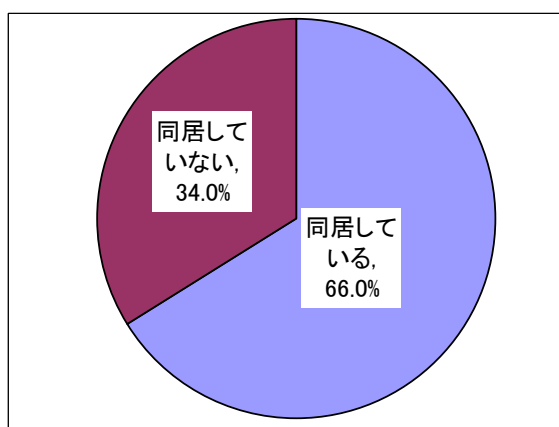
(3) 年代

選択項目	件数	構成比
45歳未満	5	2.5%
45歳から54歳	33	16.8%
55歳から64歳	59	29.9%
65歳から74歳	53	26.9%
75歳から84歳	27	13.7%
85歳以上	20	10.2%
合計	197	100.0%



(4) 同居の有無

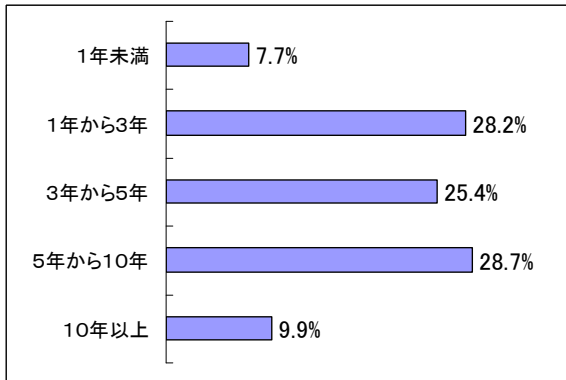
選択項目	件数	構成比
同居している	130	66.0%
同居していない	67	34.0%
合計	197	100.0%





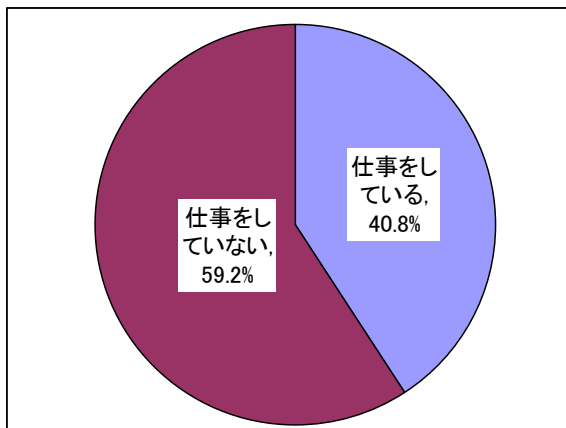
(5) 介護期間

選択項目	件数	構成比
1年未満	14	7.7%
1年から3年	51	28.2%
3年から5年	46	25.4%
5年から10年	52	28.7%
10年以上	18	9.9%
合計	181	100.0%



(6) 仕事の有無

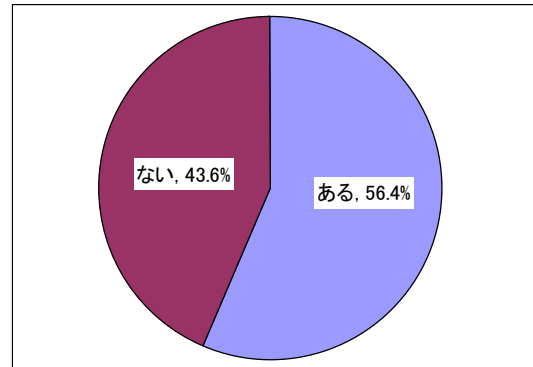
選択項目	件数	構成比
仕事をしている	73	40.8%
仕事をしていない	106	59.2%
合計	179	100.0%



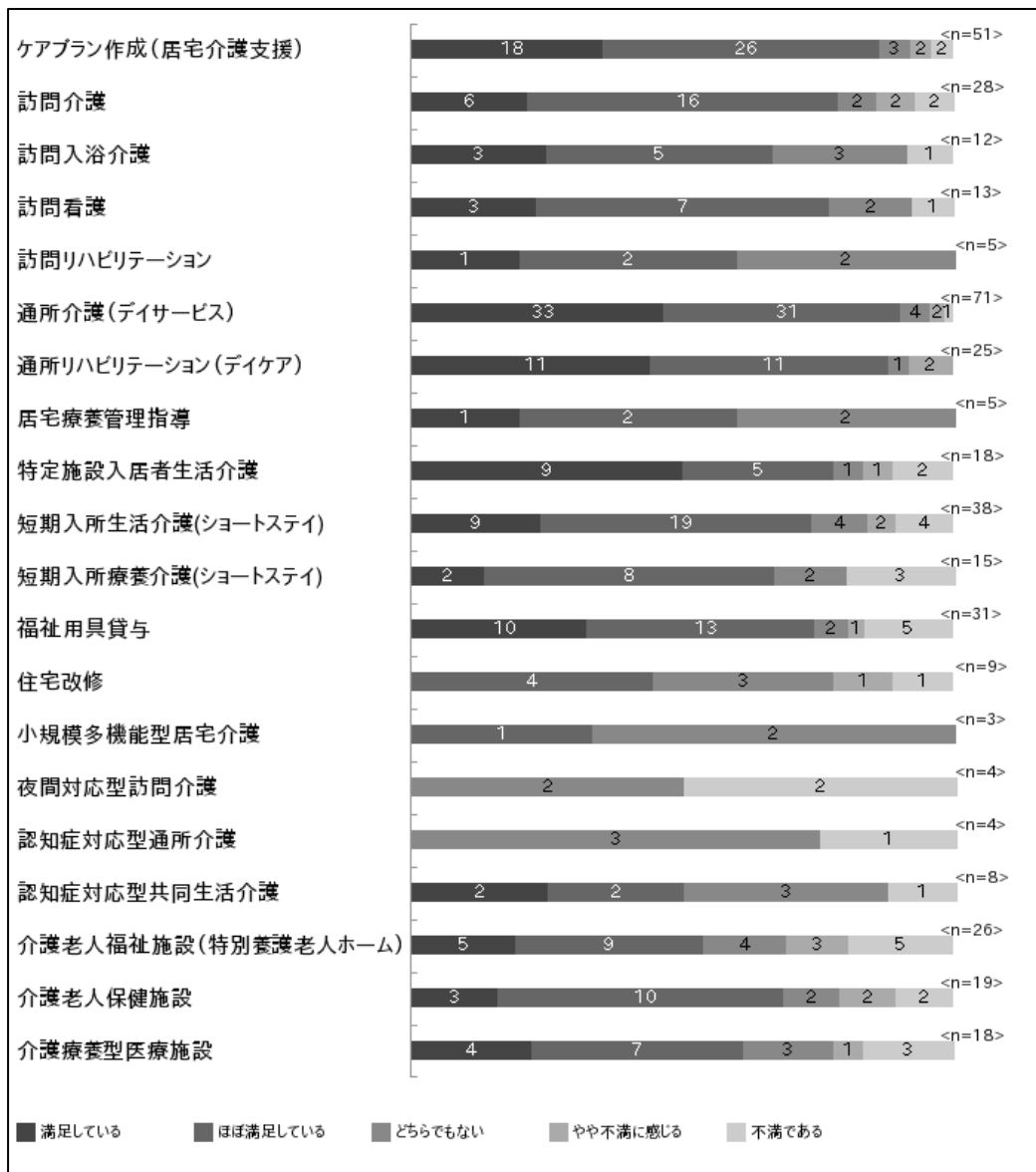
- ・ 主な介護者の属性については、「子」(39.7%)との回答が最も多く、次いで「配偶者」(27.8%)、「子の配偶者」(13.9%)の順になっています。
- ・ 主な介護者の性別については、「男性」が29.5%、「女性」が70.5%となっており、男性に対し女性の割合が2倍となっています。
- ・ 主な介護者の年代については、「55歳から64歳」(29.9%)との回答が最も多く、次いで「65歳から74歳」(26.9%)、「45歳から54歳」(16.8%)の順になっています。
- ・ 同居の有無については、「同居している」との回答が66.0%となっています。
- ・ 介護期間については、「5年から10年」(28.7%)との回答が最も多く、次いで「1年から3年」(28.2%)の順になっています。
- ・ 仕事の有無については、「仕事をしていない」が59.2%、「仕事をしている」が40.8%となっており、「仕事をしていない」が「仕事をしている」を18.4%上回る結果となっています。

【問 14】 認知症のご本人は、介護保険サービスを利用したことがありますか。

選択項目	件数	構成比
ある	106	56.4%
ない	82	43.6%
合計	188	100.0%



【問 15】 問 14 で「ある」と答えた方に質問します。利用した介護サービスの種類と満足度について、あてはまるものに○をつけてください。(複数回答可)



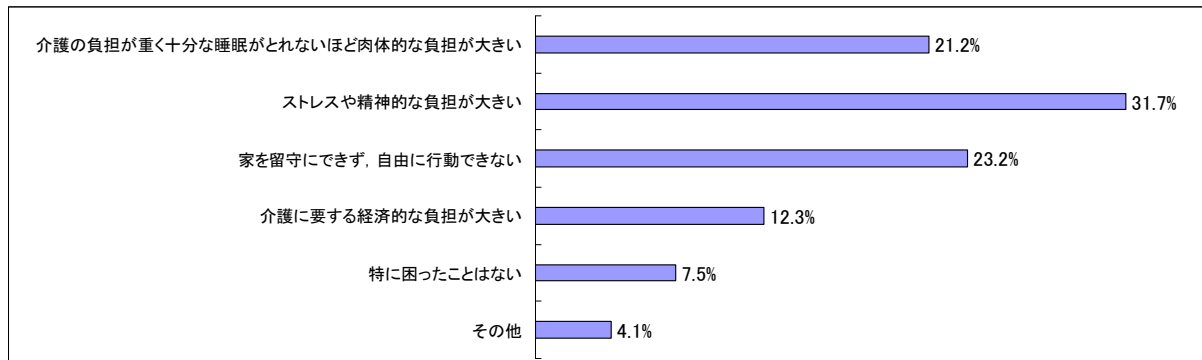
利用したことがある介護保険サービスのうち、「満足している」と回答した方の割合が多いサービスとしては、通所介護(デイサービス)、通所リハビリテーション(デイケア)、特定施設入居者生活介護となっています。

また、「満足している」と「ほぼ満足している」を合計した場合でも、通所介護・通所リハビリテーションの割合が非常に高くなっています。

一方、「やや不満を感じる」や「不満である」と回答された方が多いサービスとしては、地域密着型サービスが多い結果となっています。

【問 16】 認知症のご本人の介護について、主な介護者はどのようなことに困りましたか。(複数回答可)

選択項目	件数	構成比
介護の負担が重く十分な睡眠がとれないほど肉体的な負担が大きい	62	21.2%
ストレスや精神的な負担が大きい	93	31.7%
家を留守にできず、自由に行動できない	68	23.2%
介護に要する経済的な負担が大きい	36	12.3%
特に困ったことはない	22	7.5%
その他	12	4.1%
合計	293	100.0%

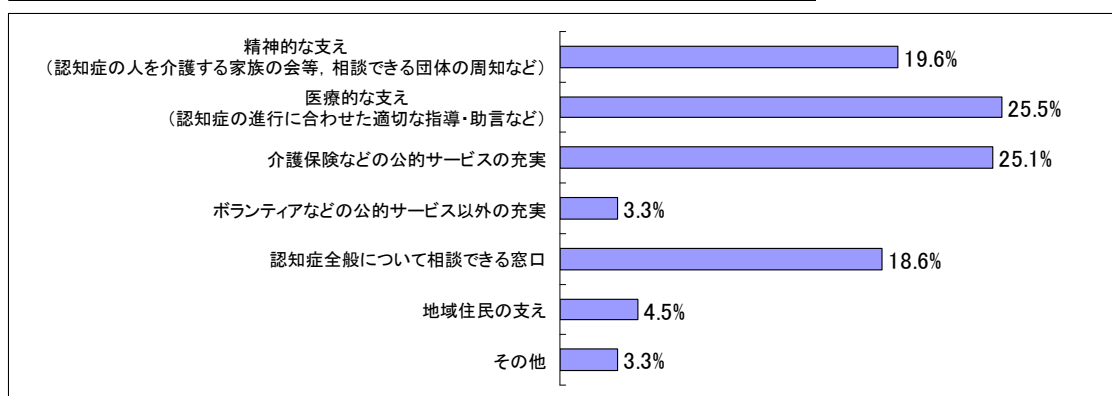


主な介護者の困りごととしては、「ストレスや精神的な負担が大きい」(31.7%)との回答が最も多く、次いで「家を留守にできず、自由に行動できない」(23.2%)、「介護の負担が重く十分な睡眠がとれないなど、肉体的な負担が大きい」(21.2%)の順になっています。

なお、「その他」としては、「遠距離介護の負担」という回答がありました。

【問 17】 認知症のご本人の介護について、必要と思うことはありますか。（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
精神的な支え (認知症の人を介護する家族の会等、相談できる団体の周知など)	82	19.6%
医療的な支え (認知症の進行に合わせた適切な指導・助言など)	107	25.5%
介護保険などの公的サービスの充実	105	25.1%
ボランティアなどの公的サービス以外の充実	14	3.3%
認知症全般について相談できる窓口	78	18.6%
地域住民の支え	19	4.5%
その他	14	3.3%
合計	419	100.0%



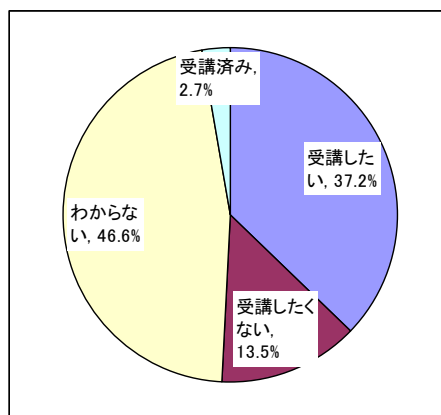
認知症のご本人の介護について必要と思うことについては、「医療的な支え」との回答が25.5%と最も多くなっています。次いで「介護保険などの公的サービスの充実」（25.1%）、「精神的な支え」（19.6%）、「認知症全般について相談できる窓口」（18.6%）の順になっています。

なお、「その他」としては、「家族との関係」、「認知症に対する地域の理解」という回答がありました。

○ 認知症サポーター養成講座について

【問 18】 あなたは、認知症サポーターの養成講座があれば、受講したいと思いますか。  
(1つに○)

選択項目	件数	構成比
受講したい	287	37.2%
受講したくない	104	13.5%
わからない	359	46.6%
受講済み	21	2.7%
合計	771	100.0%

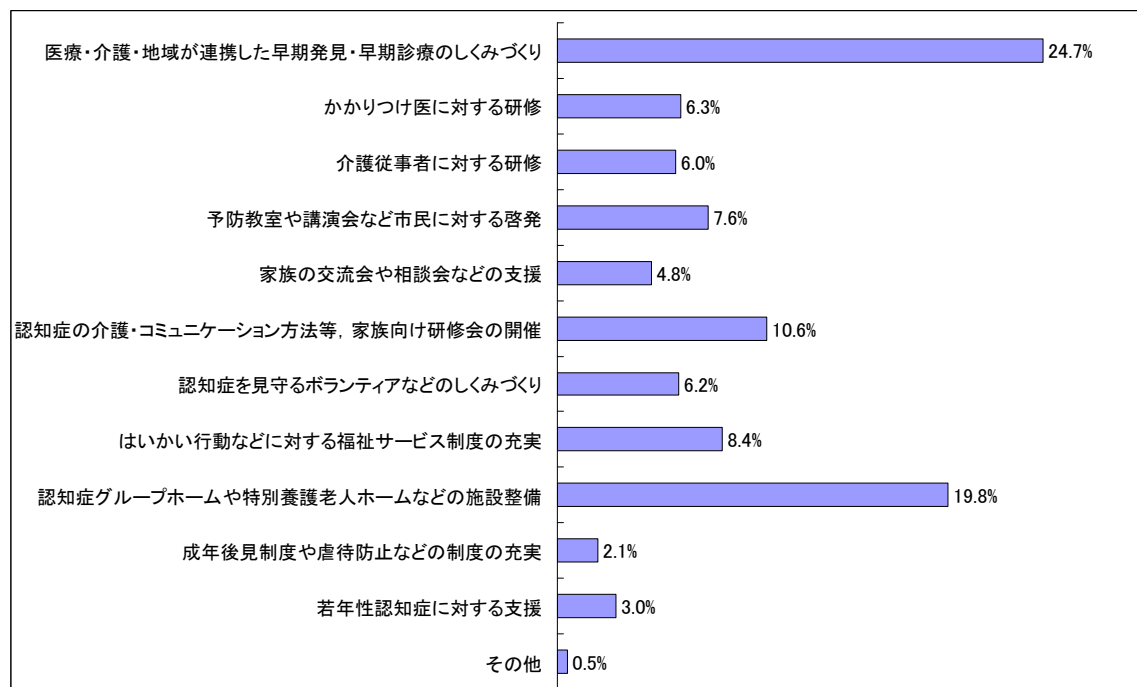


認知症サポーター養成講座については、「わからない」と回答した方が46.6%と最も高くなっています。次いで「受講したい」が37.2%となっています。なお、「受講済み」は2.7%となっています。

○ 認知症対策全般について

【問 19】 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。（3つに○）

選択項目	件数	構成比
医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療のしくみづくり	597	24.7%
かかりつけ医に対する研修	152	6.3%
介護従事者に対する研修	146	6.0%
予防教室や講演会など市民に対する啓発	185	7.6%
家族の交流会や相談会などの支援	115	4.8%
認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催	257	10.6%
認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり	149	6.2%
はいかい行動などに対する福祉サービス制度の充実	203	8.4%
認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備	480	19.8%
成年後見制度や虐待防止などの制度の充実	50	2.1%
若年性認知症に対する支援	72	3.0%
その他	13	0.5%
合計	2,419	



今後、認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」（24.7%）との回答が最も多くなっています。次いで「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」（19.8%）、「認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催」（10.6%）の順になっています。

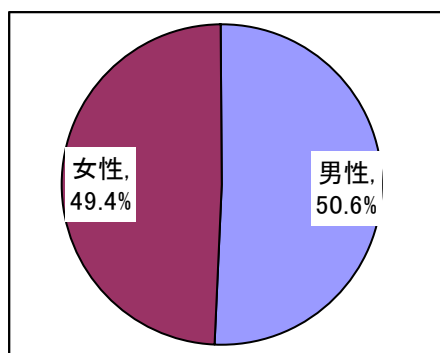
なお、「その他」としては、や「ひとり暮らしへの支援」や「介護従事者への支援」という回答がありました。

## 2 認知症に関する市民意識アンケート調査

### ○ 回答者の状況について

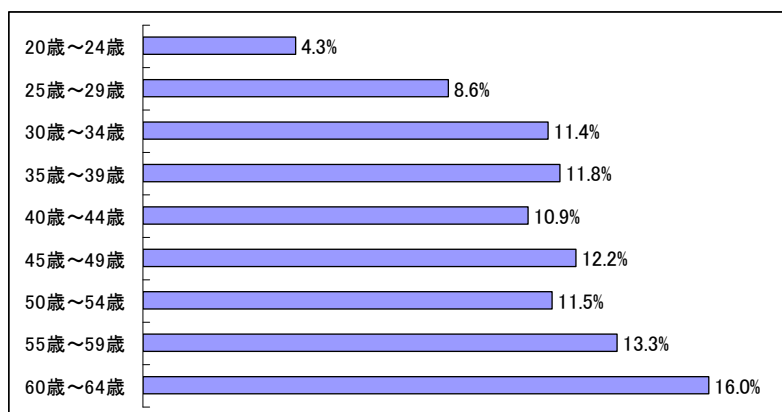
#### (1) 性別

選択項目	件数	構成比
男性	446	50.6%
女性	436	49.4%
合計	882	100.0%



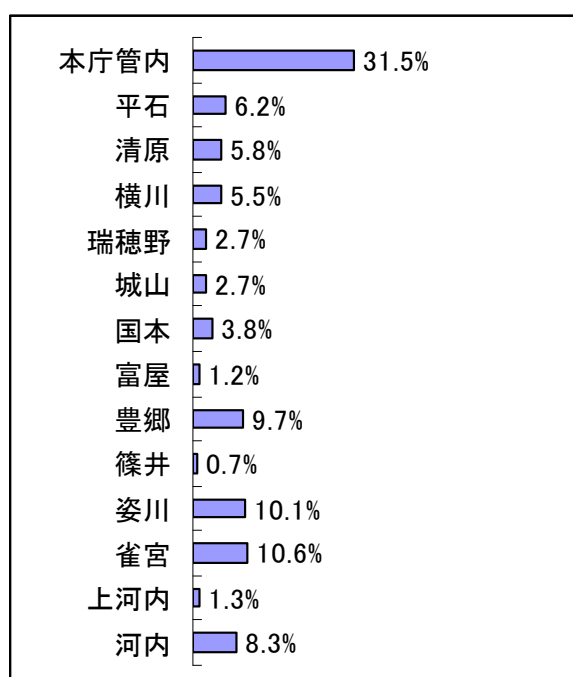
#### (2) 年齢

選択項目	件数	構成比
20歳～24歳	38	4.3%
25歳～29歳	76	8.6%
30歳～34歳	101	11.4%
35歳～39歳	104	11.8%
40歳～44歳	96	10.9%
45歳～49歳	108	12.2%
50歳～54歳	102	11.5%
55歳～59歳	118	13.3%
60歳～64歳	141	16.0%
合計	884	100.0%



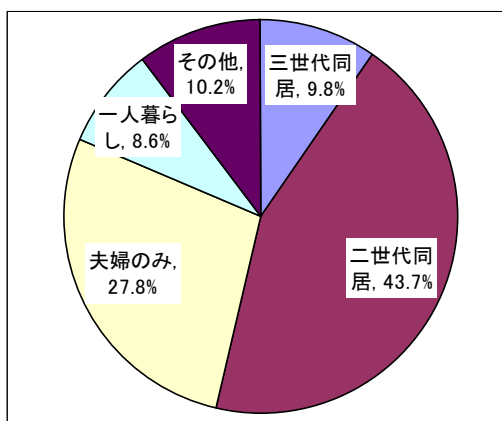
#### (3) 居住地域

選択項目	件数	構成比
本庁管内	268	31.5%
平石	53	6.2%
清原	49	5.8%
横川	47	5.5%
瑞穂野	23	2.7%
城山	23	2.7%
国本	32	3.8%
富屋	10	1.2%
豊郷	83	9.7%
篠井	6	0.7%
姿川	86	10.1%
雀宮	90	10.6%
上河内	11	1.3%
河内	71	8.3%
合計	852	100.0%



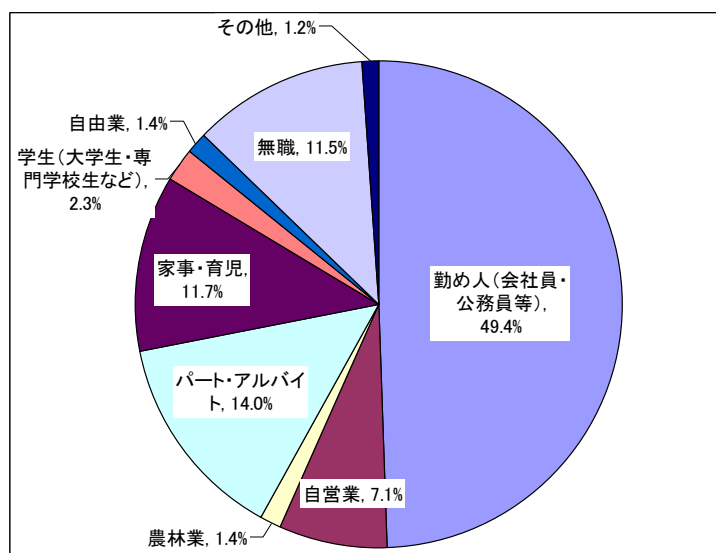
(4) 世帯

選択項目	件数	構成比
三世帯同居	86	9.8%
二世帯同居	382	43.7%
夫婦のみ	243	27.8%
一人暮らし	75	8.6%
その他	89	10.2%
合計	875	100.0%



(5) 職業

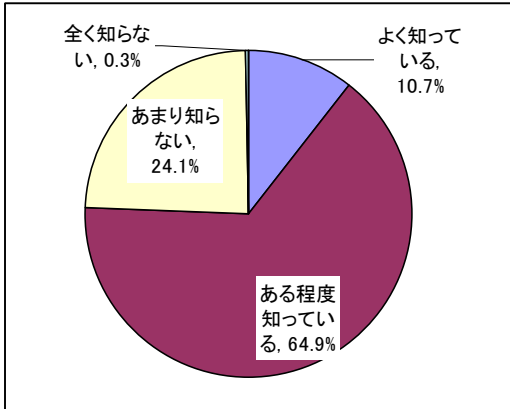
選択項目	件数	構成比
勤め人(会社員・公務員等)	437	49.4%
自営業	63	7.1%
農林業	12	1.4%
パート・アルバイト	124	14.0%
家事・育児	103	11.7%
学生(大学生・専門学校生など)	20	2.3%
自由業	12	1.4%
無職	102	11.5%
その他	11	1.2%
合計	884	100.0%



○ 認知症について

【問2】 あなたは、「認知症」についてどの程度知っていますか。(1つに○)

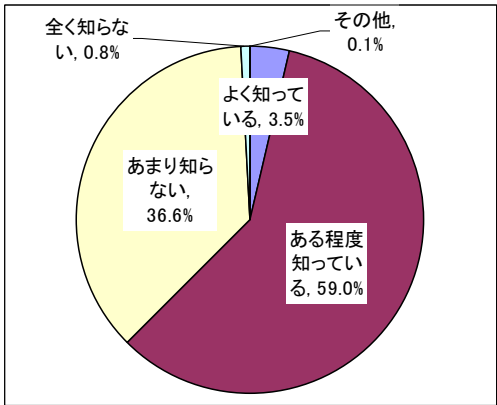
選択項目	件数	構成比
よく知っている	94	10.7%
ある程度知っている	571	64.9%
あまり知らない	212	24.1%
全く知らない	3	0.3%
その他	0	0.0%
合計	880	100.0%



認知症についてどの程度知っているかについては、「ある程度知っている」(64.9%)との回答が最も多くなっています。次いで「あまり知らない」(24.1%),「よく知っている」(10.7%)の順になっています。

【問3】 あなたのまわりでは、「認知症」についてどの程度知っているとおもいますか。(1つに○)

選択項目	件数	構成比
よく知っている	31	3.5%
ある程度知っている	518	59.0%
あまり知らない	321	36.6%
全く知らない	7	0.8%
その他	1	0.1%
合計	878	100.0%

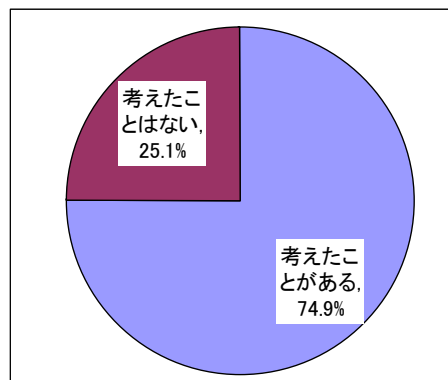


回答者のまわりでは「認知症」についてどの程度知っていると知っているかについては、「ある程度知っている」(59.0%)との回答が最も多くなっています。次いで「あまり知らない」(36.6%),「よく知っている」(3.5%)の順になっており、「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計は62.5%となっています。



【問4】 あなたは、今までに、あなた自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいのか、考えたことがありますか。（1つに○）

選択項目	件数	構成比
考えたことがある	651	74.9%
考えたことはない	218	25.1%
合計	869	100.0%

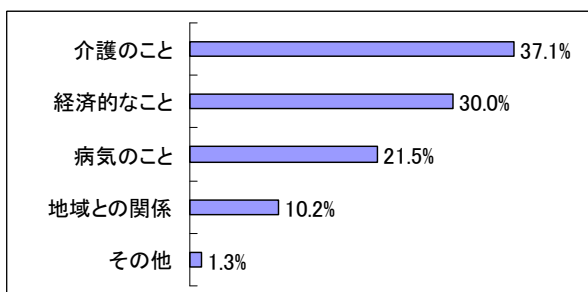


回答者自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいか、考えたことがあるかについては、「考えたことがある」との回答が74.9%となっています。

【問5】 問4で「考えたことがある」と答えた方にお聞きします。

どのようなことを考えましたか。（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
介護のこと	616	37.1%
経済的なこと	499	30.0%
病気のこと	357	21.5%
地域との関係	169	10.2%
その他	21	1.3%
合計	1,662	100.0%



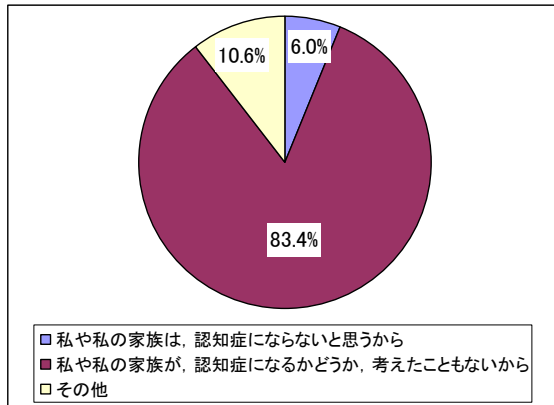
今までに、回答者自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいのか、「考えたことがある」と回答した方のうち、どのようなことを考えたかについては、「介護のこと」（37.1%）との回答が最も多くなっています。次いで「経済的なこと」（30.0%）、「病気のこと」（21.5%）の順になっています。

なお、「その他」としては、「家族へ迷惑をかけることへの不安」という回答が多くなっています。

【問6】 問4で「考えたことはない」と答えた方にお聞きします。

その理由は何ですか。あてはまるものに○をつけてください。(1つに○)

選択項目	件数	構成比
私や私の家族は、認知症にならないと思うから	13	6.0%
私や私の家族が、認知症になるかどうか、考えたこともないから	181	83.4%
その他	23	10.6%
合計	217	100.0%

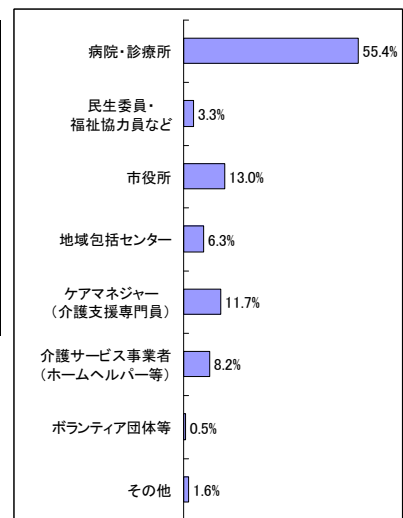


今までに、回答者自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいのか、「考えたことがない」と回答した方の主な理由については、「私や私の家族が、認知症になるかどうか、考えたこともないから」(83.4%)との回答が最も多くなっています。

なお、「その他」としては、「認知症になった家族がいない」や「認知症について実感が無い」という回答がありました。

【問7】 あなたは、あなたの身近な方に認知症の疑いがあるとき、まず、どこに相談すると思いますか。(複数回答可)

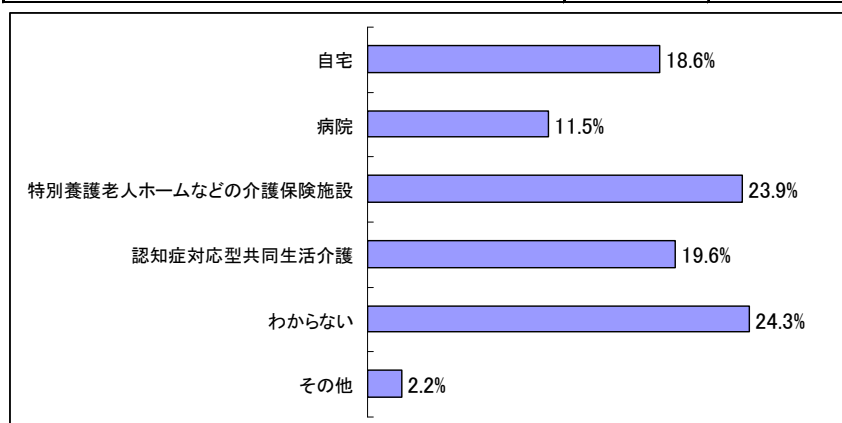
選択項目	件数	構成比
病院・診療所	747	55.4%
民生委員・福祉協力員など	44	3.3%
市役所	175	13.0%
地域包括センター	85	6.3%
ケアマネジャー(介護支援専門員)	158	11.7%
介護サービス事業者(ホームヘルパー等)	110	8.2%
ボランティア団体等	7	0.5%
その他	22	1.6%
合計	1,348	100.0%



主な相談先については、「病院・診療所」(55.4%)との回答が最も多くなっています。次いで「市役所」(13.0%)、「ケアマネジャー」(11.7%)の順になっています。

【問8】 もし、あなたご自身が認知症になったらしたら、どこで介護を受けたいと思いますか。(1つに○)

選択項目	件数	構成比
自宅	162	18.6%
病院	100	11.5%
特別養護老人ホームなどの介護保険施設	208	23.9%
認知症対応型共同生活介護	171	19.6%
わからない	212	24.3%
その他	19	2.2%
合計	872	100.0%

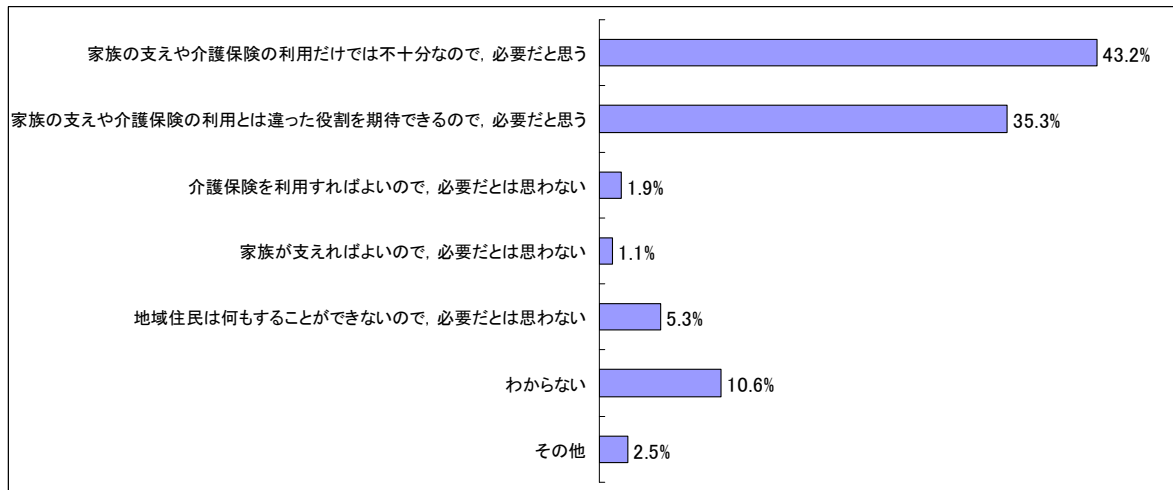


介護を受けたい場所については、「わからない」(24.3%)との回答が最も多くなっています。次いで「特別養護老人ホームなどの介護保険施設」(23.8%)、「認知症対応型共同生活介護」(19.6%)の順になっています。また、「自宅」と回答した方は18.6%となっており、認知症になった場合、自宅での介護よりも特別養護老人ホームや認知症対応型共同生活介護など施設介護を希望する回答が多くなっています。

なお、「その他」としては、「家族や自分にとって居心地の良い場所」という回答がありました。

【問9】 あなたは、認知症高齢者が生活するためには、地域住民の協力は必要だと思いますか。(1つに○)

選択項目	件数	構成比
家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う	380	43.2%
家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う	311	35.3%
介護保険を利用すればよいので、必要だとは思わない	17	1.9%
家族が支えればよいので、必要だとは思わない	10	1.1%
地域住民は何もすることができないので、必要だとは思わない	47	5.3%
わからない	93	10.6%
その他	22	2.5%
合計	880	100.0%



地域住民の協力については、「家族の支えや介護保険の利用だけでは不十分なので、必要だと思う」（43.2%）との回答が最も高くなっています。次いで「家族の支えや介護保険の利用とは違った役割を期待できるので、必要だと思う」（35.3%）の順になっており、「地域住民の協力が必要」とする回答の合計は78.5%となっています。

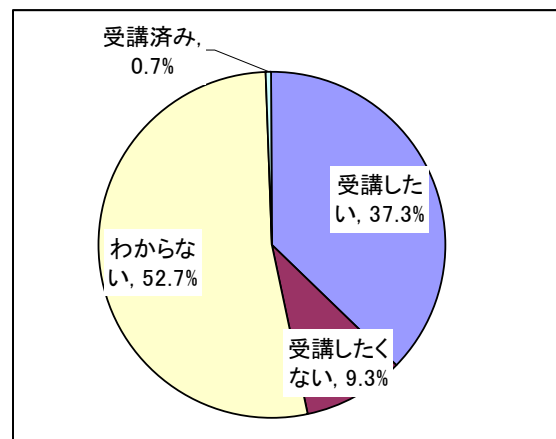
なお、「その他」としては、「地域住民には迷惑をかけたくない」という回答が多くなっています。

#### ○ 認知症サポーター養成講座について

【問 10】 あなたは、認知症サポーターの養成講座があれば、受講したいと思いますか。

（1つに○）

選択項目	件数	構成比
受講したい	330	37.3%
受講したくない	82	9.3%
わからない	466	52.7%
受講済み	6	0.7%
合計	884	100.0%

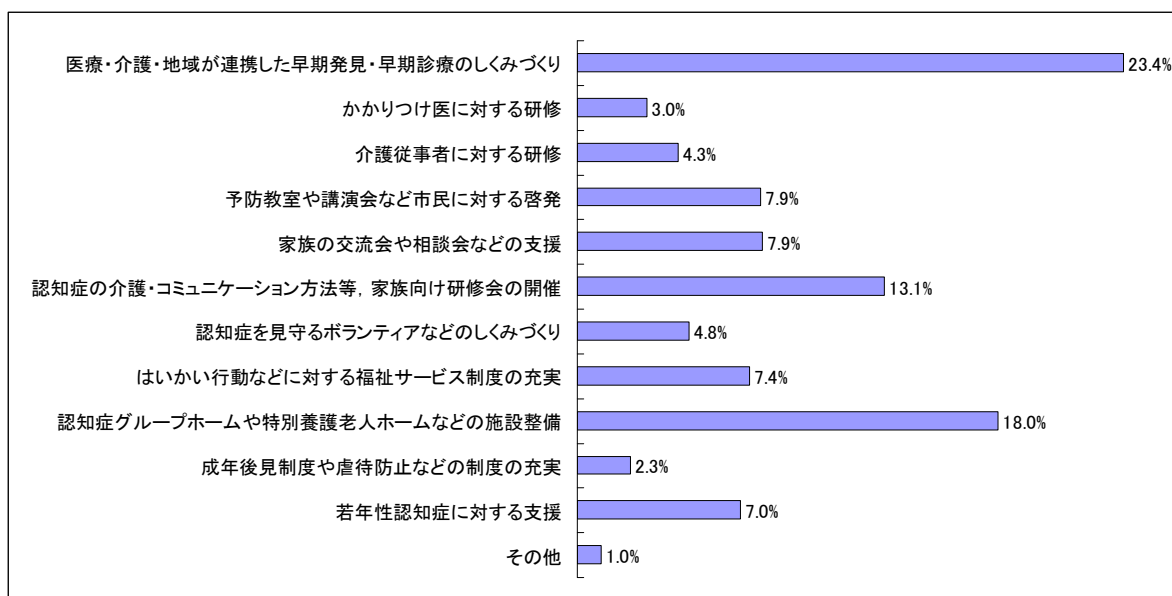


認知症サポーター養成講座については、「わからない」（52.7%）との回答が最も多くなっています。次いで「受講したい」（37.3%）、「受講したくない」（9.3%）の順になっています。なお、「受講済み」は0.7%となっています。

○ 認知症対策全般について

【問 11】 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。（3つに○）

選択項目	件数	構成比
医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療のしくみづくり	607	23.4%
かかりつけ医に対する研修	77	3.0%
介護従事者に対する研修	112	4.3%
予防教室や講演会など市民に対する啓発	204	7.9%
家族の交流会や相談会などの支援	206	7.9%
認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催	341	13.1%
認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり	124	4.8%
はいかい行動などに対する福祉サービス制度の充実	192	7.4%
認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備	468	18.0%
成年後見制度や虐待防止などの制度の充実	59	2.3%
若年性認知症に対する支援	181	7.0%
その他	26	1.0%
合計	2,597	100.0%



今後、認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」（23.4%）との回答が最も多くなっています。次いで「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」（18.0%）、「認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催」（13.1%）の順になっています。

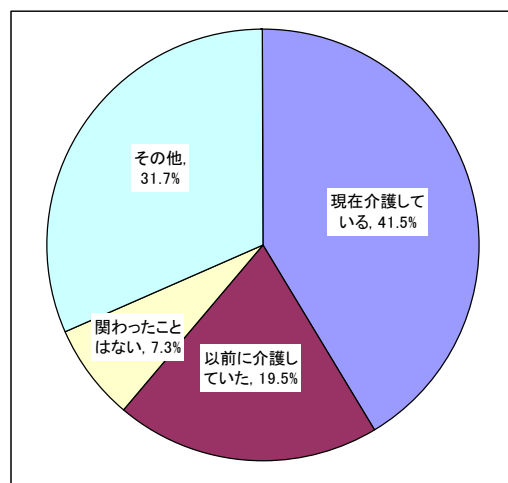
なお、「その他」としては、「家族への経済的な援助」や「介護従事者の処遇改善」という回答がありました。

### 3 栃木県認知症の人と介護者の会アンケート調査

#### ○ 認知症介護について

【問1】 認知症のご本人との関わり（1つに○）

選択項目	件数	構成比
現在介護している	17	41.5%
以前に介護していた	8	19.5%
関わったことはない	3	7.3%
その他	13	31.7%
合計	41	100.0%

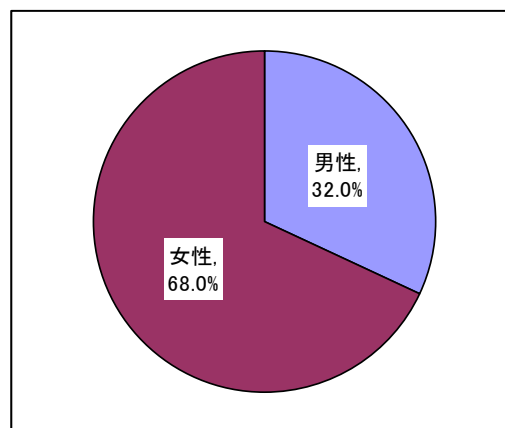


「その他」としては、介護支援専門員（ケアマネジャー）などの「介護職」との回答が多くなっています。

【問2】 認知症のご本人の状況

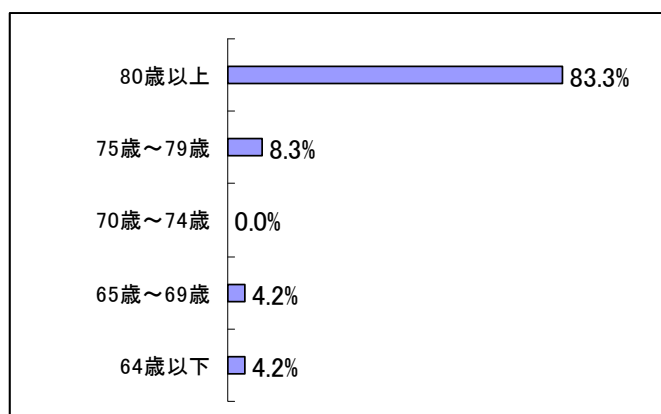
#### (1) 性別

選択項目	件数	構成比
男性	8	32.0%
女性	17	68.0%
合計	25	100.0%



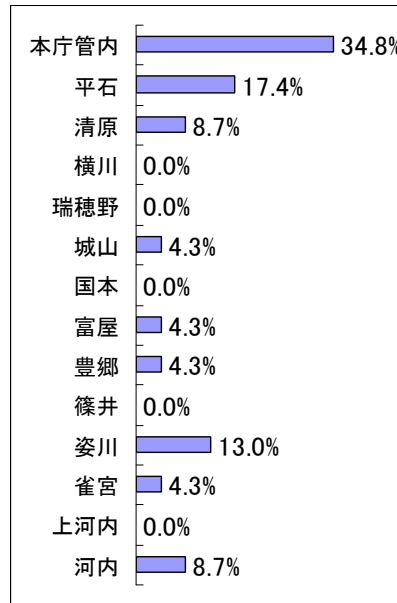
#### (2) 年齢

選択項目	件数	構成比
64歳以下	1	4.2%
65歳～69歳	1	4.2%
70歳～74歳	0	0.0%
75歳～79歳	2	8.3%
80歳以上	20	83.3%
合計	24	100.0%



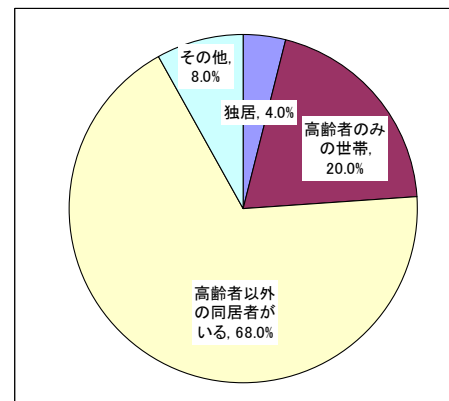
(3) 居住地

選択項目	件数	構成比
本庁管内	8	34.8%
平石	4	17.4%
清原	2	8.7%
横川	0	0.0%
瑞穂野	0	0.0%
城山	1	4.3%
国本	0	0.0%
富屋	1	4.3%
豊郷	1	4.3%
篠井	0	0.0%
姿川	3	13.0%
雀宮	1	4.3%
上河内	0	0.0%
河内	2	8.7%
合計	23	100.0%



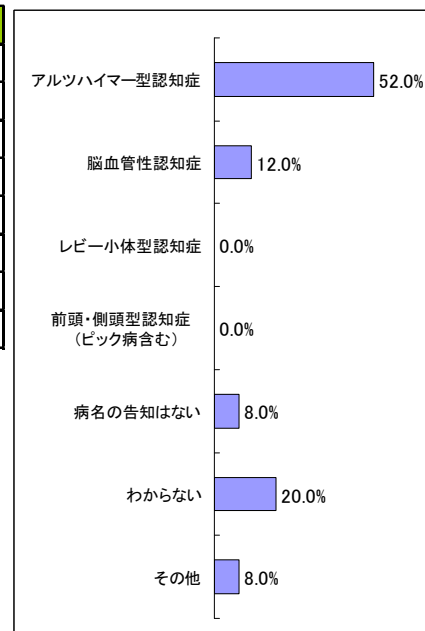
(4) 世帯

選択項目	件数	構成比
独居	1	4.0%
高齢者のみの世帯	5	20.0%
高齢者以外の同居者がいる	17	68.0%
その他	2	8.0%
合計	25	100.0%



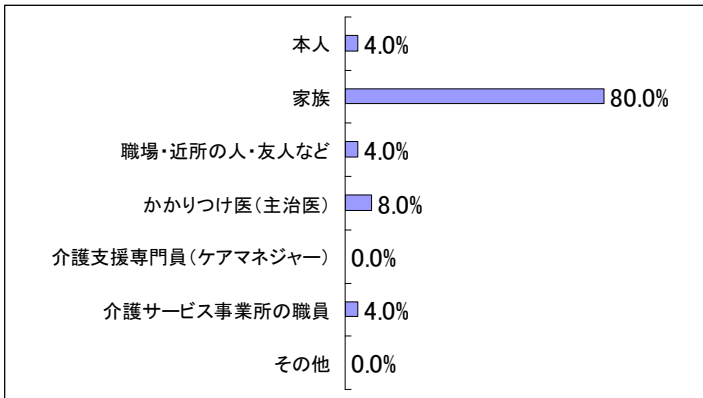
(5) 認知症の原因となる病名

選択項目	件数	構成比
アルツハイマー型認知症	13	52.0%
脳血管性認知症	3	12.0%
レビー小体型認知症	0	0.0%
前頭・側頭型認知症(ピック病含む)	0	0.0%
病名の告知はない	2	8.0%
わからない	5	20.0%
その他	2	8.0%
合計	25	100.0%



【問3】 認知症のご本人の変化に、誰が最初に気づきましたか。(1つに○)

選択項目	件数	構成比
本人	1	4.0%
家族	20	80.0%
職場・近所の人・友人など	1	4.0%
かかりつけ医(主治医)	2	8.0%
介護支援専門員(ケアマネジャー)	0	0.0%
介護サービス事業所の職員	1	4.0%
その他	0	0.0%
合計	25	100.0%

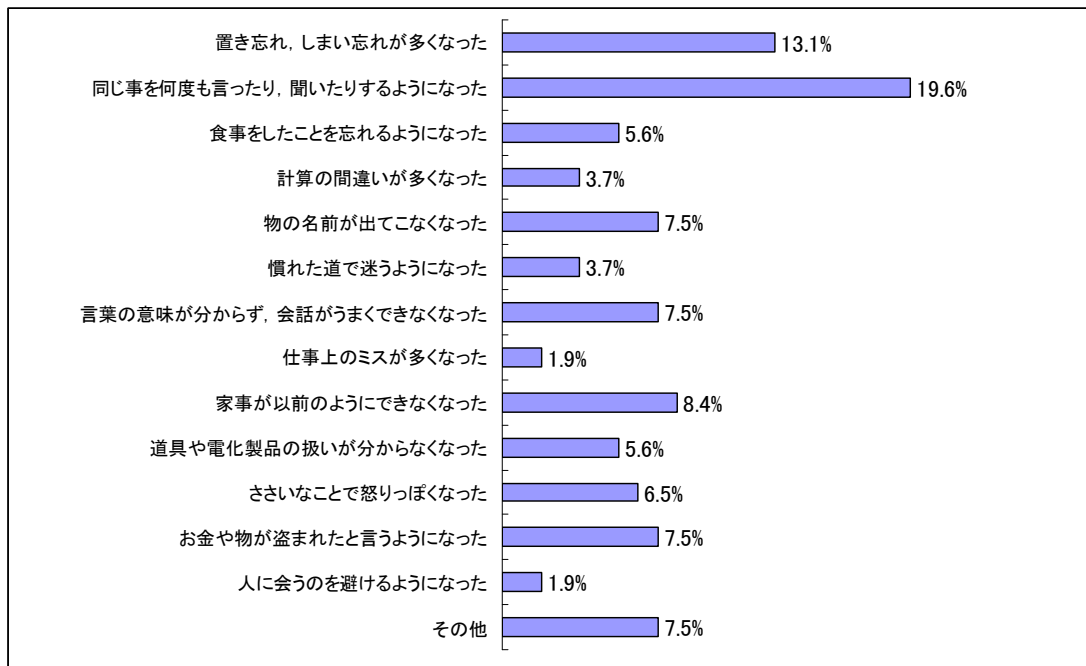


本人の変化に最初に気がついた方については、「家族」(80.0%)との回答が最も多くなっています、次いで「かかりつけ医(主治医)」(8.0%)、「本人」、「職場・近所の人・友人など」、「介護サービス事業所の職員」が4.0%で横並びになっています。

【問4】 認知症のご本人の家族が、認知症ではないかと気付いた、あるいは不安に思  
うきっかけとなったのは、どのようなこと(変化)でしたか。(複数回答可)

選択項目	件数	構成比
置き忘れ、しまい忘れが多くなった	14	13.1%
同じ事を何度も言ったり、聞いたりするようになった	21	19.6%
食事をしたことを忘れるようになった	6	5.6%
計算の間違いが多くなった	4	3.7%
物の名前が出てこなくなった	8	7.5%
慣れた道で迷うようになった	4	3.7%
言葉の意味が分からず、会話がうまくできなくなった	8	7.5%
仕事上のミスが多くなった	2	1.9%
家事が以前のようにできなくなった	9	8.4%
道具や電化製品の扱いが分からなくなった	6	5.6%
ささいなことで怒りっぽくなった	7	6.5%
お金や物が盗まれたと言うようになった	8	7.5%
人に会うのを避けるようになった	2	1.9%
その他	8	7.5%
合計	107	100.0%



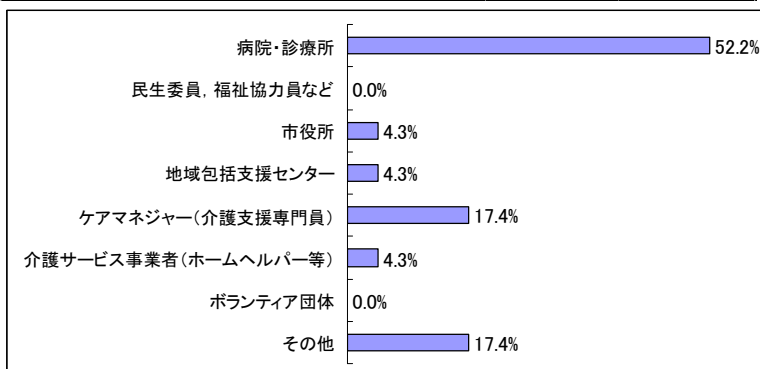


認知症のご本人の家族が認知症ではないかと気付いた、あるいは不安に思うきっかけについては、「同じことを何度も言ったり、聞いたりするようになった」（19.6%）が最も多くなっています。次いで「置き忘れ、しまい忘れが多くなった」（13.1%）、「家事が以前のようにできなくなった」（8.4%）の順になっています。

なお、「その他」としては、「排泄・排尿の失敗」という回答が多くなっています。

【問5】 問4の変化に気づいたときに、家族、親戚、知人以外で最初に相談（または受診）したのは誰（どこ）ですか。（1つに○）

選択項目	件数	構成比
病院・診療所	12	52.2%
民生委員、福祉協力員など	0	0.0%
市役所	1	4.3%
地域包括支援センター	1	4.3%
ケアマネジャー（介護支援専門員）	4	17.4%
介護サービス事業者（ホームヘルパー等）	1	4.3%
ボランティア団体	0	0.0%
その他	4	17.4%
合計	23	100.0%

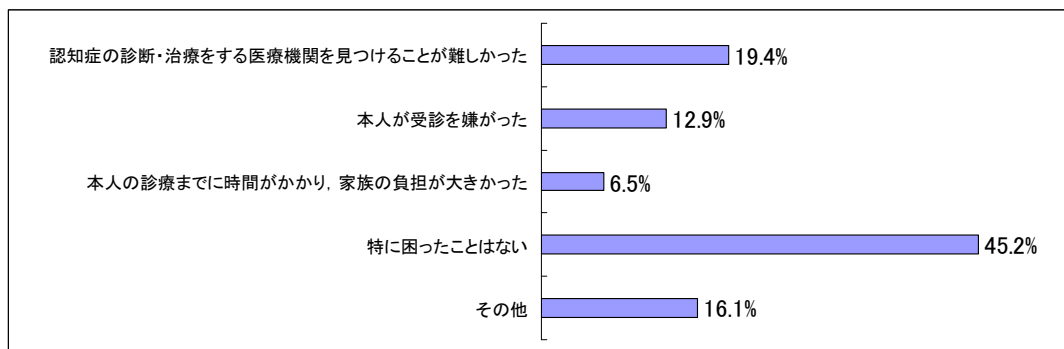


認知症ではないかと気づいたときに、家族、親戚、知人以外で最初に相談（または受診）した人や場所については、「病院・診療所」（52.2%）との回答が最も多くなっています。次いで「ケアマネジャー（介護支援専門員）」、「その他」が17.4%と横並びになっています。

なお、「その他」としては、「介護者の会」という回答が多くなっています。

【問6】 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、どのようなことに困りましたか。  
（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
認知症の診断・治療をする医療機関を見つけることが難しかった	6	19.4%
本人が受診を嫌がった	4	12.9%
本人の診療までに時間がかかり、家族の負担が大きかった	2	6.5%
特に困ったことはない	14	45.2%
その他	5	16.1%
合計	31	100.0%

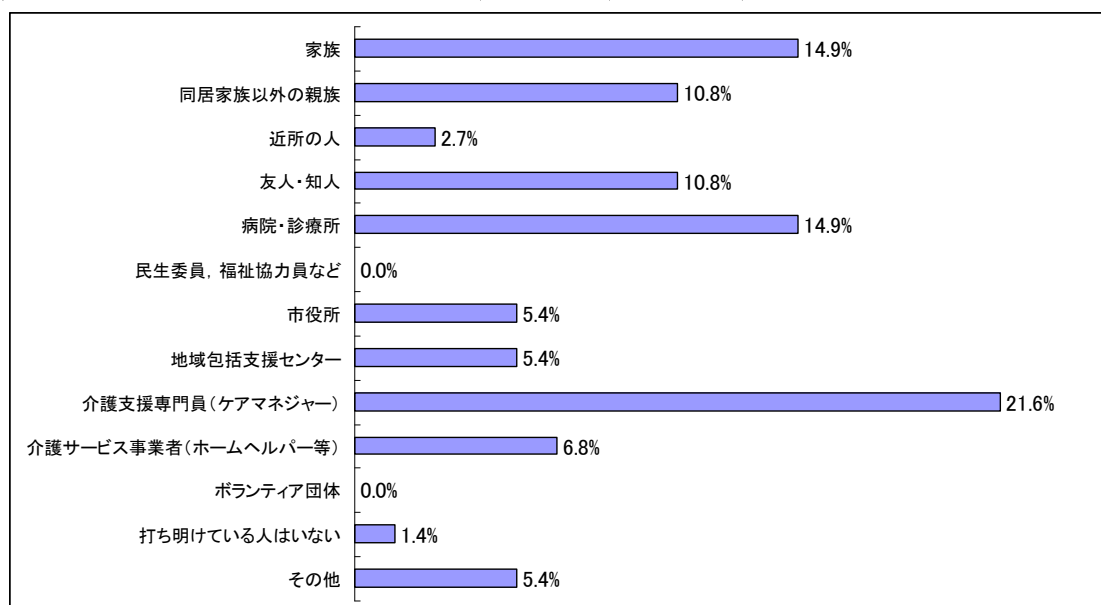


認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったことについては、「特に困ったことはない」（45.2%）との回答が最も多くなっています。次いで「認知症の診断・治療をする医療機関を見つけることが難しかった」（19.4%）、「その他」（16.1%）の順になっています。

なお、「その他」としては、「診断・治療を受けていない」という回答がありました。

【問7】 認知症の診断後、認知症のご本人への必要な支援について、どなたに相談していますか。（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
家族	11	14.9%
同居家族以外の親族	8	10.8%
近所の人	2	2.7%
友人・知人	8	10.8%
病院・診療所	11	14.9%
民生委員、福祉協力員など	0	0.0%
市役所	4	5.4%
地域包括支援センター	4	5.4%
介護支援専門員（ケアマネジャー）	16	21.6%
介護サービス事業者（ホームヘルパー等）	5	6.8%
ボランティア団体	0	0.0%
打ち明けている人はいない	1	1.4%
その他	4	5.4%
合計	74	100.0%



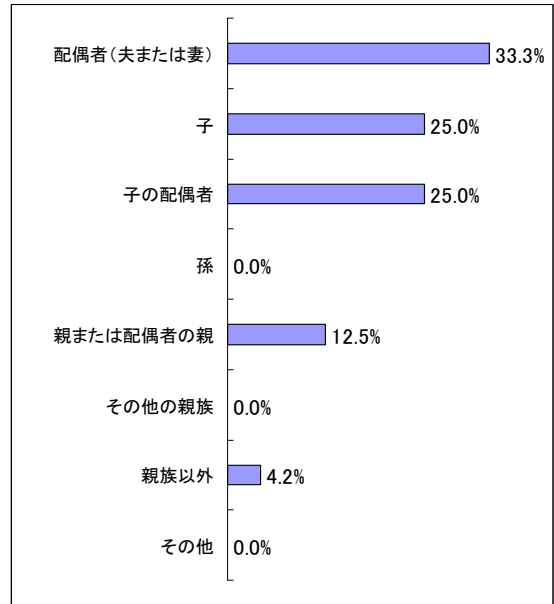
本人への必要な支援についての相談先については、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」（21.6%）との回答が最も多くなっています。次いで「家族」、「病院・診療所」が14.9%で横並びになっています。

なお、「その他」としては、「介護者の会」という回答が多くなっています。

【問8】 主な介護者の状況（1つに○）

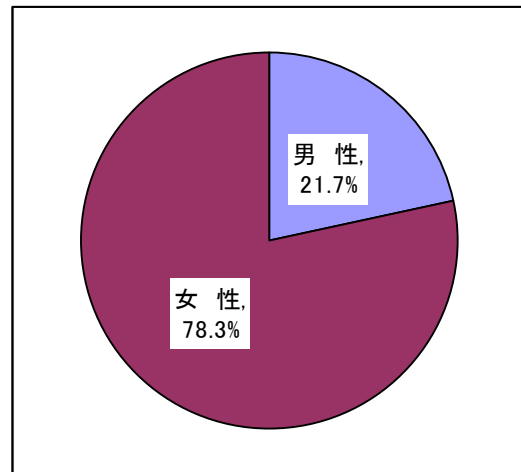
(1) 主な介護者

選択項目	件数	構成比
配偶者(夫または妻)	8	33.3%
子	6	25.0%
子の配偶者	6	25.0%
孫	0	0.0%
親または配偶者の親	3	12.5%
その他の親族	0	0.0%
親族以外	1	4.2%
その他	0	0.0%
合計	24	100.0%



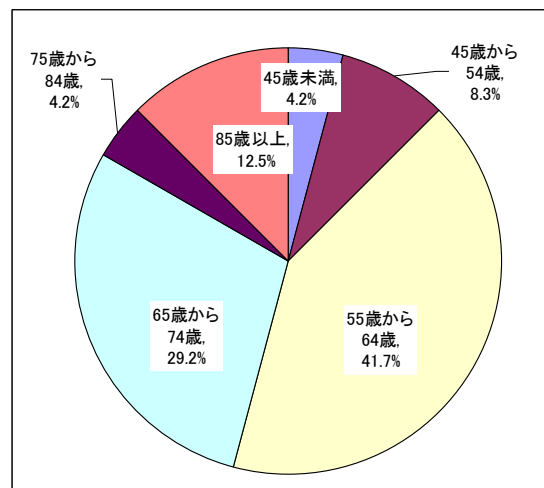
(2) 性別

選択項目	件数	構成比
男性	5	21.7%
女性	18	78.3%
合計	23	100.0%



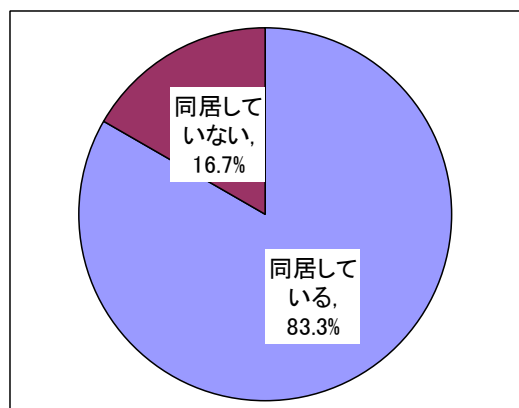
(3) 年代

選択項目	件数	構成比
45歳未満	1	4.2%
45歳から54歳	2	8.3%
55歳から64歳	10	41.7%
65歳から74歳	7	29.2%
75歳から84歳	1	4.2%
85歳以上	3	12.5%
合計	24	100.0%



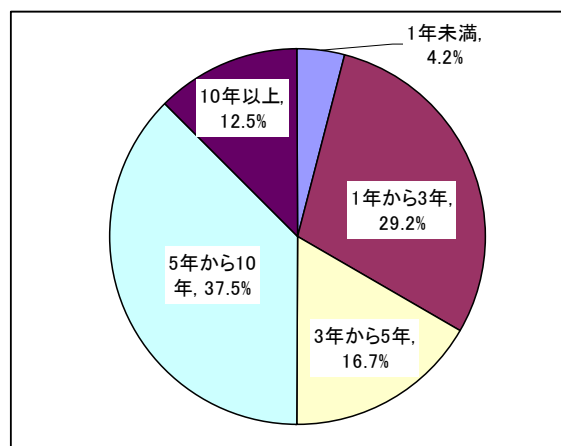
(4) 同居の有無

選択項目	件数	構成比
同居している	20	83.3%
同居していない	4	16.7%
合計	24	100.0%



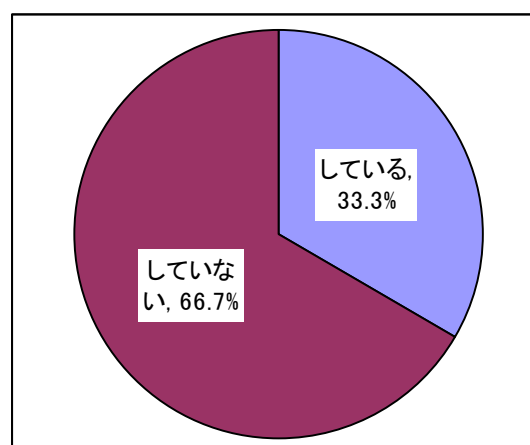
(5) 介護期間

選択項目	件数	構成比
1年未満	1	4.2%
1年から3年	7	29.2%
3年から5年	4	16.7%
5年から10年	9	37.5%
10年以上	3	12.5%
合計	24	100.0%



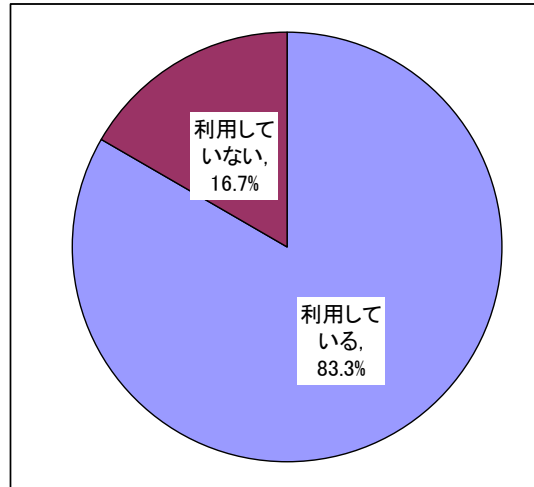
(6) 仕事の有無

選択項目	件数	構成比
している	8	33.3%
していない	16	66.7%
合計	24	100.0%

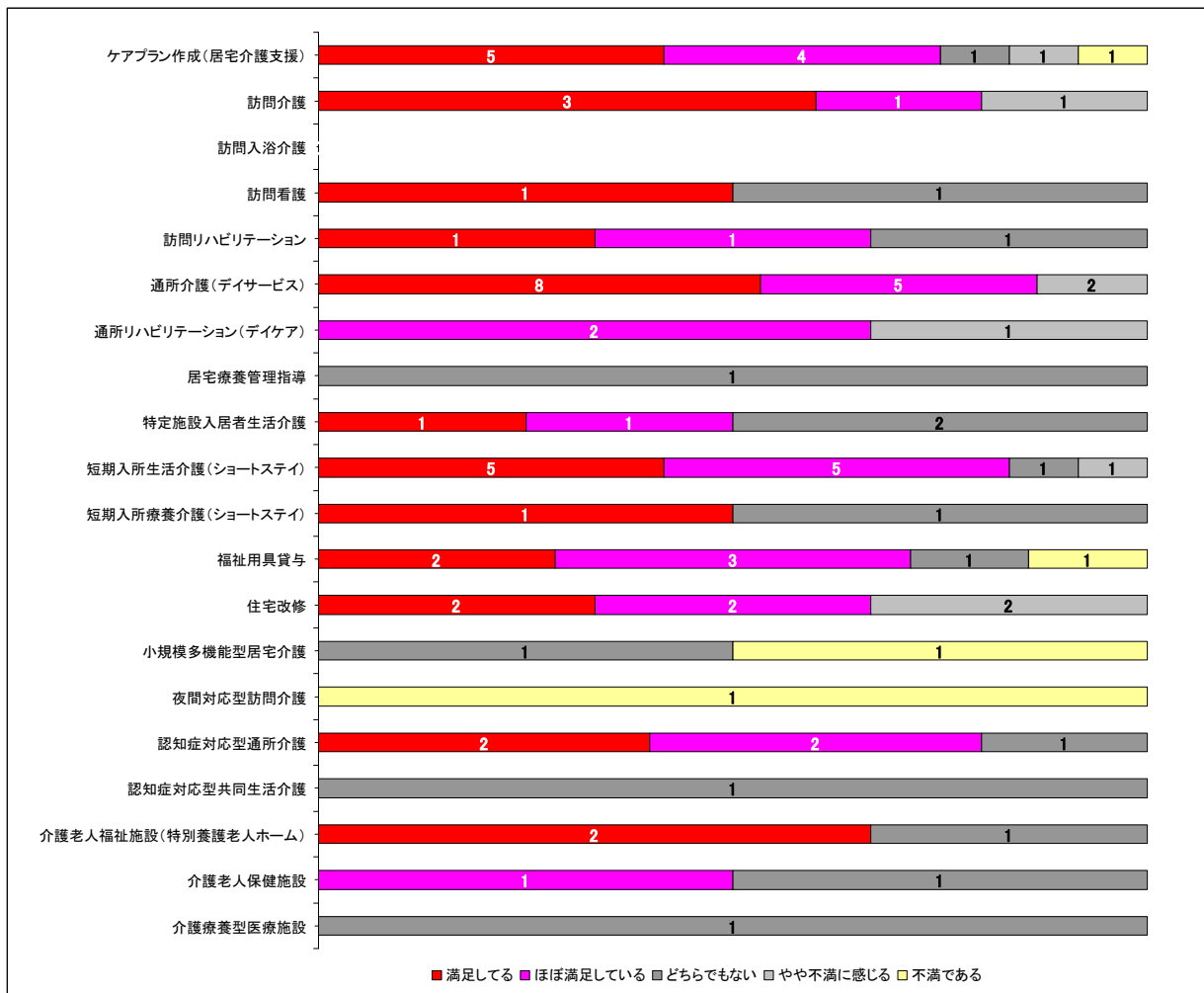


【問9】 介護サービスの利用状況（1つに○）

選択項目	件数	構成比
利用している	20	83.3%
利用していない	4	16.7%
合計	24	100.0%

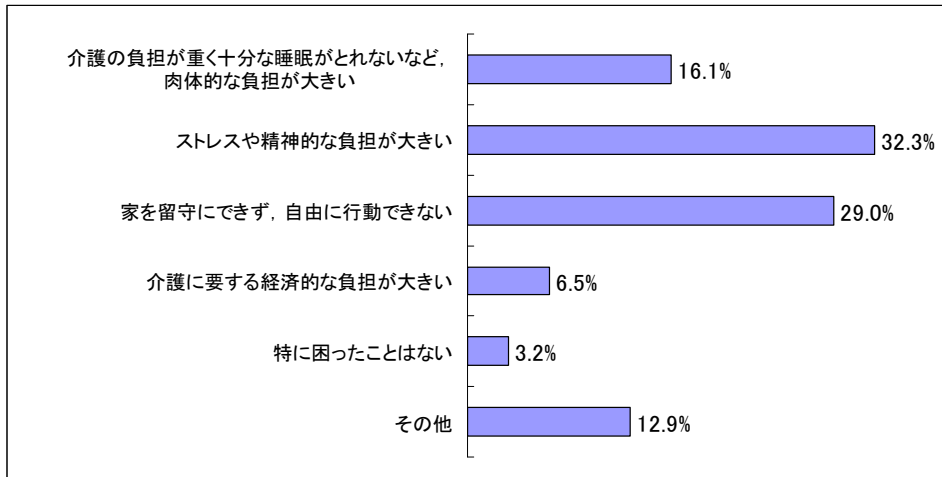


【問10】 利用した介護サービスの種類と満足度（複数回答可）



【問 11】 認知症介護における、主介護者の困りごと（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
介護の負担が重く十分な睡眠がとれないなど、肉体的な負担が大きい	5	16.1%
ストレスや精神的な負担が大きい	10	32.3%
家を留守にできず、自由に行動できない	9	29.0%
介護に要する経済的な負担が大きい	2	6.5%
特に困ったことはない	1	3.2%
その他	4	12.9%
合計	31	100.0%

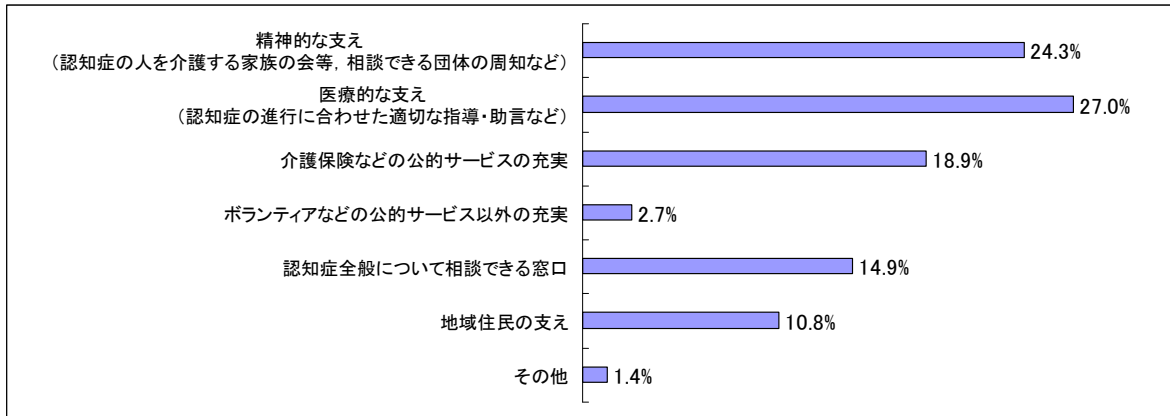


主な介護者の困りごととしては、「ストレスや精神的な負担が大きい」（32.3%）との回答が最も多くなっています。次いで「家を留守にできず、自由に行動できない」（29.0%）、「介護の負担が重く十分な睡眠がとれないなど、肉体的な負担が大きい」（16.1%）の順になっています。

なお、「その他」としては、「身体介護（排泄への対応）への苦慮」という回答がありました。

【問 12】 認知症のご本人の介護について、必要と思うことはありますか。（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
精神的な支え（認知症の人を介護する家族の会等、相談できる団体の周知など）	18	24.3%
医療的な支え（認知症の進行に合わせた適切な指導・助言など）	20	27.0%
介護保険などの公的サービスの充実	14	18.9%
ボランティアなどの公的サービス以外の充実	2	2.7%
認知症全般について相談できる窓口	11	14.9%
地域住民の支え	8	10.8%
その他	1	1.4%
合計	74	100.0%



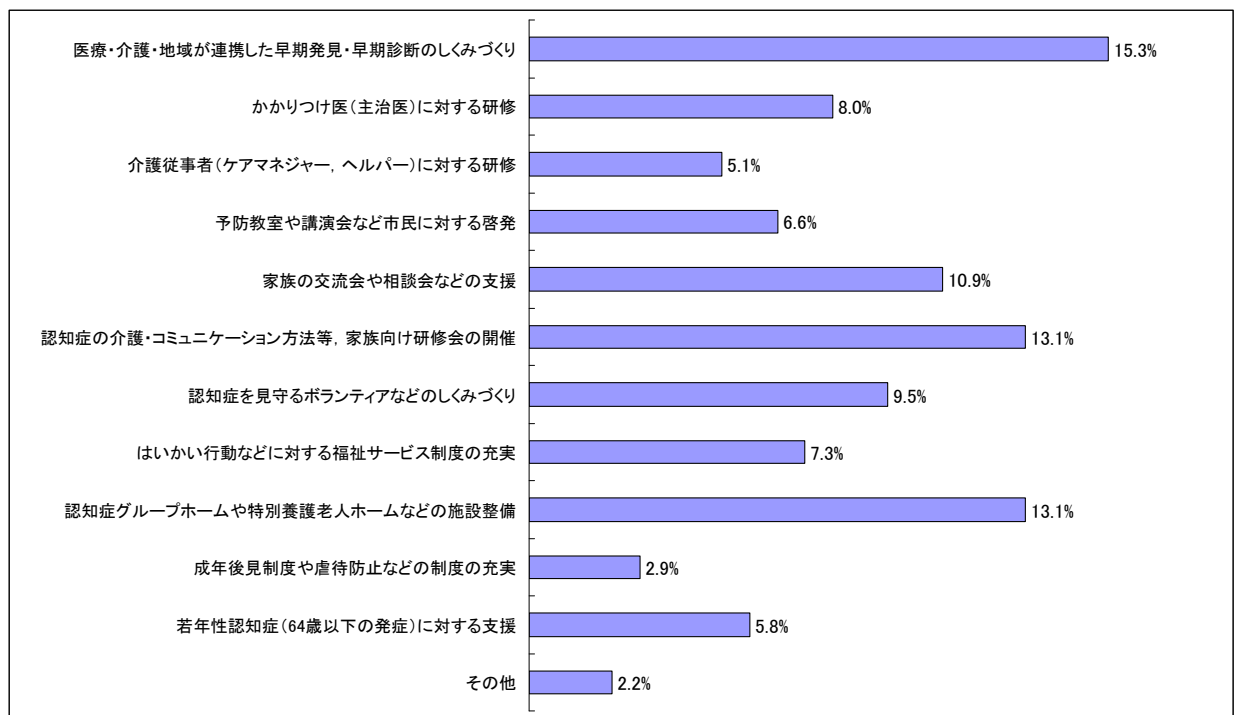
認知症のご本人の介護について、必要と思うことについては、「医療的な支え」（27.0%）との回答が最も多くなっています。次いで「精神的な支え」（24.3%）、「介護保険などの公的サービスの充実」（18.9%）の順になっています。



○ 認知症対策全般について

【問 13】 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。（3つに○）

選択項目	件数	構成比
医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり	21	15.3%
かかりつけ医(主治医)に対する研修	11	8.0%
介護従事者(ケアマネジャー, ヘルパー)に対する研修	7	5.1%
予防教室や講演会など市民に対する啓発	9	6.6%
家族の交流会や相談会などの支援	15	10.9%
認知症の介護・コミュニケーション方法等, 家族向け研修会の開催	18	13.1%
認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり	13	9.5%
はいかい行動などに対する福祉サービス制度の充実	10	7.3%
認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備	18	13.1%
成年後見制度や虐待防止などの制度の充実	4	2.9%
若年性認知症(64歳以下の発症)に対する支援	8	5.8%
その他	3	2.2%
合計	137	100.0%



今後、認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・地域」が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり（15.3%）との回答が最も多くなっています。次いで「認知症の介護・コミュニケーション方法等, 家族向け研修会の開催」と「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」が13.1%で横並びになっています。

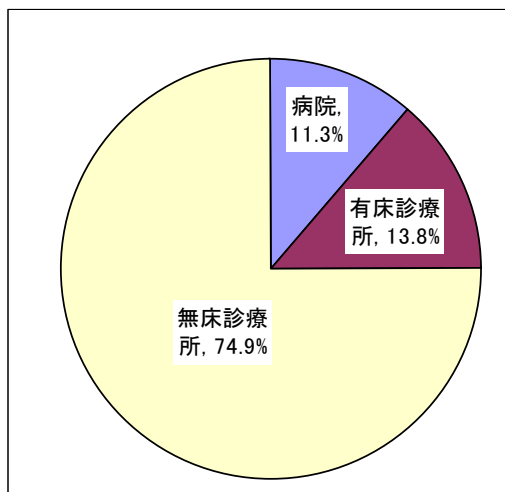
なお、「その他」としては、「経済的な支援」という回答がありました。

#### 4 医療機関アンケート調査

##### ○ 医療機関の状況

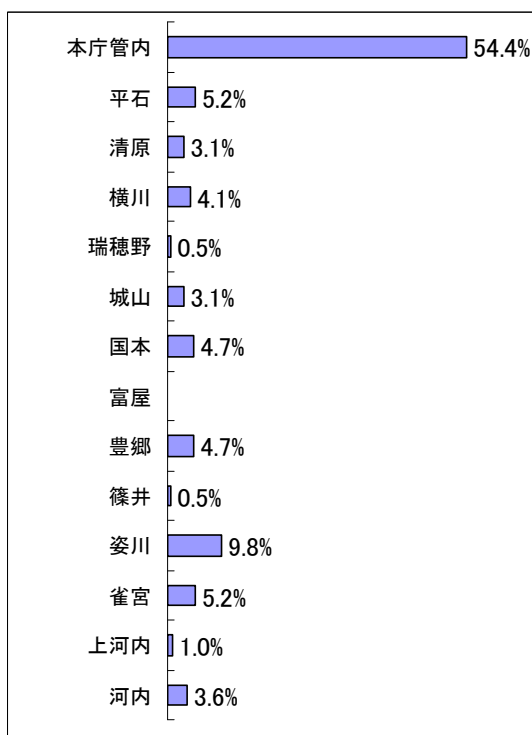
【問1】 医療機関の区分（1つに○）

選択項目	件数	構成比
病院	22	11.3%
有床診療所	27	13.8%
無床診療所	146	74.9%
合計	195	100.0%



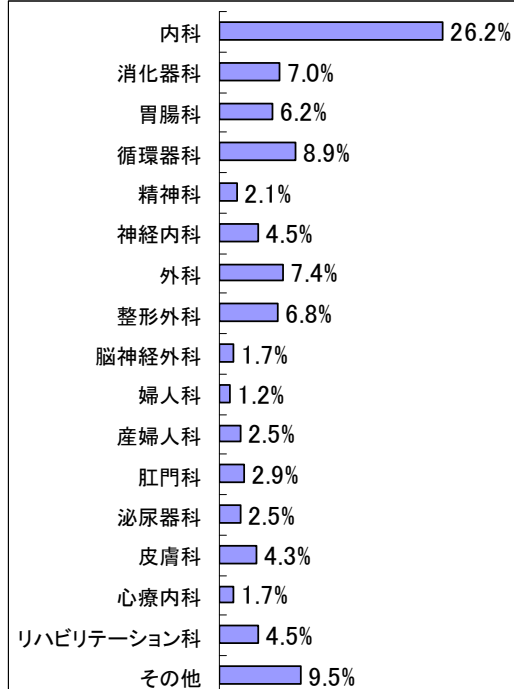
【問2】 医療機関の所在地（1つに○）

選択項目	件数	構成比
本庁管内	105	54.4%
平石	10	5.2%
清原	6	3.1%
横川	8	4.1%
瑞穂野	1	0.5%
城山	6	3.1%
国本	9	4.7%
富屋	0	0.0%
豊郷	9	4.7%
篠井	1	0.5%
姿川	19	9.8%
雀宮	10	5.2%
上河内	2	1.0%
河内	7	3.6%
合計	193	100.0%



【問3】 診療科目（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
内科	127	26.2%
消化器科	34	7.0%
胃腸科	30	6.2%
循環器科	43	8.9%
精神科	10	2.1%
神経内科	22	4.5%
外科	36	7.4%
整形外科	33	6.8%
脳神経外科	8	1.7%
婦人科	6	1.2%
産婦人科	12	2.5%
肛門科	14	2.9%
泌尿器科	12	2.5%
皮膚科	21	4.3%
心療内科	8	1.7%
リハビリテーション科	22	4.5%
その他	46	9.5%
合計	484	100.0%

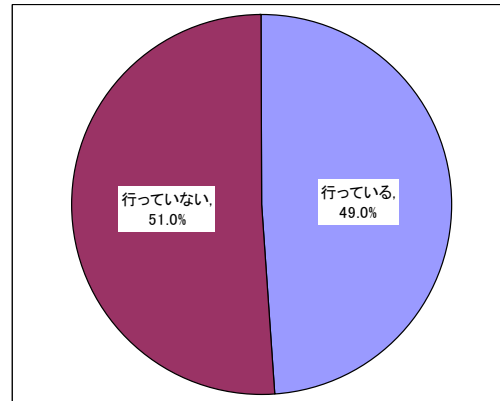


「その他」としては、「眼科」、「耳鼻咽喉科」、「小児科」等

○ 認知症の診断・治療について

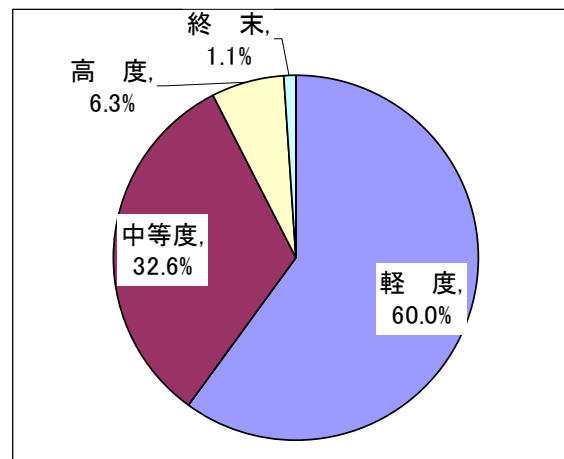
【問4】 認知症の診断・治療の実施状況（1つに○）

選択項目	件数	構成比
行っている	96	49.0%
行っていない	100	51.0%
合計	196	100.0%



【問5】（認知症の診断・治療を行っている医療機関が対象）  
認知症の診断・治療を受ける患者の、初診時における平均的な認知症症状の段階（1つに○）

選択項目	件数	構成比
軽度	57	60.0%
中等度	31	32.6%
高度	6	6.3%
終末	1	1.1%
合計	95	100.0%

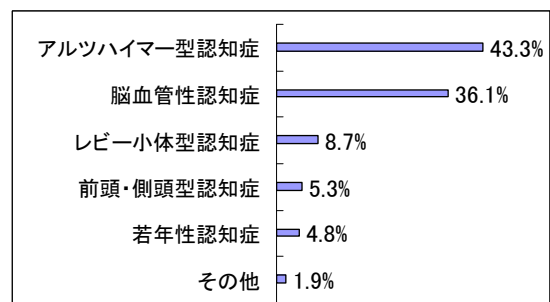


（参考）選択項目の説明

区分	状態
軽度	物忘れや意欲低下
中等度	見当識の障害著明
高度	認知機能全般の高度障害
終末	認知機能・身体機能の高度障害

【問6】（認知症の診断・治療を行っている医療機関が対象）  
診断・治療が可能な原因疾患（複数回答可）

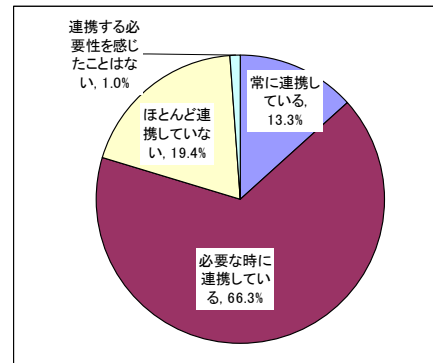
選択項目	件数	構成比
アルツハイマー型認知症	90	43.3%
脳血管性認知症	75	36.1%
レビー小体型認知症	18	8.7%
前頭・側頭型認知症	11	5.3%
若年性認知症	10	4.8%
その他	4	1.9%
合計	208	100.0%



○ 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携について

【問7】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の状況（1つに○）

選択項目	件数	構成比
常に連携している	13	13.3%
必要な時に連携している	65	66.3%
ほとんど連携していない	19	19.4%
連携する必要性を感じたことはない	1	1.0%
合計	98	100.0%

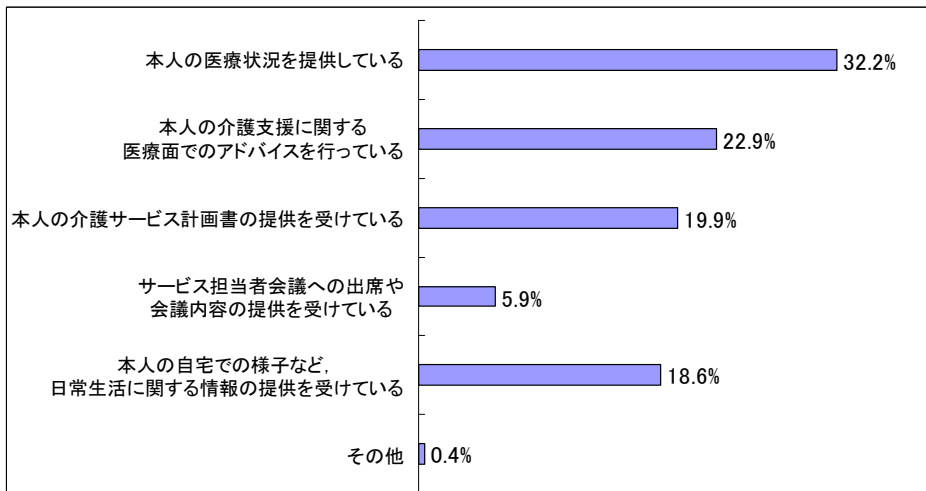


介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の状況については、「必要な時に連携している」（66.3%）との回答が最も多くなっています。次いで「ほとんど連携していない」（19.4%）、「常に連携している」（13.3%）の順になっています。

【問8】（【問7】「常に連携」・「必要な時に連携」回答者が対象）

介護支援専門員（ケアマネジャー）との具体的な連携の内容（複数回答可）

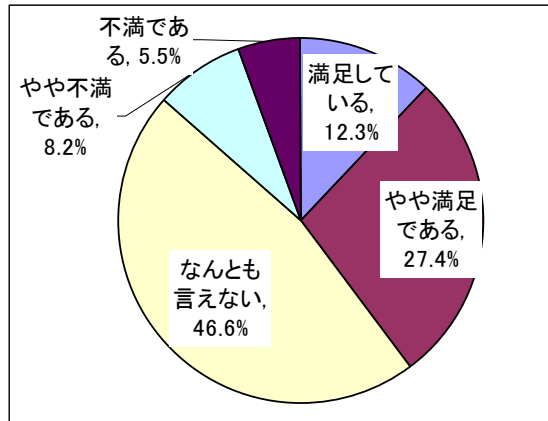
選択項目	件数	構成比
本人の医療状況を提供している	76	32.2%
本人の介護支援に関する医療面でのアドバイスを行っている	54	22.9%
本人の介護サービス計画書の提供を受けている	47	19.9%
サービス担当者会議への出席や会議内容の提供を受けている	14	5.9%
本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報の提供を受けている	44	18.6%
その他	1	0.4%
合計	236	100.0%



介護支援専門員（ケアマネジャー）との具体的な連携の内容については、「本人の医療状況を提供している」（32.2%）との回答が最も多くなっています。次いで「本人の介護支援に関する医療面でのアドバイス」（22.9%）、「本人の介護サービス計画書の提供を受けている」（19.9%）の順になっています。

【問9】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度（1つに○）

選択項目	件数	構成比
満足している	9	12.3%
やや満足である	20	27.4%
なんとも言えない	34	46.6%
やや不満である	6	8.2%
不満である	4	5.5%
合計	73	100.0%



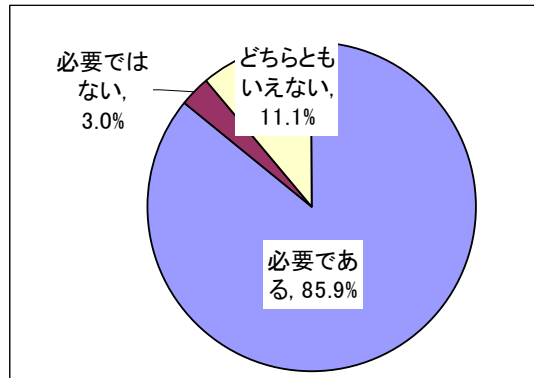
介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度については、「なんともいえない」（46.6%）との回答が最も多くなっています。次いで「やや満足である」（27.4%）、「満足している」（12.3%）の順になっています。

【問9】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度に対する所感

満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的に行っている内容が把握できる。</li> <li>・ 色々な情報をケアマネジャーから得られる。</li> <li>・ 状態や経済状況・家族状況など細かく報告してくれるので治療支援が立てやすい。</li> </ul>
やや満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人差が見られる。</li> </ul>
なんとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ほとんど連携の経験がない。</li> <li>・ 介護支援専門員により連携の度合いが異なる。（個人差がありすぎる）</li> <li>・ 症状悪化時など必要時のみ連携している。</li> <li>・ 定期的に会議が持てない。</li> </ul>
やや不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援者の生活状況・ケアプランなどの提供がない</li> </ul>
不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全く連携がとれていない。</li> <li>・ 病気に対する理解が余りにも乏しい。</li> </ul>

【問 10】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性（1つに○）

選択項目	件数	構成比
必要である	85	85.9%
必要ではない	3	3.0%
どちらともいえない	11	11.1%
合計	99	100.0%



介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性については、「必要である」との回答が85.9%と最も多くなっています。また、「必要ではない」との回答も3.0%存在します。

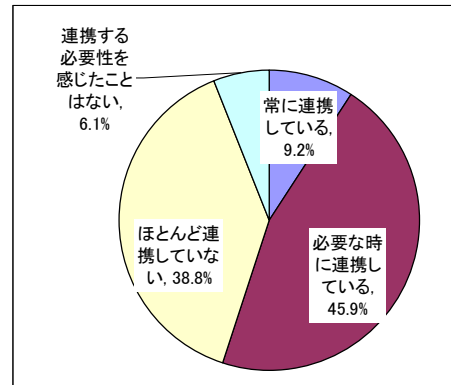
【問 10】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性に対する所感

必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅時の様子など生活状況を把握するのに必要。</li> <li>・ 医療や介護など本人へのケアの質を高めるため。</li> <li>・ 家族より客観的な情報が得られる。</li> <li>・ 医師だけの管理には限界がある。</li> <li>・ より早く、より良いサービスを提供する為には、お互いの情報の共有化が大切であるため。</li> <li>・ 必要なニーズの検討、提供が行える。</li> </ul>
必要ではない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実績ともに乏しい。</li> <li>・ 個人の考えで勝手にふるまっているケースが目立つ。</li> <li>・ 主治医の意見を全く聞きに来ない例が多い。</li> </ul>
どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携した経験がない。</li> </ul>

○ 地域包括支援センターとの連携について

【問 11】 地域包括支援センターとの連携の状況（1つに○）

選択項目	件数	構成比
常に連携している	9	9.2%
必要な時に連携している	45	45.9%
ほとんど連携していない	38	38.8%
連携する必要性を感じたことはない	6	6.1%
合計	98	100.0%

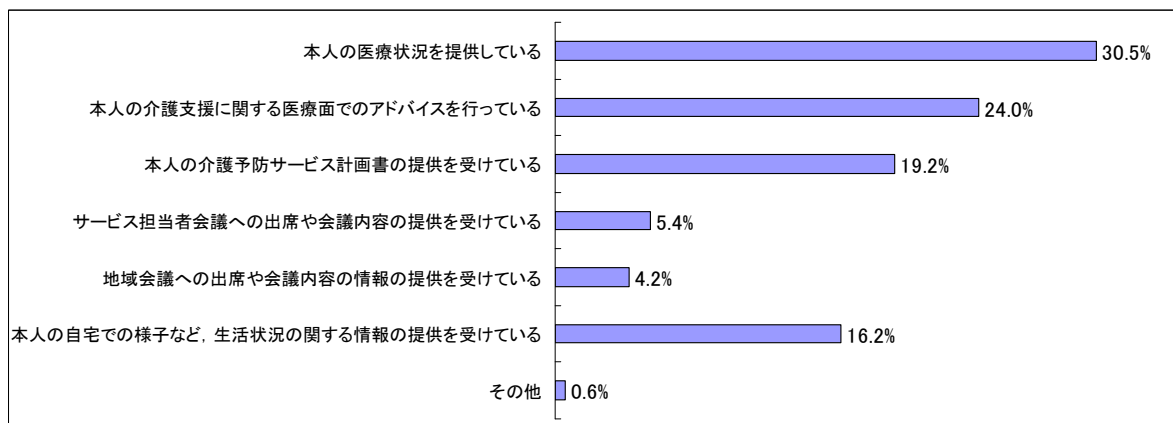


地域包括支援センターとの連携の状況については、「必要な時に連携している」との回答が45.9%と最も多くなっています。

次いで「ほとんど連携していない」（38.8%）、「常に連携している」（9.2%）、「連携する必要性を感じたことはない」（6.1%）の順になっています。なお、「常に連携している」と「必要な時に連携をしている」の合計は、55.1%になっています。

【問 12】 地域包括支援センターとの具体的な連携の内容（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
本人の医療状況を提供している	51	30.5%
本人の介護支援に関する医療面でのアドバイスを行っている	40	24.0%
本人の介護予防サービス計画書の提供を受けている	32	19.2%
サービス担当者会議への出席や会議内容の提供を受けている	9	5.4%
地域会議への出席や会議内容の情報の提供を受けている	7	4.2%
本人の自宅での様子など、生活状況に関する情報の提供を受けている	27	16.2%
その他	1	0.6%
合計	167	100.0%

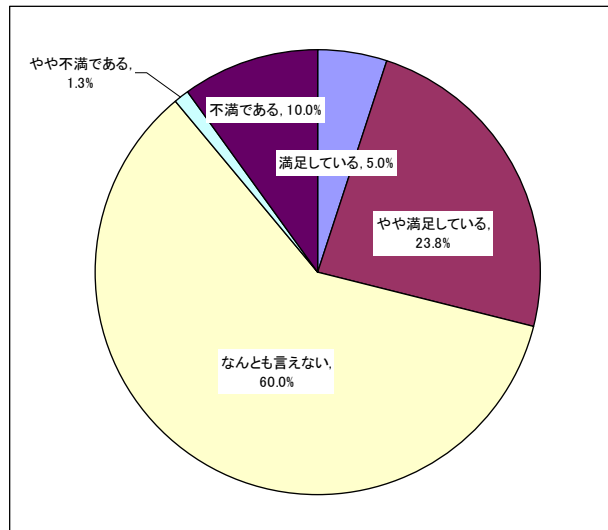


地域包括支援センターとの具体的な連携の内容については、「本人の医療状況を提供している」（30.5%）との回答が最も多くなっています。次いで「本人の介護支援に関する医療面でのアドバイスを行っている」（24.0%）、「本人の介護サービス計画書の提供を受けている」（19.2%）の順になっています。



【問 13】 地域包括支援センターとの連携の満足度（1つに○）

選択項目	件数	構成比
満足している	4	5.0%
やや満足している	19	23.8%
なんとも言えない	48	60.0%
やや不満である	1	1.3%
不満である	8	10.0%
合計	80	100.0%

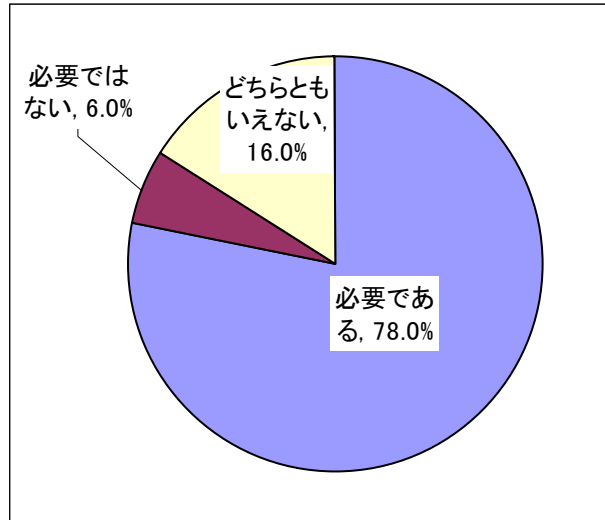


地域包括支援センターとの連携の満足度については、「なんとも言えない」（60.0%）との回答が最も多くなっています。次いで「やや満足している」（23.8%）, 「不満である」（10.0%）, 「満足している」（5.0%）の順になっています。

【問 13】 地域包括支援センターとの連携の満足度に対する所感	
満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人に関する情報の提供により、外来ではわからないニーズを把握できる。</li> </ul>
やや満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期に対応してもらえる。</li> <li>本人の介護に関する情報の提供がある。</li> </ul>
なんとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャーよりは連携する機会が少ない。</li> <li>地域包括支援センターの人との接点がない、利用する気持ちにならない。</li> <li>地域包括支援センターの利用の仕方を知らなかった。</li> <li>地域包括支援センターの内容の把握ができていない。</li> </ul>
やや不満	—
不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>全く連携がとれていない。</li> <li>公的な施設であるべきだが、私的な施設を併設されているのは違和感がある。</li> </ul>

【問 14】 地域包括支援センターとの連携の必要性（1つに○）

選択項目	件数	構成比
必要である	78	78.0%
必要ではない	6	6.0%
どちらともいえない	16	16.0%
合計	100	100.0%



地域包括支援センターとの連携の必要性については、「必要である」（78.0%）との回答が多くなっています。次いで「どちらともいえない」（16.0%）, 「必要ではない」（6.0%）の順になっています。

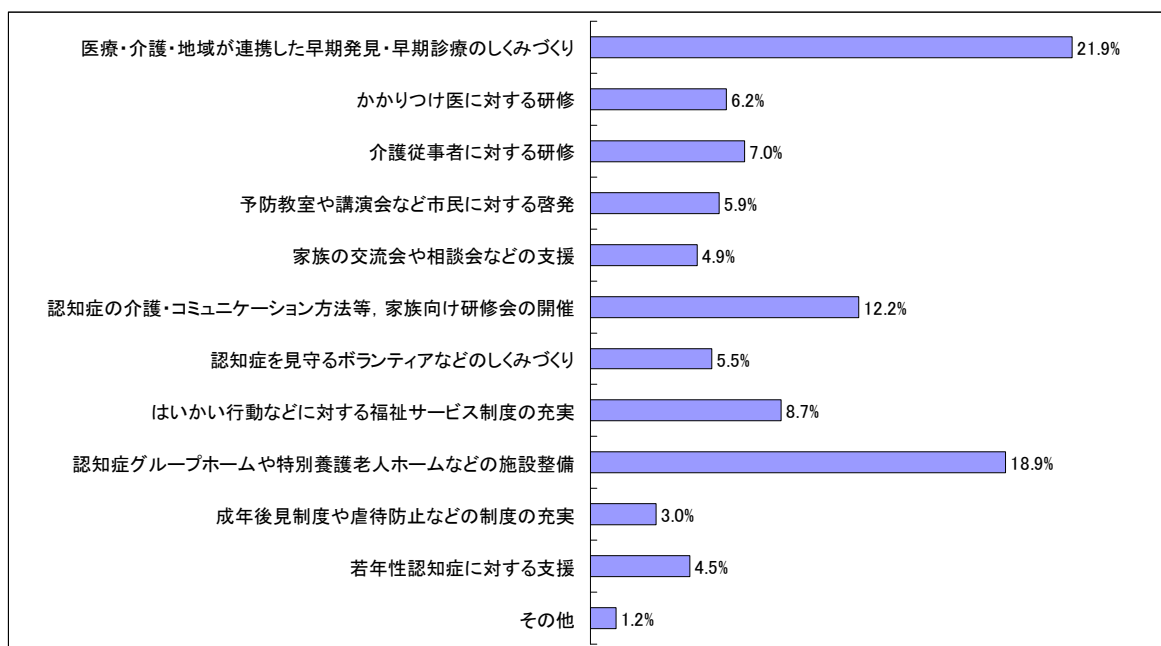
【問 14】 地域包括支援センターとの連携の必要性に対する所感

必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 診療所では対応しきれない面をカバーしてもらう必要がある。</li> <li>・ 情報を共有する事で、より良いサービスの提供に繋げることができる。</li> <li>・ 本人や家族の状況が把握できる。</li> <li>・ 病状を早期に発見・診断する為には必要。</li> </ul>
必要ではない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的に何をやっているのか分からない。</li> <li>・ 現在の状況が継続するのであれば不要である。</li> </ul>
どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センターの活動内容が分からない。</li> </ul>

○ 認知症対策全般について

【問 15】 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。（3つに○）

選択項目	件数	構成比
医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療のしくみづくり	131	21.9%
かかりつけ医に対する研修	37	6.2%
介護従事者に対する研修	42	7.0%
予防教室や講演会など市民に対する啓発	35	5.9%
家族の交流会や相談会などの支援	29	4.9%
認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催	73	12.2%
認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり	33	5.5%
はいかい行動などに対する福祉サービス制度の充実	52	8.7%
認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備	113	18.9%
成年後見制度や虐待防止などの制度の充実	18	3.0%
若年性認知症に対する支援	27	4.5%
その他	7	1.2%
合計	597	100.0%



今後、認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・地域」が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」（21.9%）との回答が最も多く、次いで「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」（18.9%）、「認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催」（12.2%）の順になっています。

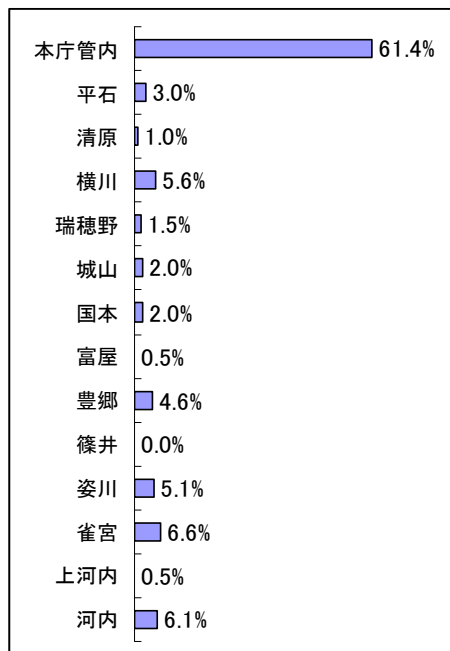
なお、「その他」としては、「認知症を適確に診断できる専門病院の充足」という回答が多くなっています。

## 5 医療機関（歯科診療機関）アンケート調査

### ○ 歯科診療機関の状況

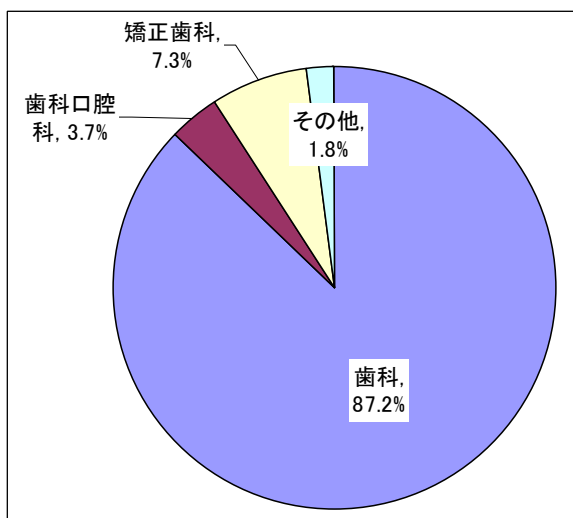
【問1】 所在地（1つに○）

選択項目	件数	構成比
本庁管内	121	61.4%
平石	6	3.0%
清原	2	1.0%
横川	11	5.6%
瑞穂野	3	1.5%
城山	4	2.0%
国本	4	2.0%
富屋	1	0.5%
豊郷	9	4.6%
篠井	0	0.0%
姿川	10	5.1%
雀宮	13	6.6%
上河内	1	0.5%
河内	12	6.1%
合計	197	100.0%



【問2】 診療科目（1つに○）

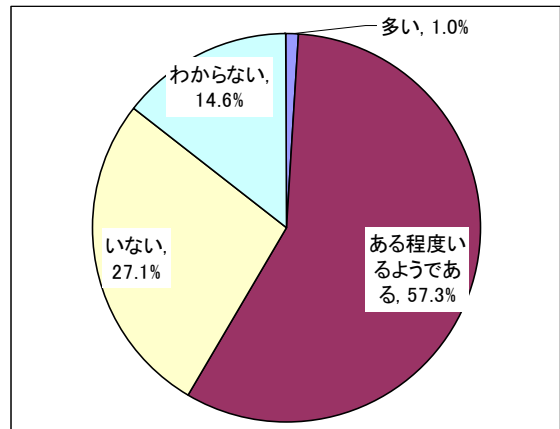
選択項目	件数	構成比
歯科	191	87.2%
歯科口腔科	8	3.7%
矯正歯科	16	7.3%
その他	4	1.8%
合計	219	100.0%



○ 認知症について

【問3】 貴院を受診される方で、認知症のご本人はどの程度いますか。(1つに○)

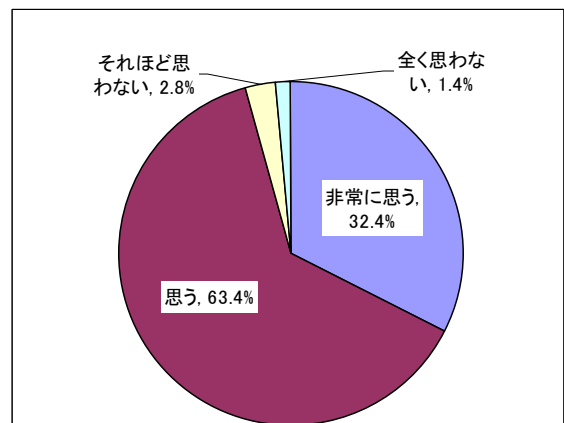
選択項目	件数	構成比
多い	2	1.0%
ある程度いるようである	114	57.3%
いない	54	27.1%
わからない	29	14.6%
合計	199	100.0%



歯科診療機関における認知症のご本人の受診数については、「ある程度いるようである」(57.3%)との回答が最も多くなっています。次いで「いない」(27.1%)、「わからない」(14.6%)の順になっています。

【問4】 口腔ケアは認知症のご本人の介護者にとって負担だと思いますか。(1つに○)

選択項目	件数	構成比
非常に思う	47	32.4%
思う	92	63.4%
それほど思わない	4	2.8%
全く思わない	2	1.4%
合計	145	100.0%



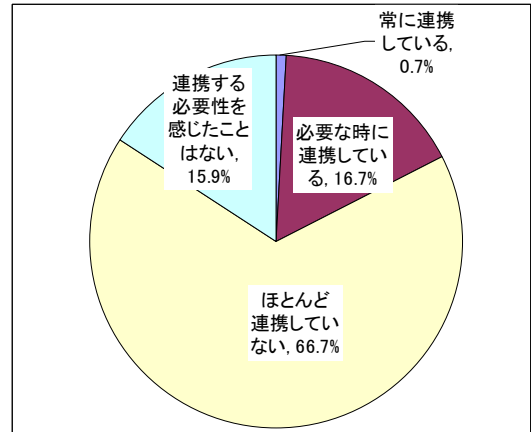
認知症のご本人の介護者にとって「口腔ケア」が負担かどうかについては、「負担だと思ふ」(63.4%)との回答が最も多くなっています。次いで「非常に思ふ」(32.4%)、「それほど思わない」(2.8%)の順になっています。

なお、「非常に思ふ」と「思ふ」の合計は、95.8%となっていますが、「全く思わない」という回答も1.4%存在しています。

○ 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携について

【問5】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の状況（1つに○）

選択項目	件数	構成比
常に連携している	1	0.7%
必要な時に連携している	23	16.7%
ほとんど連携していない	92	66.7%
連携する必要性を感じたことはない	22	15.9%
合計	138	100.0%



介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の状況については、「ほとんど連携していない」

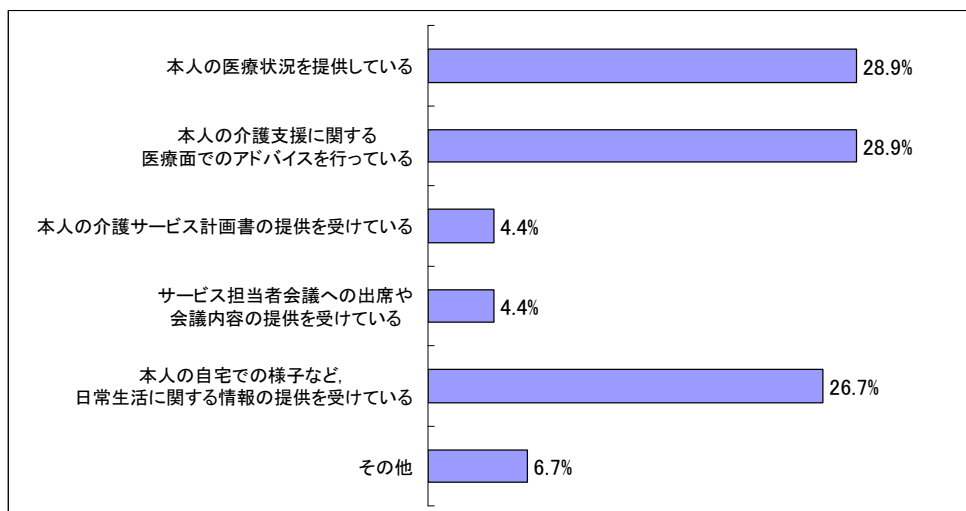
（66.7%）との回答が最も多くなっています。

次いで「必要な時に連携している」（16.7%）

「連携する必要性を感じたことはない」（15.9%）の順になっています。

【問6】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との具体的な連携の内容（複数回答可）

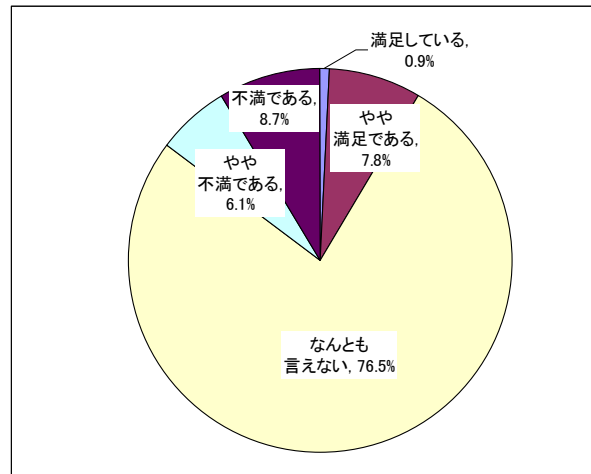
選択項目	件数	構成比
本人の医療状況を提供している	13	28.9%
本人の介護支援に関する医療面でのアドバイスを行っている	13	28.9%
本人の介護サービス計画書の提供を受けている	2	4.4%
サービス担当者会議への出席や会議内容の提供を受けている	2	4.4%
本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報の提供を受けている	12	26.7%
その他	3	6.7%
合計	45	100.0%



介護支援専門員（ケアマネジャー）との具体的な連携の内容については、「本人の医療状況を提供している」と「本人の介護支援に関する医療面でのアドバイスを行っている」との回答が28.9%と横並びになっています。次いで「本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報の提供を受けている」（26.7%）の順になっています。

【問7】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度（1つに○）

選択項目	件数	構成比
満足している	1	0.9%
やや満足である	9	7.8%
なんとも言えない	88	76.5%
やや不満である	7	6.1%
不満である	10	8.7%
合計	115	100.0%



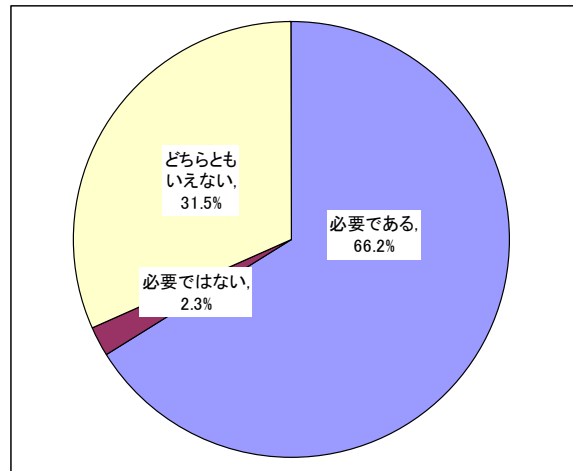
介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度については、「なんとも言えない」（76.5%）との回答が最も多くなっています。次いで「不満である」（8.7%）、「やや満足である」（7.8%）の順になっています。なお、「満足している」との回答は0.9%となっています。

【問7】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度に対する所感	
満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人に関する情報の提供は、治療上参考になる。</li> </ul>
やや満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての介護支援専門員（ケアマネジャー）とうまく連携している訳ではない。</li> </ul>
なんとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>今のところ連携する必要性がない。</li> </ul>
やや不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡を受けたことがない。</li> </ul>
不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>口腔ケアについての認識度が低い。</li> <li>連携したくても連携する方法が分からない。</li> <li>来院の予約をキャンセルされたりして信用する関係に無い。</li> <li>介護、医療、地域の連携システムが確立してない。</li> </ul>

【問8】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性（1つに○）

選択項目	件数	構成比
必要である	86	66.2%
必要ではない	3	2.3%
どちらともいえない	41	31.5%
合計	130	100.0%

介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性については、「必要である」（66.2%）との回答が最も多くなっています。次いで「どちらともいえない」が31.5%となっています。



【問8】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性に対する所感

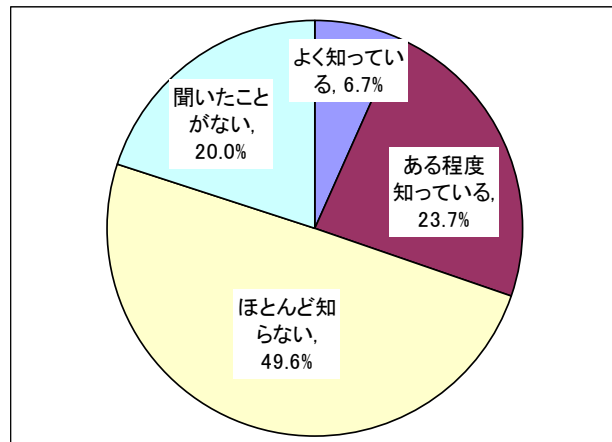
必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人の状態を正確にわからないので教えてほしい。</li> <li>専門家との協力は必要だと思う。</li> <li>口腔ケアは必要なので、それをケアマネジャーにお願いしたい。</li> <li>家族が苦勞しているケースが多く見られ、介護者、特に家族の苦勞は計り知れないと思う。</li> <li>困ったことがあれば相談したい。</li> <li>ケアマネなくして訪問外科はあり得ない。</li> <li>口腔内及び、全身の健康管理が必要な為。</li> <li>医療情報、アドバイスにより、治療が円滑に行える為。</li> <li>介護の現場でも歯科への対応システム作りが出来ていない為、ケアマネも困っていると思われるため。</li> </ul>
必要ではない	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャーより身内の介護者のほうが良い。</li> <li>信頼関係の築造が無い為</li> </ul>
どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでケアマネジャーと連携したことがない。</li> <li>今後、高齢者が増加すれば必要になるかもしれない。</li> <li>認知症の程度、患者の状態による。</li> </ul>



○ 地域包括支援センターとの連携について

【問9】 地域包括支援センターの認知度（1つに○）

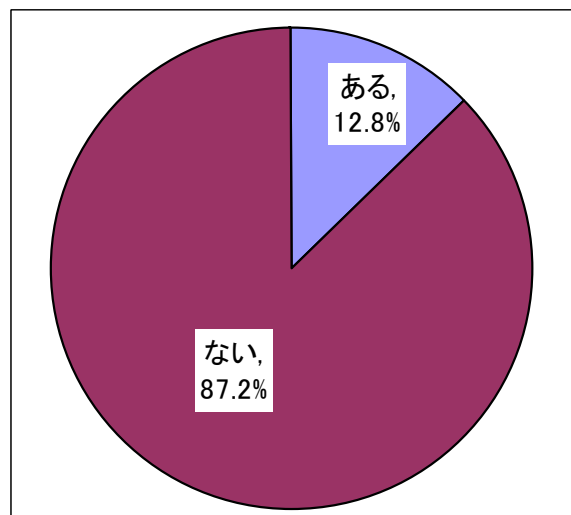
選択項目	件数	構成比
よく知っている	9	6.7%
ある程度知っている	32	23.7%
ほとんど知らない	67	49.6%
聞いたことがない	27	20.0%
合計	135	100.0%



地域包括支援センターの認知度については、「ほとんど知らない」（49.6%）との回答が最も多くなっています。次いで「ある程度知っている」（23.7%）、「聞いたことがない」（20.0%）の順になっています。また、「ほとんど知らない」と「聞いたことがない」の合計が全体の約70%を占める結果となっています。

【問10】（【問9】「よく知っている」・「ある程度知っている」回答者が対象）  
日ごろの業務で地域包括支援センターと関わりの有無（1つに○）

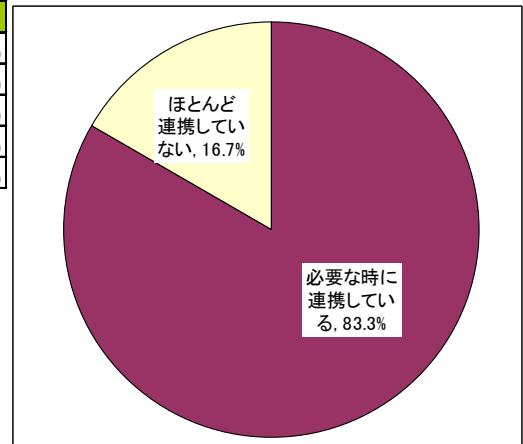
選択項目	件数	構成比
ある	6	12.8%
ない	41	87.2%
合計	47	100.0%



日ごろの業務での地域包括支援センターとの関わりについては、「ない」との回答が87.2%となっています。

【問 11】（【問 10】で地域包括支援センターと関わりがある歯科診療機関が対象）  
地域包括支援センターとの連携の状況（1つに○）

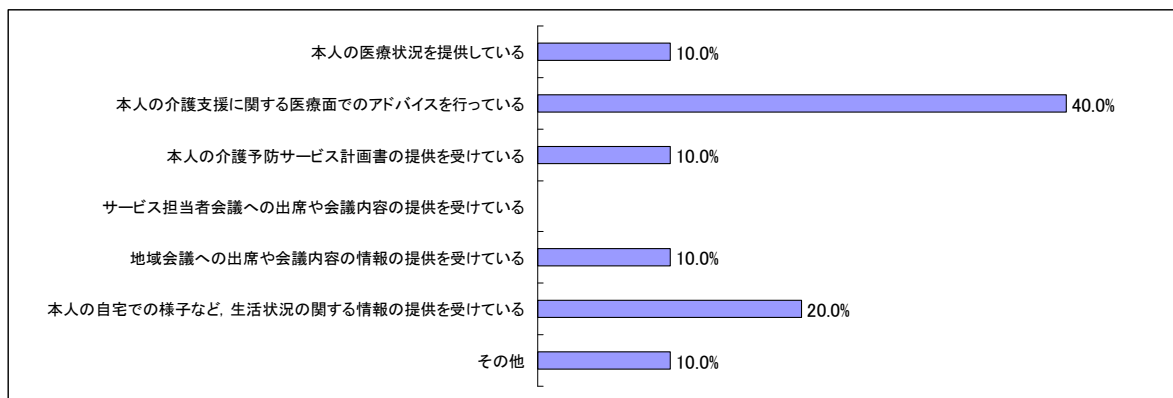
選択項目	件数	構成比
常に連携している	0	0.0%
必要な時に連携している	5	83.3%
ほとんど連携していない	1	16.7%
連携する必要性を感じたことはない	0	0.0%
合計	6	100.0%



地域包括支援センターとの連携の状況については、「必要な時に連携している」との回答が83.3%となっています。

【問 12】（【問 10】で地域包括支援センターと関わりがある歯科診療機関が対象）  
地域包括支援センターとの具体的な連携の内容（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
本人の医療状況を提供している	1	10.0%
本人の介護支援に関する医療面でのアドバイスを行っている	4	40.0%
本人の介護予防サービス計画書の提供を受けている	1	10.0%
サービス担当者会議への出席や会議内容の提供を受けている	0	0.0%
地域会議への出席や会議内容の情報の提供を受けている	1	10.0%
本人の自宅での様子など、生活状況に関する情報の提供を受けている	2	20.0%
その他	1	10.0%
合計	10	100.0%



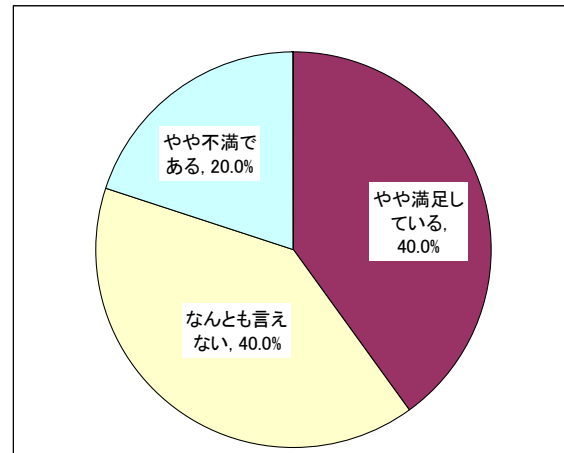
地域包括支援センターとの具体的な連携の内容については、「本人の介護支援に関する医療面でのアドバイスを行っている」（40.0%）との回答が最も多くなっています。

次いで「本人の自宅での様子など、生活状況に関する情報の提供を受けている」が20.0%となっています。

【問 13】（【問 10】 で地域包括支援センターと関わりがある歯科診療機関が対象）

地域包括支援センターとの連携の満足度（1つに○）

選択項目	件数	構成比
満足している	0	0.0%
やや満足している	2	40.0%
なんとも言えない	2	40.0%
やや不満である	1	20.0%
不満である	0	0.0%
合計	5	100.0%

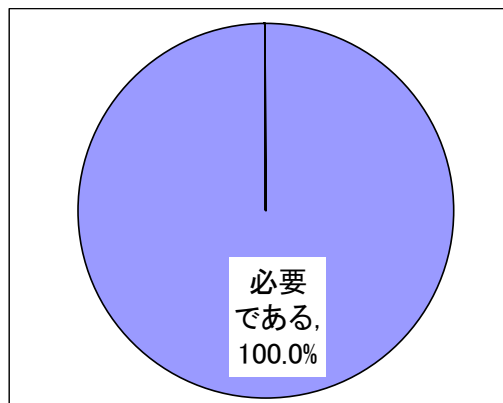


地域包括支援センターとの連携の満足度については、「やや満足している」と「なんとも言えない」との回答が40.0%で横並びになっています。次いで「やや不満である」が20.0%となっています。

【問 13】 地域包括支援センターとの連携の満足度に対する所感	
満足	—
やや満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターの職員は、よくやってくれている。</li> </ul>
なんとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターの知名度・認知度が無い。</li> <li>ほとんど連携が無い。</li> </ul>
やや不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域包括支援センターの活動が介護主体で、歯科との連携は希薄なのは。</li> </ul>
不満	—

【問 14】（【問 10】で地域包括支援センターと関わりがある歯科診療機関が対象）  
地域包括支援センターとの連携の必要性（1つに○）

選択項目	件数	構成比
必要である	6	100.0%
必要ではない	0	0.0%
どちらともいえない	0	0.0%
合計	6	100.0%



地域包括支援センターとの連携の必要性については、「必要である」との回答が100.0%となっています。

【問 14】 地域包括支援センターとの連携の必要性に対する所感

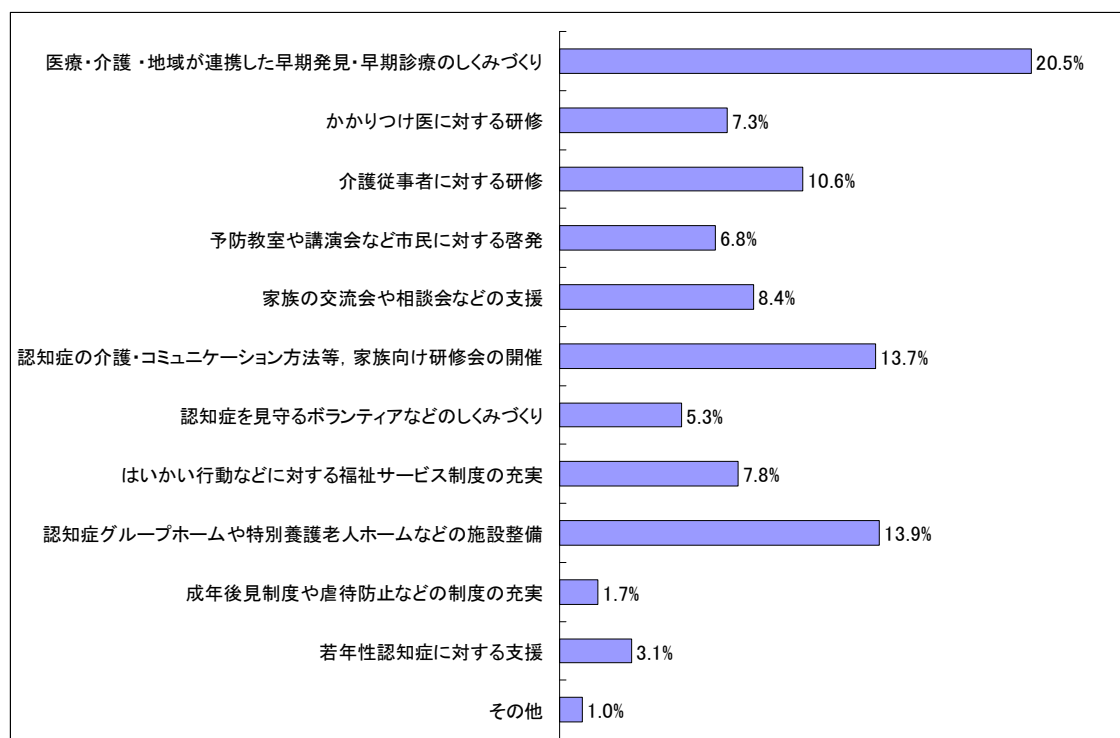
必要である

- ・ 認知症の方への対応を理解していると思われるため。
- ・ 本人に関する情報の交換のため。
- ・ 介護者、家族にとって有益である。
- ・ 連携のシステムを確立していないと前進しない。
- ・ これからますます認知症が増え、在宅の診療が増加すると予想されるため。
- ・ 歯科治療は、院外でのケアも重要だから。
- ・ 認知症の方に関わるケアマネ、包括支援センター、医師、歯科医師、家族、介護事業者が同じ情報を共有する上で、本人任せは通用しないと思う。
- ・ 口腔ケアの必要性から当然と考える。
- ・ 連携が得られれば、診療時に参考になる。

○ 認知症対策全般について

【問 15】 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。（3つに○）

選択項目	件数	構成比
医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療のしくみづくり	124	20.5%
かかりつけ医に対する研修	44	7.3%
介護従事者に対する研修	64	10.6%
予防教室や講演会など市民に対する啓発	41	6.8%
家族の交流会や相談会などの支援	51	8.4%
認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催	83	13.7%
認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり	32	5.3%
はいかい行動などに対する福祉サービス制度の充実	47	7.8%
認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備	84	13.9%
成年後見制度や虐待防止などの制度の充実	10	1.7%
若年性認知症に対する支援	19	3.1%
その他	6	1.0%
合計	605	100.0%



今後、認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・地域」が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」（20.5%）との回答が最も多くなっています。次いで「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」（13.9%）、「認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催」（13.7%）の順になっています。

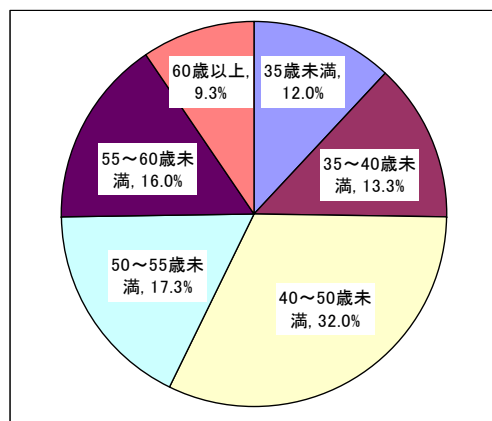
## 6 介護支援事業者アンケート調査

### ○ 介護支援事業者の状況

【問1】回答者属性（1つに○）

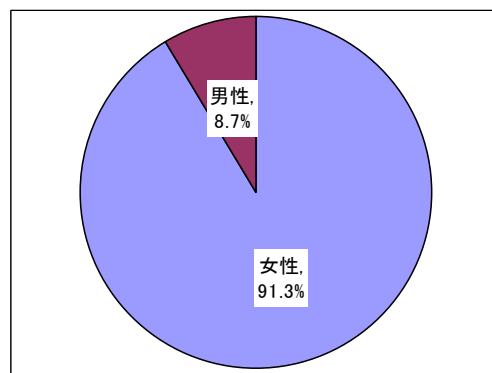
#### (1) 年齢

選択項目	件数	構成比
35歳未満	9	12.0%
35～40歳未満	10	13.3%
40～50歳未満	24	32.0%
50～55歳未満	13	17.3%
55～60歳未満	12	16.0%
60歳以上	7	9.3%
合計	75	100.0%



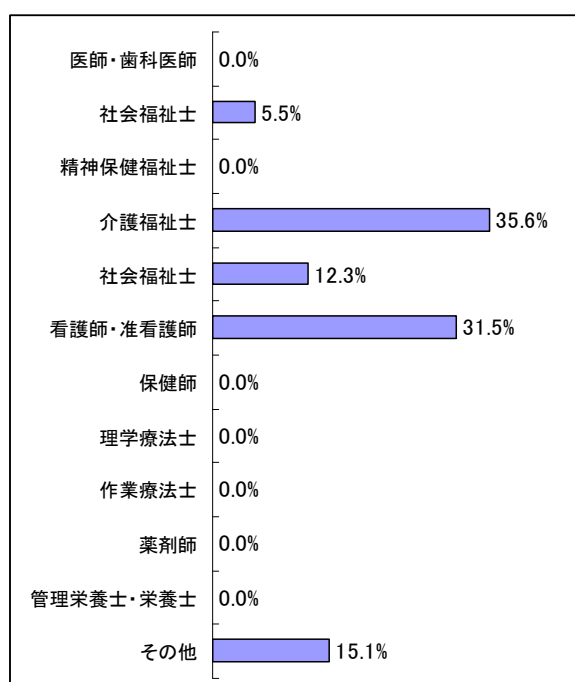
#### (2) 性別

選択項目	件数	構成比
女性	105	91.3%
男性	10	8.7%
合計	115	100.0%



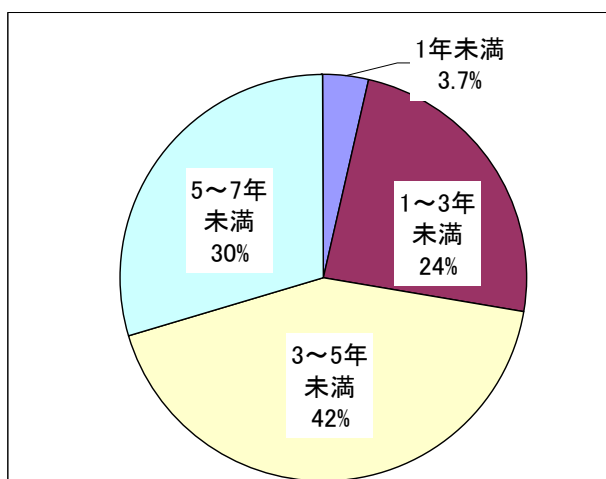
#### (3) 基礎職種

選択項目	件数	構成比
医師・歯科医師	0	0.0%
社会福祉士	4	5.5%
精神保健福祉士	0	0.0%
介護福祉士	26	35.6%
社会福祉士	9	12.3%
看護師・准看護師	23	31.5%
保健師	0	0.0%
理学療法士	0	0.0%
作業療法士	0	0.0%
薬剤師	0	0.0%
管理栄養士・栄養士	0	0.0%
その他	11	15.1%
合計	73	100.0%



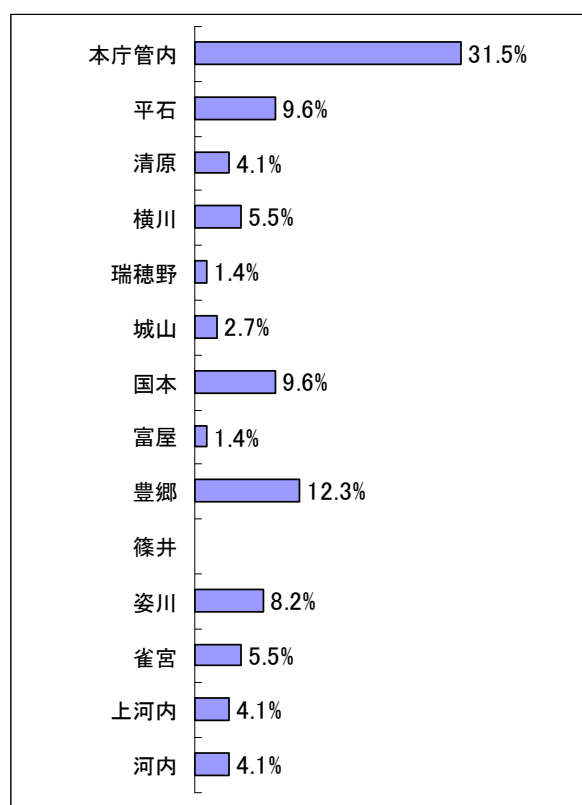
(4) 経験年数

選択項目	件数	構成比
1年未満	2	3.7%
1～3年未満	13	24.1%
3～5年未満	23	42.6%
5～7年未満	16	29.6%
合計	54	100.0%



(5) 事業所の所在地

選択項目	件数	構成比
本庁管内	23	31.5%
平石	7	9.6%
清原	3	4.1%
横川	4	5.5%
瑞穂野	1	1.4%
城山	2	2.7%
国本	7	9.6%
富屋	1	1.4%
豊郷	9	12.3%
篠井	0	0.0%
姿川	6	8.2%
雀宮	4	5.5%
上河内	3	4.1%
河内	3	4.1%
合計	73	100.0%



○ 認知症のサービス利用者について

【問2】 平成21年9月中に担当していた全ケース中で、認知症の方は何人いましたか。また、認知症の方のうち、援助困難だと思われる方は何人いましたか。

選択項目	件数	構成比
平成21年9月中の担当ケース	2,119	—
上記のうち認知症の方	962	45.4%
上記のうち援助困難の方	188	19.5%

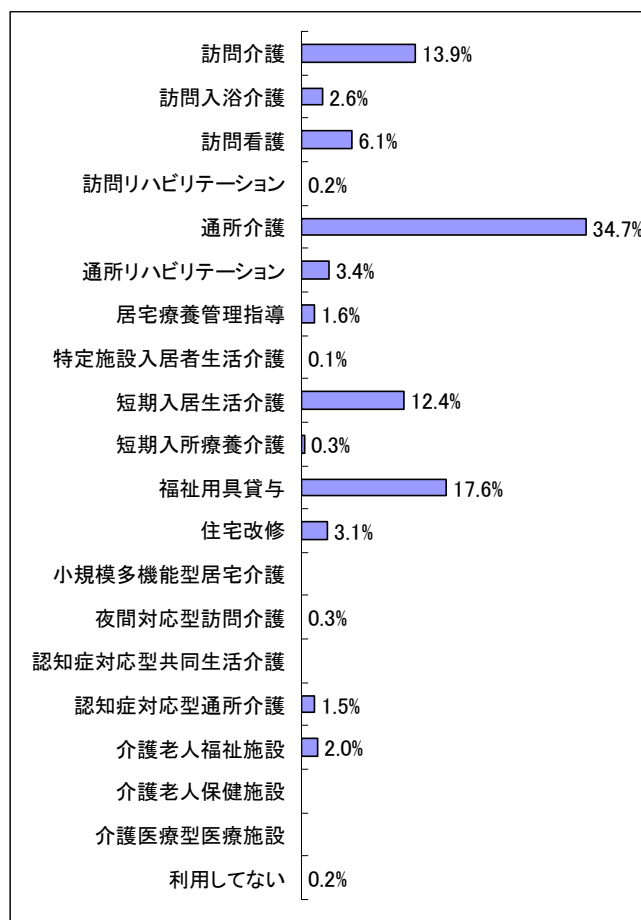
アンケート調査に回答のあった介護支援専門員（ケアマネジャー）が、平成21年9月中に担当したケースの合計は【2,119件】となっています。このうち、認知症の方が【962件】となっており全ケースに占める割合は45.4%となっています。

また、認知症の方のケースのうち、援助困難な方は【188件】となっており、認知症の方のケースに占める割合は19.5%となっています。

○ 認知症の判断は、主治医意見書及び訪問調査で認知症高齢者の日常生活自立度がI以上であることを目安に、回答者の判断により回答のあった件数を集計している。

【問3】 問2であなたが認知症と判断した方は、どのようなサービスを利用していましたか。それぞれのサービスの利用人数をお答えください。（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
訪問介護	244	13.9%
訪問入浴介護	46	2.6%
訪問看護	108	6.1%
訪問リハビリテーション	4	0.2%
通所介護	610	34.7%
通所リハビリテーション	60	3.4%
居宅療養管理指導	28	1.6%
特定施設入居者生活介護	1	0.1%
短期入居生活介護	219	12.4%
短期入所療養介護	6	0.3%
福祉用具貸与	309	17.6%
住宅改修	55	3.1%
小規模多機能型居宅介護	0	0.0%
夜間対応型訪問介護	5	0.3%
認知症対応型共同生活介護	0	0.0%
認知症対応型通所介護	27	1.5%
介護老人福祉施設	35	2.0%
介護老人保健施設	0	0.0%
介護医療型医療施設	0	0.0%
利用していない	3	0.2%
合計	1,760	100.0%

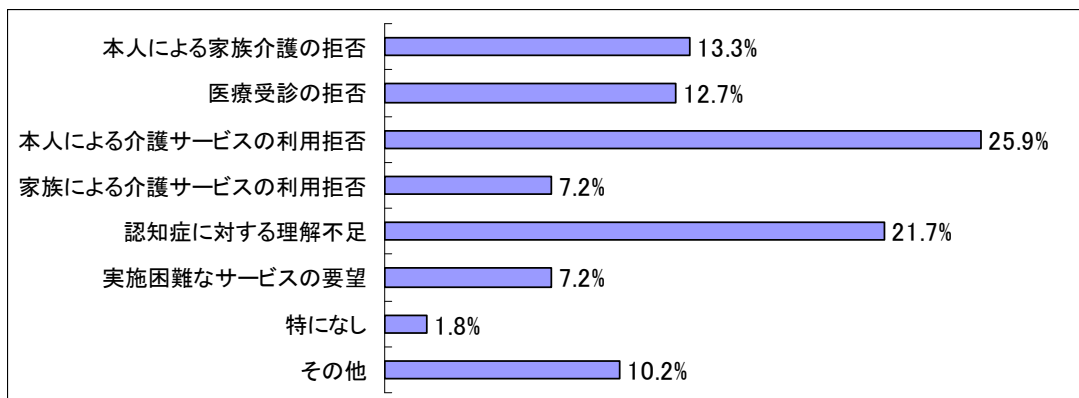




問2の認知症に該当する方が利用した介護保険サービスについては、「通所介護（デイサービス）」が34.7%と最も多くなっています。次いで「福祉用具貸与」（17.6%）、「訪問介護」（13.9%）、「短期入所生活介護」（12.4%）の順になっています。

【問4】 認知症の方の困難事例（複数回答可）

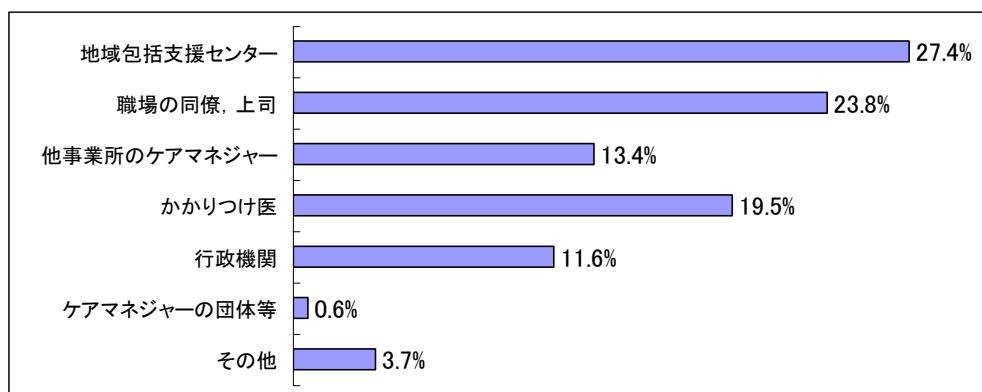
選択項目	件数	構成比
本人による家族介護の拒否	22	13.3%
医療受診の拒否	21	12.7%
本人による介護サービスの利用拒否	43	25.9%
家族による介護サービスの利用拒否	12	7.2%
認知症に対する理解不足	36	21.7%
実施困難なサービスの要望	12	7.2%
特になし	3	1.8%
その他	17	10.2%
合計	166	100.0%



認知症の方の困難事例については、「本人による介護サービスの利用拒否」（25.9%）との回答が最も多くなっています。次いで「認知症に対する理解不足」（21.7%）、「本人による家族介護の拒否」（13.3%）、「医療受診の拒否」（12.7%）の順になっています。なお、その他としては、「ひとり暮らし」や「本人と家族間の問題」という意見が多くなっています。

【問5】 認知症の方の困難事例の相談先（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
地域包括支援センター	45	27.4%
職場の同僚、上司	39	23.8%
他事業所のケアマネジャー	22	13.4%
かかりつけ医	32	19.5%
行政機関	19	11.6%
ケアマネジャーの団体等	1	0.6%
その他	6	3.7%
合計	164	100.0%



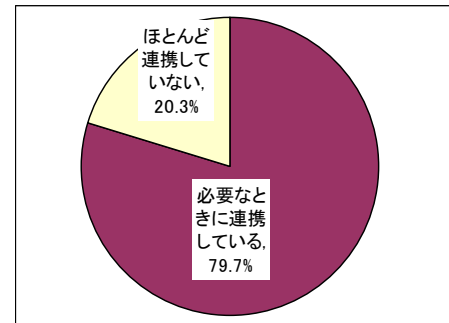
介護支援専門員（ケアマネジャー）が、認知症の方の困難事例を相談する先については、「地域包括支援センター」（27.4%）との回答が最も多くなっています。次いで「職場の同僚, 上司」（23.8%）, 「かかりつけ医（主治医）」（19.5%）の順になっています。

なお、「その他」としては、「サービス提供先の事業者」という回答が多くなっています。

○ 医療機関との連携について

【問6】 認知症の方のかかりつけ医（主治医）との連携の状況（1つに○）

選択項目	件数	構成比
常に連携している	0	0.0%
必要なときに連携している	59	79.7%
ほとんど連携していない	15	20.3%
連携する必要性を感じたことはない	0	0.0%
合計	74	100.0%

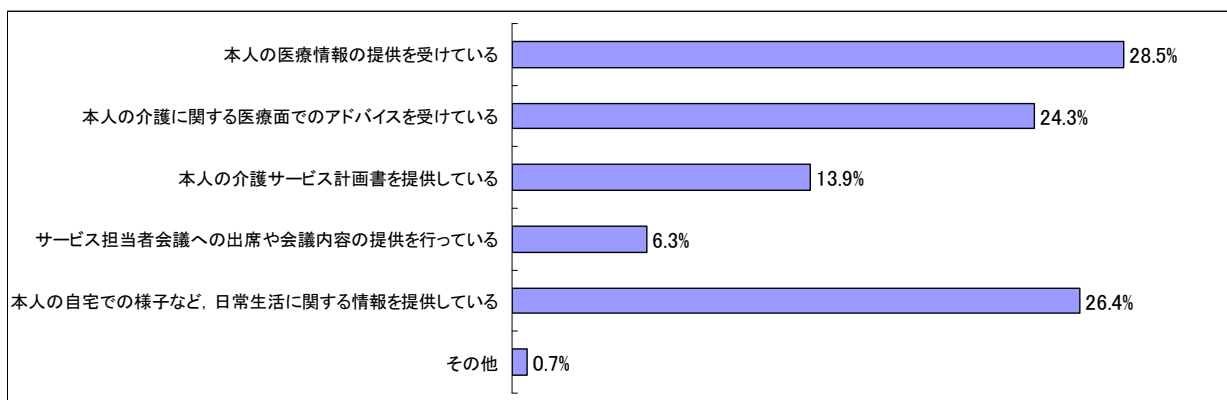


かかりつけ医（主治医）との連携の状況については、「必要な時に連携している」との回答が79.7%と最も多くなっています。次いで「ほとんど連携していない」が20.3%となっています。

【問7】（【問6】「常に連携」「必要な時に連携」回答者が対象）

認知症の方のかかりつけ医（主治医）との具体的な連携内容（複数回答可）

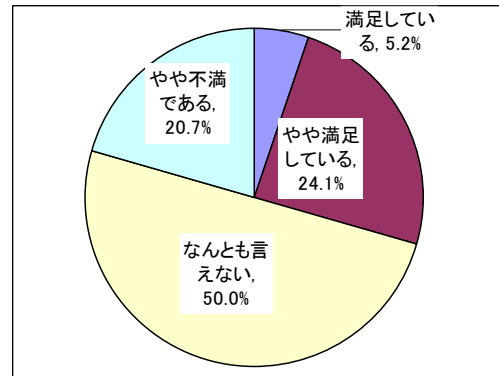
選択項目	件数	構成比
本人の医療情報の提供を受けている	41	28.5%
本人の介護に関する医療面でのアドバイスを受けている	35	24.3%
本人の介護サービス計画書を提供している	20	13.9%
サービス担当者会議への出席や会議内容の提供を行っている	9	6.3%
本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報を提供している	38	26.4%
その他	1	0.7%
合計	144	100.0%



認知症の方のかかりつけ医（主治医）との具体的な連携の内容については、「本人の医療情報の提供を受けている」（28.5%）との回答が最も多くなっています。次いで「本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報を提供している」（26.4%）、「本人の介護に関する医療面でのアドバイスを受けている」（24.3%）の順になっています。

【問8】 かかりつけ医（主治医）との連携の満足度（1つに○）

選択項目	件数	構成比
満足している	3	5.2%
やや満足している	14	24.1%
なんとも言えない	29	50.0%
やや不満である	12	20.7%
合計	58	100.0%



かかりつけ医（主治医）との連携の満足度については、「なんとも言えない」との回答が50.0%と最も多くなっています。次いで「やや満足している」（24.1%）、「やや不満である」（20.7%）の順になっています。

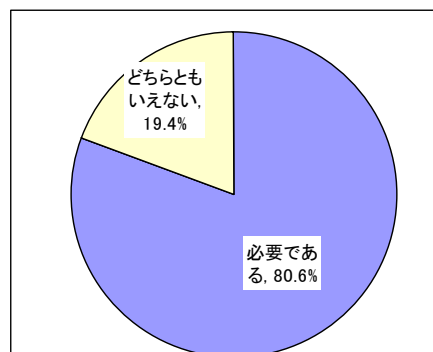
【問8】 かかりつけ医（主治医）との連携の満足度に対する所感

満足	—
やや満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 緊急時の対応の仕方や、療養指導など受けている。</li> <li>・ 主治医が大病院だと連携がむずかしい。</li> <li>・ 医師により対応が違い、理解ある医師にどうしてもお願いしたくなる。</li> <li>・ 医療知識のスキル向上。</li> <li>・ 必要時に連携しているから。</li> <li>・ 日常生活上の注意点を知る上で。</li> </ul>
なんとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入院、退院の時しか連携していない。</li> <li>・ 受診の同行が多く、負担が大きい。</li> <li>・ 時間調整が困難。</li> <li>・ ケアマネジャーから直接コンタクトをとりづらい。</li> <li>・ 大学病院や総合病院の医師の場合、忙しくなかなか面会し話し合えない。</li> <li>・ 書面での情報提供だと主治医からの反応がない</li> <li>・ 医師によっては、話を聞けない人もいます。</li> <li>・ よく協力してくれる主治医は限られている。</li> <li>・ 予約制ではないので、待ち時間が2時間以上で大変。</li> </ul>

<p>やや不満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者会議への出席を求めるに当って、消極的になってしまう。</li> <li>・ 先生による対応の差が激しいのでうまく対応できないことが多い。</li> <li>・ 認知症に対する理解がない主治医もいる。</li> <li>・ 主治医はどの程度まで、ケアマネと連携を図りたいと思っているのかみえてこない。</li> <li>・ 待ち時間が長い。</li> <li>・ 認知症の方への対応が良くない，親身になっていない，認知症についての理解不足。</li> <li>・ 診察日等に合わせて面接をするが，忙しそうで迷惑に感じることもある。</li> <li>・ 年のせいだからとか，周辺症状がひどくても適切な投与をしてくれない。</li> <li>・ 家族への説明が不足。</li> <li>・ 連携を取り易い主治医とそうでない主治医がいる。</li> </ul>
<p>不満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主治医が忙しい事もあり，なかなか連携が図れない。</li> </ul>

【問9】 かかりつけ医（主治医）との連携の必要性（1つに○）

選択項目	件数	構成比
必要である	54	80.6%
必要ではない	0	0.0%
どちらともいえない	13	19.4%
合計	67	100.0%



かかりつけ医（主治医）との連携の必要性については、「必要である」との回答が80.6%となっています。

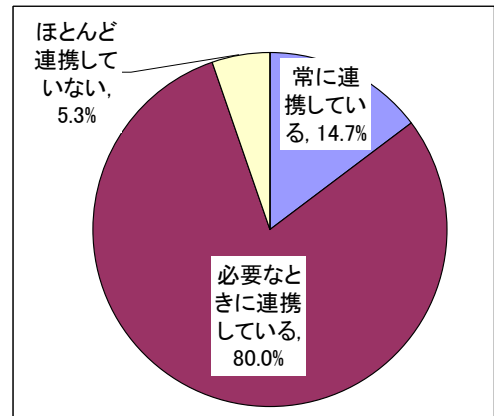
【問9】 かかりつけ医（主治医）との連携の必要性に対する所感

必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス利用に関してのアドバイスや身体状況の把握の為、必要不可欠であるとする。</li> <li>医療面の知識があまりないので、在宅医療における注意点等が大切だと思う。</li> <li>内服薬など症状に応じた受診や治療の提供の確認のため。</li> <li>疾病だけでなく、生活を含めたその人を知って頂いた上でケアチームに加わって頂きたい。</li> <li>緊急時やサービス利用時に何かあった時に、相談することにより家族との信頼関係が深くなる。</li> <li>在宅生活の様子や家族の介護状況などかかりつけ医が知らない事あり、また、重要なことについて主治医から得る情報も多くあるため。</li> <li>連携を図ることで安心して支援の方向性の確認が行え、サービス提供ができる。</li> <li>マネジメントの質が向上すると共に本人の病状が安定することにも繋がる。</li> <li>主治医の言うことは良くきくので、主治医とケアマネの連携は絶対に必要不可欠だと思う。</li> <li>必要であると思うが、日常生活で困っている事を伝える医療的アドバイスがあるが、在宅での生活に必要な回答は得られてない。</li> <li>介護する人がいないなど、一人暮らしの人への対応なども相談している。</li> </ul>
どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>非協力的な医師が多いと感じる。</li> <li>主治医によっては、「認知症については専門医を受診し、相談してください」と言われる方がいる。</li> <li>家族が在宅介護の状況をきちんと伝えられ、皆が様子をよくわかっている時は、連携は必要な時で充分</li> <li>主治医であっても本人の状況を把握していないことが多い。</li> <li>介護保険への理解不足</li> </ul>

○ 地域包括支援センターとの連携について

【問 10】 地域包括支援センターとの連携の状況（1つに○）

選択項目	件数	構成比
常に連携している	11	14.7%
必要なときに連携している	60	80.0%
ほとんど連携していない	4	5.3%
連携する必要性を感じたことはない	0	0.0%
合計	75	100.0%

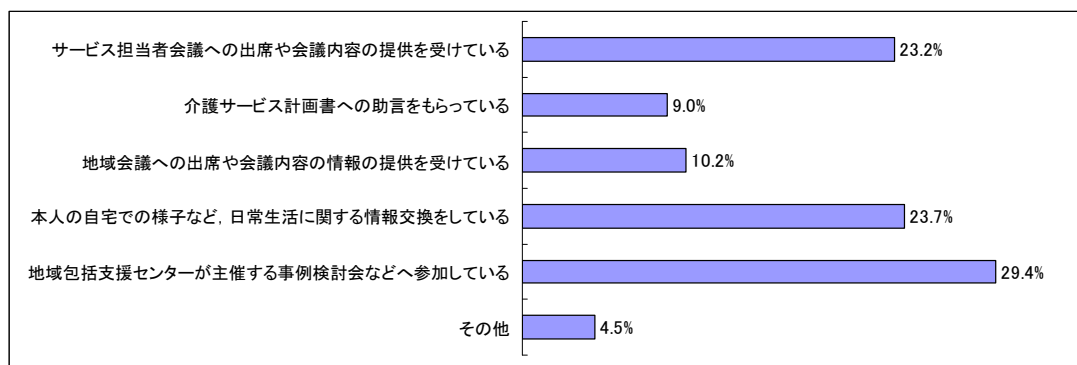


地域包括支援センターとの連携の状況については、「必要な時に連携している」との回答が80.0%と最も多くなっています。次いで「常に連携している」（14.7%）、「ほとんど連携していない」（5.3%）の順になっています。

【問 11】（【問 10】「常に連携」「必要な時に連携」回答者が対象）

地域包括支援センターとの具体的な連携の内容（複数回答可）

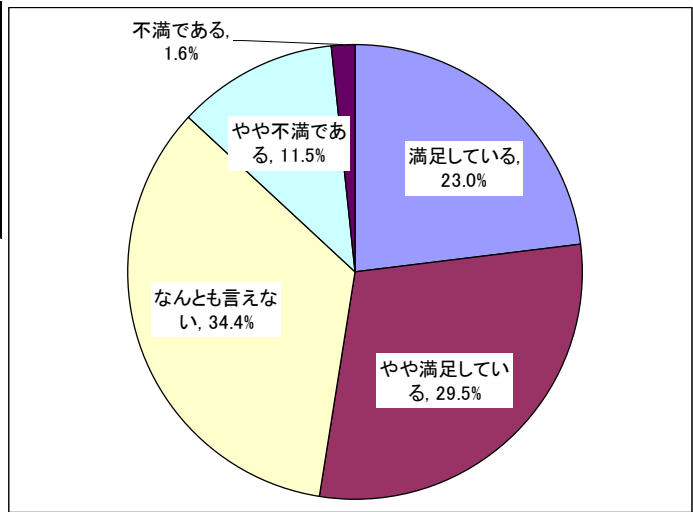
選択項目	件数	構成比
サービス担当者会議への出席や会議内容の提供を受けている	41	23.2%
介護サービス計画書への助言をもらっている	16	9.0%
地域会議への出席や会議内容の情報の提供を受けている	18	10.2%
本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報交換をしている	42	23.7%
地域包括支援センターが主催する事例検討会などへ参加している	52	29.4%
その他	8	4.5%
合計	177	100.0%



地域包括支援センターとの具体的な連携の内容については、「地域包括支援センターが主催する事例検討会などへ参加している」（29.4%）との回答が最も多くなっています。次いで「本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報交換」（23.7%）、「サービス担当者介護への出席や会議内容の提供」（23.2%）の順になっています。

【問 12】 地域包括支援センターとの連携の満足度（1つに○）

選択項目	件数	構成比
満足している	14	23.0%
やや満足している	18	29.5%
なんとも言えない	21	34.4%
やや不満である	7	11.5%
不満である	1	1.6%
合計	61	100.0%



地域包括支援センターとの連携の満足度については、「なんとも言えない」（34.4%）との回答が最も多くなっています。次いで「やや満足している」（29.5%）, 「満足している」（23.0%）の順になっています。

なお、「満足している」と「やや満足している」の合計は50%を超える結果となっています。

【問 8】 地域包括支援センターとの連携の満足度に対する所感

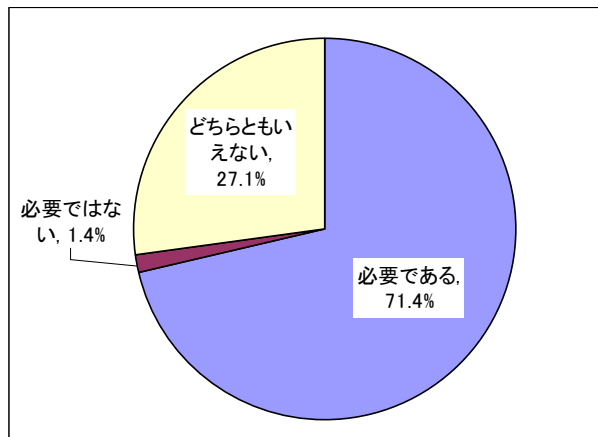
満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同一法人であり顔を合わせる機会が多い。</li> <li>・ お互いに情報を提供し、交換したり、困難なケースの相談にのってもらったりしている。</li> <li>・ とても気さくな方が多く気軽に話せ、相談にも親切丁寧に教えてくれる。</li> <li>・ 会議への参加や事例へのアドバイスがある。</li> <li>・ 対応が早く、横のつながりや知識が豊富で色々な助言が得られる。</li> <li>・ 必要な時に必要な指導が受けられる。</li> </ul>
やや満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人員不足で、土日は連絡が取れない事も多い。</li> <li>・ 何らかの相談事があれば連絡し、相談にのってもらえる。</li> <li>・ 介護予防や地域支援事業が忙しく、介護給付利用者に関しては、ケアマネジャーが行うものと認識が強く、あまり連携が図れない。</li> <li>・ 担当職員によって違いが大きい。</li> </ul>



<p>なんとも 言えない</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センターに温度差を感じる。</li> <li>・ 必要時以外は連絡がなくても特に支障ない。</li> <li>・ 地域包括支援センターからアドバイスを受ける事は少ない。</li> <li>・ 地域包括支援センターが関われる内容に限度がある。</li> <li>・ 地域包括支援センターの活動内容がPRされておらず、ケアマネジャーに対しての情報提供が少ない。</li> <li>・ 地域包括支援センターにより対応がさまざま、委託したからといってまかせっきりで関与しようとしていないセンターや、相談にのっていただけるセンターもあり、地域包括支援センターはあてにはできないとの思いがある。</li> <li>・ 結局のところ問題解決するのは全て自分になっている。</li> </ul>
<p>やや 不満</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困難事例に対して「要支援」の担当なのでとの答えにはがっかりする。</li> <li>・ 問いについては予防プランの委託の方のみ、その他の介護の方、地域の方への連携については不足あり。</li> <li>・ 要介護度の利用者はほとんど自社のケアマネジャーに依頼してしまう為、常にスッキリしない部分があり、必要な時に動いてくれない所がある。</li> </ul>
<p>不満</p>	<p>—</p>

【問 13】 地域包括支援センターとの連携の必要性（1つに○）

選択項目	件数	構成比
必要である	50	71.4%
必要ではない	1	1.4%
どちらともいえない	19	27.1%
合計	70	100.0%



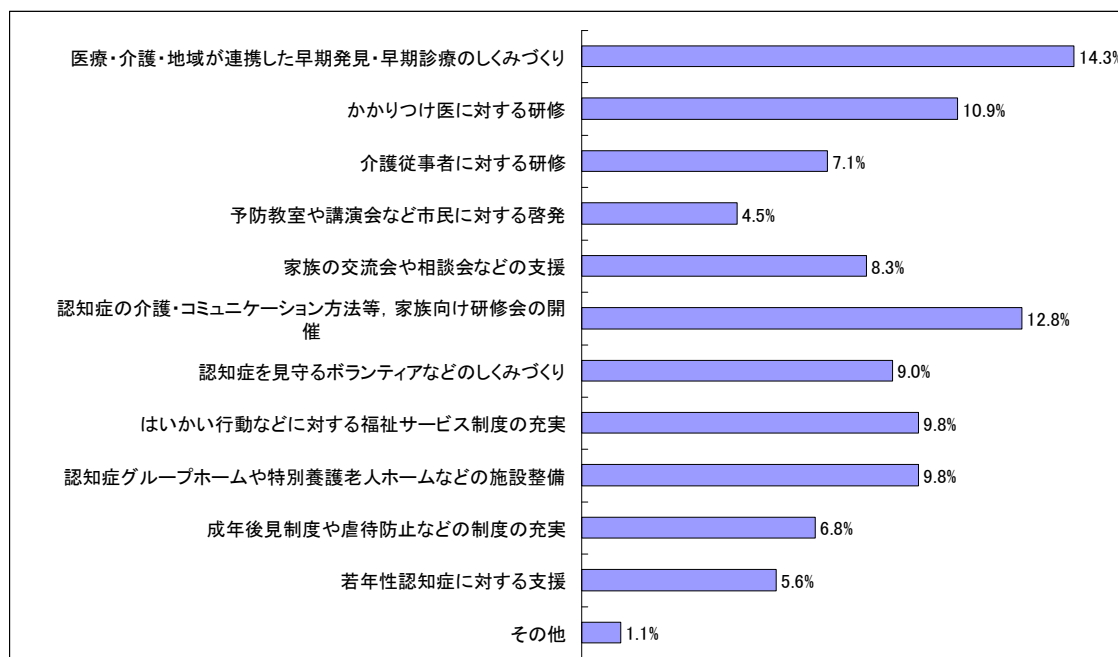
地域包括支援センターとの連携の必要性については、「必要である」（71.4%）との回答が最も多くなっています。次いで「どちらともいえない」（27.1%）、「必要ではない」（1.4%）の順になっています。

【問 13】 地域包括支援センターとの連携の必要性に対する所感	
必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の情報を密に知っている。</li> <li>・ 情報交換は必要。</li> <li>・ 本人、家族を地域の方全員で支え合っていく必要があるのでは。</li> <li>・ 介護の方向性を柔軟にしていくためにも必要であると考える。</li> <li>・ 困難ケースと一緒にいかかわってほしい。</li> <li>・ 地域でのインフォーマルサービスを含めたケアの構築が必須である。</li> <li>・ 虐待や独り暮らしなどの場合には必要。</li> <li>・ 総合窓口であるため、互いを知っておくのは大切。</li> <li>・ ケアマネ1人で困難事例を対処するにも限界あり、地域包括支援センターから助言をもらえると、援助しやすい。</li> <li>・ サービス事業所などの情報提供は必要</li> <li>・ 「地域包括」と名にあるようにセンター内の地域関係者と相談等できるようコーディネートをしていただき、ケアマネもまた地域支援の一員として協力できるようにしていきたい。</li> <li>・ 徘徊や介護拒否等に関する相談・支援がある。</li> <li>・ 一人暮らしの利用者の場合は一人で判断できない事も多い。</li> </ul>
必要ではない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上目線で物事を言ったりするので利用者にも存在がわからない。</li> </ul>
どちらともいえない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 制度の整備が必要である。</li> <li>・ 地域包括支援センターによる。</li> <li>・ 介護予防プランの作成を受けないと、相手にしてもらえない。</li> <li>・ 介護予防プランの作成を受けなければ、特に必要はない。</li> <li>・ 地域援助希望者の把握が出来ない。</li> </ul>

○ 認知症対策全般について

【問 14】 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。あてはまるものに○をつけてください（3つ）

選択項目	件数	構成比
医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療のしくみづくり	38	14.3%
かかりつけ医に対する研修	29	10.9%
介護従事者に対する研修	19	7.1%
予防教室や講演会など市民に対する啓発	12	4.5%
家族の交流会や相談会などの支援	22	8.3%
認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催	34	12.8%
認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり	24	9.0%
はいかい行動などに対する福祉サービス制度の充実	26	9.8%
認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備	26	9.8%
成年後見制度や虐待防止などの制度の充実	18	6.8%
若年性認知症に対する支援	15	5.6%
その他	3	1.1%
合計	266	100.0%



今後、認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・地域」が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」（14.3%）との回答が最も多くなっています。次いで「認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催」（12.8%）、「かかりつけ医に対する研修」（10.9%）の順になっています。

## 7 地域包括支援センターアンケート調査

### ○ 認知症の対応について

【問1】 地域包括支援センターが、平成21年4月から9月末までの半年間に相談を受けた全ケース中、認知症に関連のあるケースは何件ありましたか。

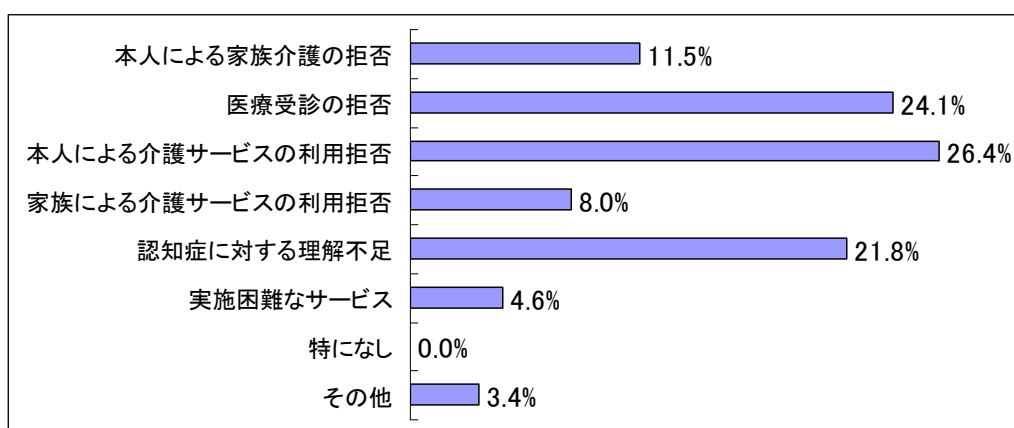
選択項目	件数	構成比
平成21年4月から9月末までの半年間に相談を受けたケース数	9,864	-
上記のうち認知症に関連のあるケース数	1,901	19.3%

地域包括支援センターが平成21年4月から9月末までの半年間に相談を受けたケース数は【9,864件】となっています。

このうち、認知症に関連のある相談ケースについては【1,901件】となっており、半年間の相談ケースに対して19.3%を占める結果となっています。

【問2】 認知症の方の困難事例（複数回答可）

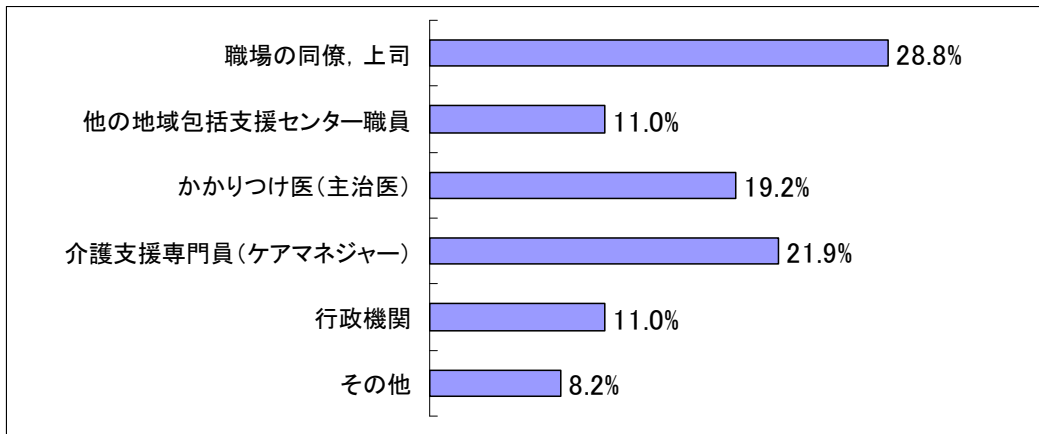
選択項目	件数	構成比
本人による家族介護の拒否	10	11.5%
医療受診の拒否	21	24.1%
本人による介護サービスの利用拒否	23	26.4%
家族による介護サービスの利用拒否	7	8.0%
認知症に対する理解不足	19	21.8%
実施困難なサービス	4	4.6%
特になし	0	0.0%
その他	3	3.4%
合計	87	100.0%



認知症の方の困難事例については、「本人による介護サービスの利用拒否」(26.4%)との回答が最も多くなっています。次いで「医療受診の拒否」(24.1%),「認知症に対する理解不足」(21.8%)の順になっています。

【問3】 認知症の方の困難事例の相談先（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
職場の同僚, 上司	21	28.8%
他の地域包括支援センター職員	8	11.0%
かかりつけ医(主治医)	14	19.2%
介護支援専門員(ケアマネジャー)	16	21.9%
行政機関	8	11.0%
その他	6	8.2%
合計	73	100.0%



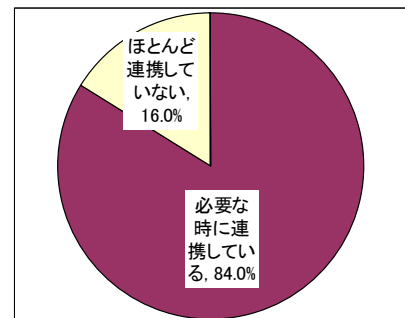
認知症の方の困難事例の相談先については、「職場の同僚, 上司」(28.8%)との回答が最も多くなっています。次いで「介護支援専門員(ケアマネジャー)」(21.9%), 「かかりつけ医(主治医)」(19.2%)の順になっています。

なお、「その他」としては、「民生委員」という回答が多くなっています。

○ 医療機関との連携について

【問4】 認知症の方のかかりつけ医(主治医)との連携状況(1つに○)

選択項目	件数	構成比
常に連携している	0	0.0%
必要な時に連携している	21	84.0%
ほとんど連携していない	4	16.0%
連携する必要性を感じたことはない	0	0.0%
合計	25	100.0%

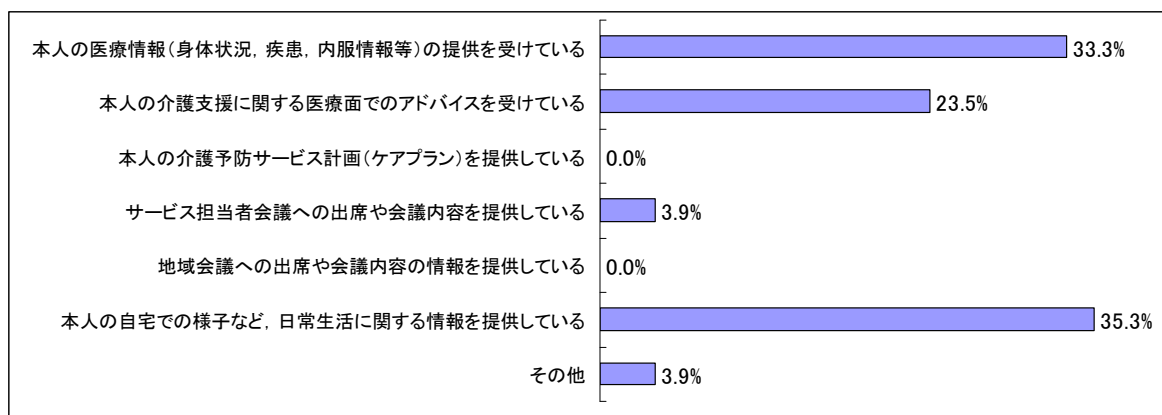


かかりつけ医(主治医)との連携の状況については、「必要な時に連携している」との回答が84.0%と最も多くなっています。次いで「ほとんど連携していない」が16.0%となっています。

【問5】（【問4】「常に連携」・「必要な時に連携」回答者を対象）

認知症の方のかかりつけ医（主治医）との具体的な連携の内容（複数回答可）

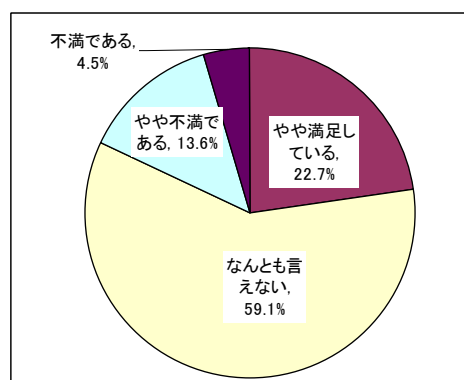
選択項目	件数	構成比
本人の医療情報（身体状況、疾患、内服情報等）の提供を受けている	17	33.3%
本人の介護支援に関する医療面でのアドバイスを受けている	12	23.5%
本人の介護予防サービス計画（ケアプラン）を提供している	0	0.0%
サービス担当者会議への出席や会議内容を提供している	2	3.9%
地域会議への出席や会議内容の情報を提供している	0	0.0%
本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報を提供している	18	35.3%
その他	2	3.9%
合計	51	100.0%



認知症の方のかかりつけ医（主治医）との具体的な連携の内容については、「本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報を提供している」（35.3%）との回答が最も多くなっています。次いで「本人の医療情報の提供を受けている」（33.3%）、「本人の介護に関する医療面でのアドバイスを受けている」（23.5%）の順になっています。

【問6】 かかりつけ医（主治医）との連携の満足度（1つに〇）

選択項目	件数	構成比
満足している	0	0.0%
やや満足している	5	22.7%
なんとも言えない	13	59.1%
やや不満である	3	13.6%
不満である	1	4.5%
合計	22	100.0%



かかりつけ医（主治医）との連携の満足度については、「なんとも言えない」（59.1%）との回答が最も多くなっています。次いで「やや満足している」（22.7%）、「やや不満である」（13.6%）の順になっています。

【問6】 かかりつけ医（主治医）との連携の満足度に対する所感	
満足	—
やや満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師の認知症への理解不足や地域包括支援センターとの連携に対する理解不足。</li> </ul>
なんとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どこまでの連携が可能なのかよくわからない</li> <li>・ 医師によって連携がとりにくいことがある。</li> <li>・ 担当者会議等への参加を依頼しているが出席がない。</li> <li>・ 認知症に対する理解・関心が医師によって違う</li> <li>・ 皆が皆協力的とは限らない</li> </ul>
やや不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師によって連携度の相違があるため</li> <li>・ 実際に連携していないため</li> </ul>
不満	—

【問7】 かかりつけ医（主治医）との連携の必要性（1つに○）

選択項目	件数	構成比
必要である	25	100.0%
必要ではない	0	0.0%
合計	25	100.0%

かかりつけ医（主治医）との連携の必要性については、全ての地域包括支援センターが「必要である」と回答しています。

【問7】 かかりつけ医（主治医）との連携の必要性に対する所感

必要である

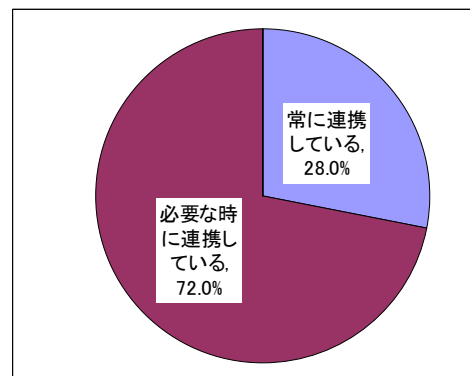
- ・ 認知症専門医への紹介や他疾患との関連があるため
- ・ 認知症の治療に関して医学的な意見が必要と思われるので
- ・ 日常生活の状況を反映させてもらう必要もあり必要。
- ・ 認知症ケアには、医療・介護の双方からの支援を融合したトータルケアが必要不可欠であるため
- ・ 病状や家庭生活の様子などの情報を共有することによって、より良い支援の方向性がみつかる。
- ・ 関係者間の共通理解が必要。医師として判断を仰ぐため。
- ・ 病状把握により、サービス提供につなげることができる。
- ・ 介護認定やその後の支援で、主治医が利用者の認知症の有無を知っているかで違う場合がある。
- ・ 認知症と疾患がある場合、関わる人が問題ととらえることが多い時等。
- ・ 医療上の情報を提供していただきケアプラン作成時に役立てる。
- ・ 医療面からの助言は大切だと思う。
- ・ より良い支援のため。
- ・ 認知症以外の疾患との関わりも大きく、診断名、進行程度により対応が異なるため、本人や家庭内の状況や服薬など、情報交換は不可欠。
- ・ 最終的にはドクターの意見が重要となるため



○ 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携について

【問 8】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の状況（1つに○）

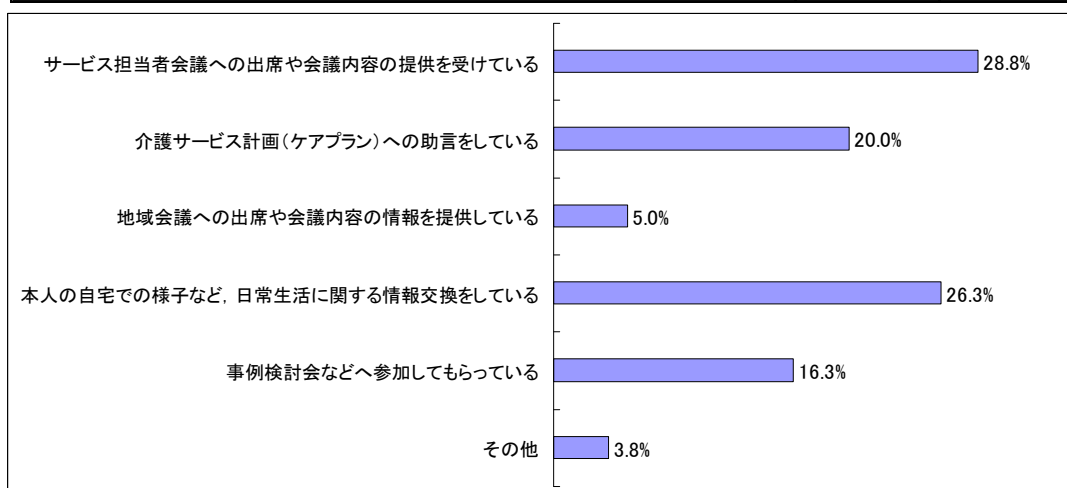
選択項目	件数	構成比
常に連携している	7	28.0%
必要な時に連携している	18	72.0%
ほとんど連携していない	0	0.0%
連携する必要性を感じたことはない	0	0.0%
合計	25	100.0%



【問 9】（【問 8】「常に連携」・「必要な時に連携」回答者が対象）

介護支援専門員（ケアマネジャー）との具体的な連携の内容（複数回答可）

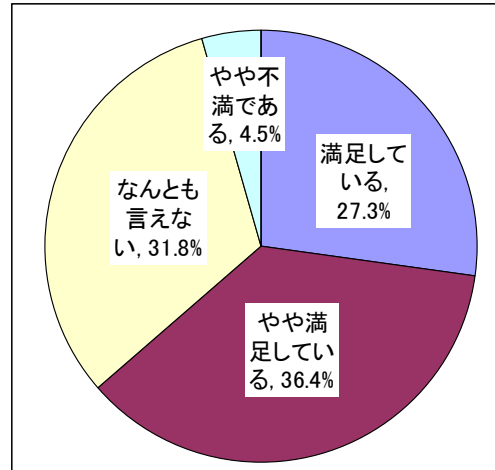
選択項目	件数	構成比
サービス担当者会議への出席や会議内容の提供を受けている	23	28.8%
介護サービス計画（ケアプラン）への助言をしている	16	20.0%
地域会議への出席や会議内容の情報を提供している	4	5.0%
本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報交換をしている	21	26.3%
事例検討会などへ参加してもらっている	13	16.3%
その他	3	3.8%
合計	80	100.0%



介護支援専門員（ケアマネジャー）との具体的な連携の内容については、「サービス担当者介護への出席や会議内容の提供を受けている」（28.8%）との回答が最も多くなっています。次いで「本人の自宅での様子など、日常生活に関する情報交換をしている」（26.3%）、「介護サービス計画（ケアプラン）への助言をしている」（20.0%）の順になっています。

【問 10】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度（1つに○）

選択項目	件数	構成比
満足している	6	27.3%
やや満足している	8	36.4%
なんとも言えない	7	31.8%
やや不満である	1	4.5%
不満である	0	0.0%
合計	22	100.0%



介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度については、「やや満足している」（36.4%）との回答が最も多くなっています。次いで「なんとも言えない」（31.8%）、「満足している」（27.3%）の順になっています。

【問 10】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の満足度に対する所感

満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に情報支援を行なっている。</li> <li>連携によって支援がスムーズに行われている。</li> </ul>
やや満足	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに細かいところまで情報交換できている</li> <li>困難なケースを引き受けていただけるケアマネジャーが何人かおり、連携できている</li> <li>介護サービス調整を円滑にして組んでくれる。</li> <li>ケアマネジャーによる。</li> <li>ケアマネジャーさんも忙しく、ゆっくり話をする時間がとりにくい。</li> </ul>
なんとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> <li>要介護認定を受けると、ケアマネジャーに引き継ぎ任せているのが現状で、その後の利用者の状況がつかめない。</li> <li>ケアマネジャーが地域包括支援センターとの連携を必要と思っているのか判らない。</li> </ul>
やや不満	<ul style="list-style-type: none"> <li>もう少し連携する必要がある。</li> </ul>
不満	—

【問 11】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性（1つに○）

選択項目	件数	構成比
必要である	25	100.0%
必要ではない	0	0.0%
合計	25	100.0%

介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性については、全ての地域包括支援センターが「必要である」と回答しています。

【問 10】 介護支援専門員（ケアマネジャー）との連携の必要性に対する所感

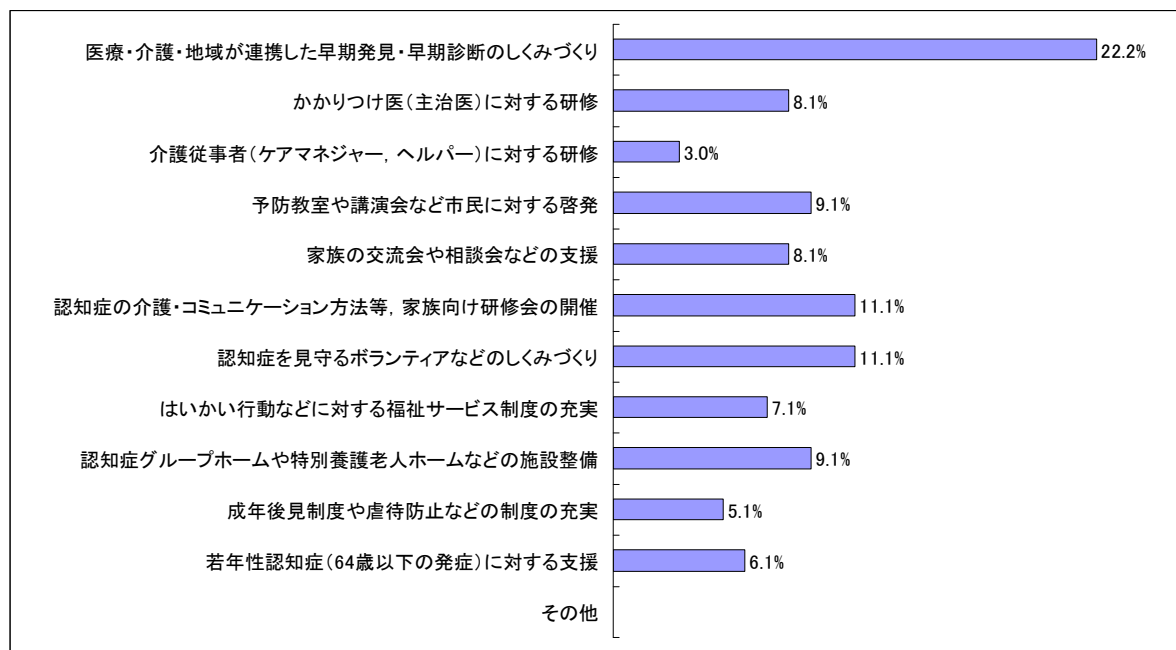
必要である

- ・ 情報を交換する等、気軽にできる点
- ・ 地域ケアの現状を共に把握していく必要がある
- ・ サービス利用について専門的に検討して欲しい。
- ・ 認知症で要介護認定を受けた場合、適切な対応をしてもらう必要がある
- ・ 困難ケースに対しては、地域包括支援センターとケアマネジャーの双方で支援を行う事により、より拡充されたサービス提供ができる
- ・ さまざまなケースに対し、お互いの専門性を活用して支援していく事が必要だと思う。
- ・ 情報交換を行い、多方面から支援を考えていくことが大切。
- ・ ケアマネジャーに限らず、地域、民生委員、自治会との連携が必要。
- ・ 情報交換をすることで、本人・家族へのより良い支援につながるため。
- ・ 困難事例に関しては必要。
- ・ 一人ケアマネジャーの事務所とは、定期的に話しをする事が必要。
- ・ 利用者がかかえる問題が多様化しており、地域包括支援センターの専門職への相談があるため。
- ・ 在宅での生活を支えていくには大切
- ・ 役割分担を行い、よい支援を行うため。
- ・ 社会資源情報等に関して互いの連携があったほうがよい。

○ 認知症対策全般について

【問 12】 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。あてはまるものに○をつけてください（3つ）

選択項目	件数	構成比
医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり	22	22.2%
かかりつけ医(主治医)に対する研修	8	8.1%
介護従事者(ケアマネジャー, ヘルパー)に対する研修	3	3.0%
予防教室や講演会など市民に対する啓発	9	9.1%
家族の交流会や相談会などの支援	8	8.1%
認知症の介護・コミュニケーション方法等, 家族向け研修会の開催	11	11.1%
認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり	11	11.1%
はいかい行動などに対する福祉サービス制度の充実	7	7.1%
認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備	9	9.1%
成年後見制度や虐待防止などの制度の充実	5	5.1%
若年性認知症(64歳以下の発症)に対する支援	6	6.1%
その他	0	0.0%
合計	99	100.0%



今後、認知症対策を進めていくうえで重点を置くべきことについては、「医療・介護・地域」が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり（22.2%）との回答が最も多くなっています。次いで「認知症の介護・コミュニケーション方法等, 家族向け研修会の開催」と「認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり」が11.1%で横並びになっています。

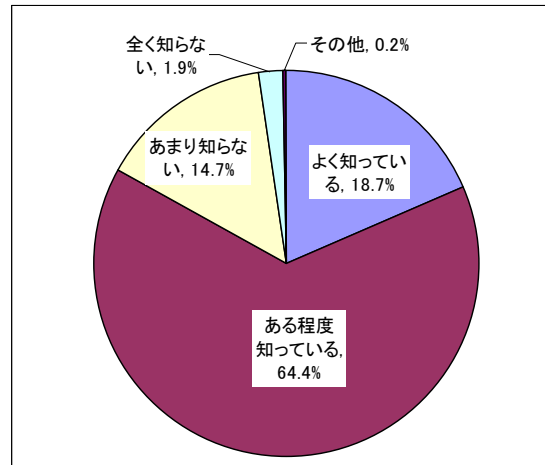
## 8 認知症地域支援体制構築等推進事業モデル地区別調査結果

(高齢者のいる世帯アンケート調査)

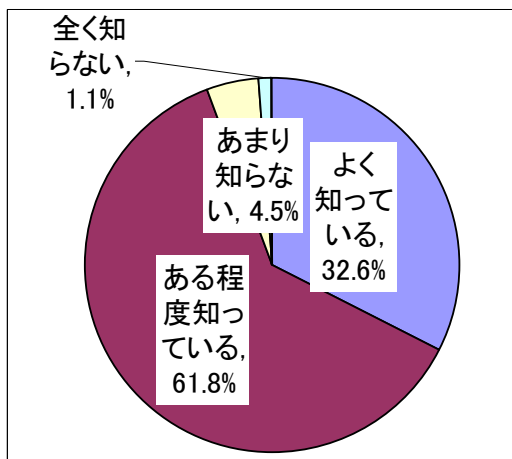
### ○ 認知症について

【問1】あなたは、「認知症」についてどの程度知っていますか。(1つに○)

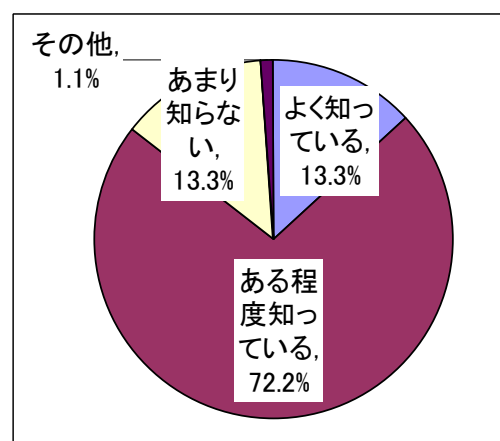
選択項目	件数	構成比
よく知っている	176	18.7%
ある程度知っている	605	64.4%
あまり知らない	138	14.7%
全く知らない	18	1.9%
その他	2	0.2%
合計	939	100.0%



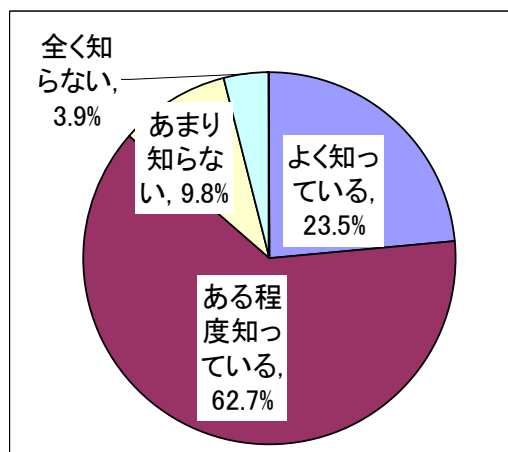
[本庁管内]



[河内地区]



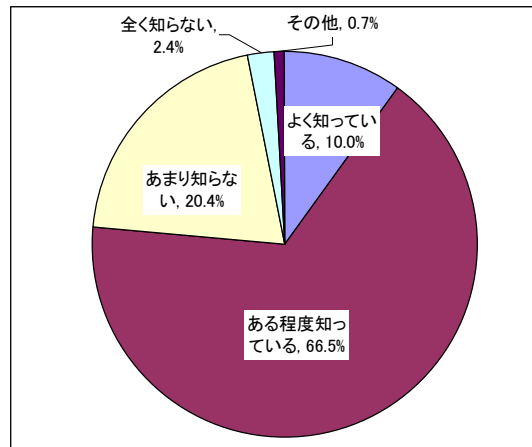
[横川地区]



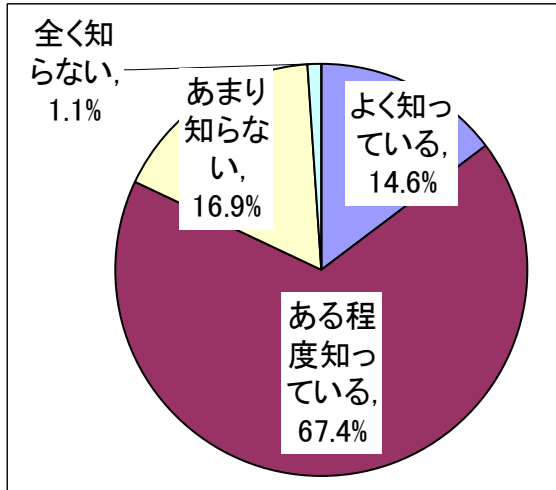
【問2】 あなたのまわりでは、「認知症」についてどの程度知っているとおもいますか。

(1つに〇)

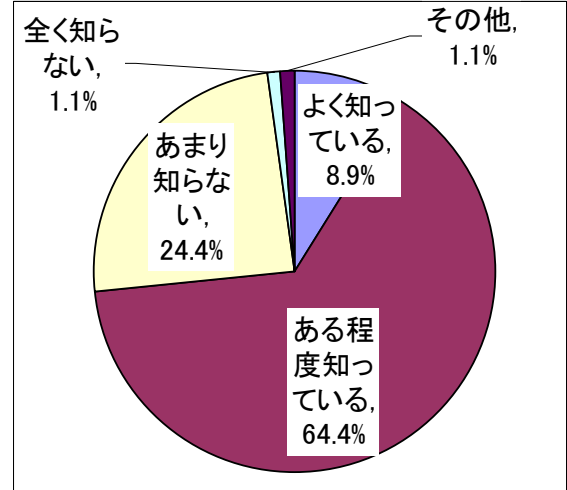
選択項目	件数	構成比
よく知っている	97	10.0%
ある程度知っている	642	66.5%
あまり知らない	197	20.4%
全く知らない	23	2.4%
その他	7	0.7%
合計	966	100.0%



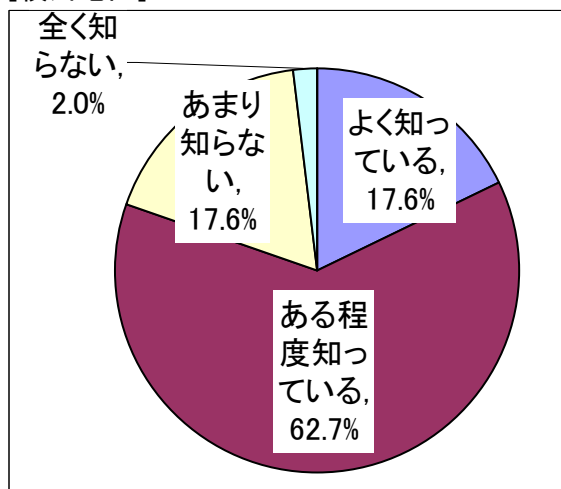
[本庁管内]



[河内地区]

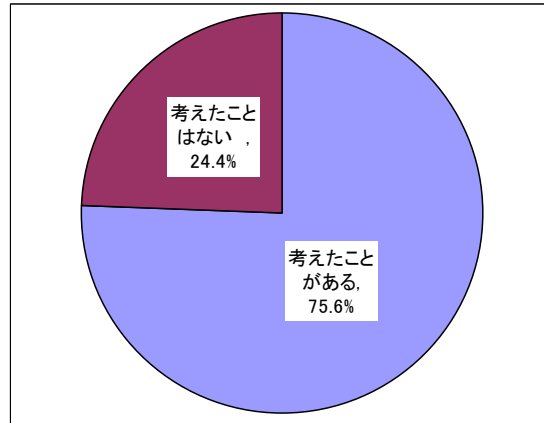


[横川地区]

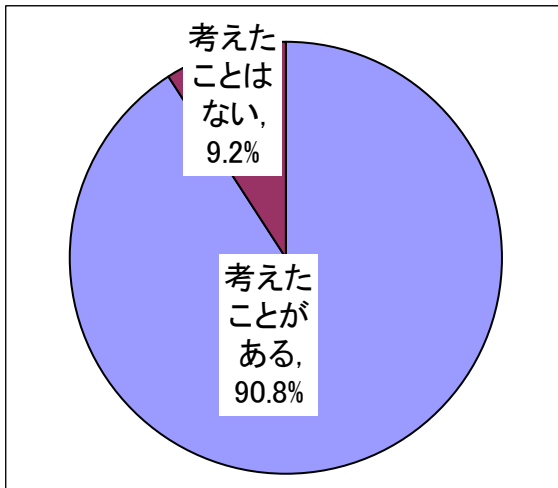


【問3】 あなたは、今までに、あなた自身や家族が認知症になった時にどうしたらいいのかわかる、考えたことがありますか。(1つに○)

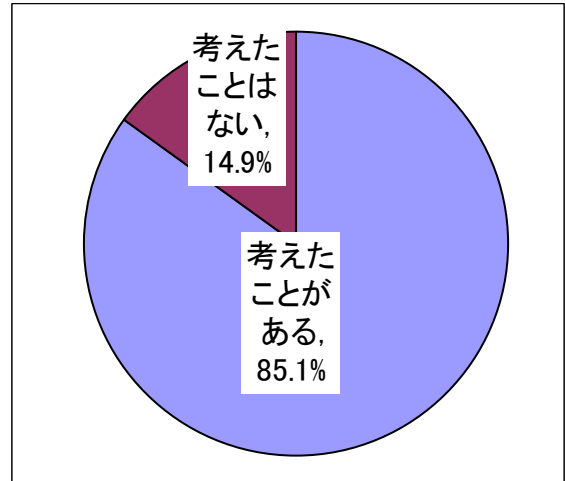
選択項目	件数	構成比
考えたことがある	711	75.6%
考えたことはない	230	24.4%
合計	941	100.0%



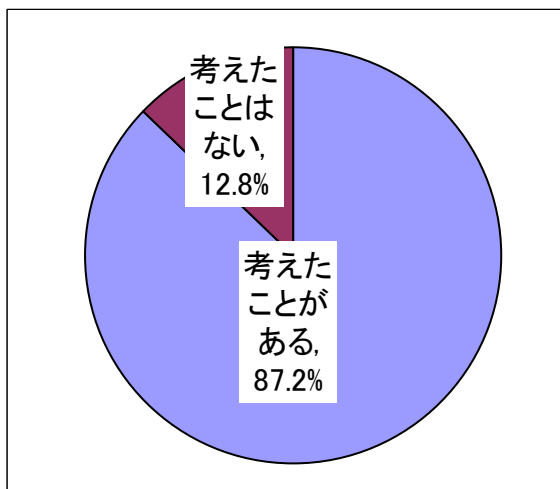
[本庁管内]



[河内地区]

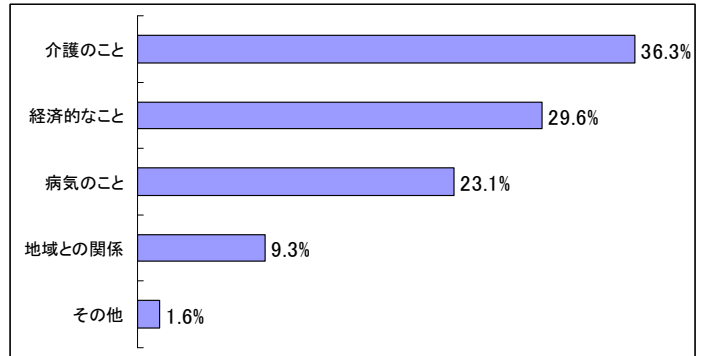


[横川地区]

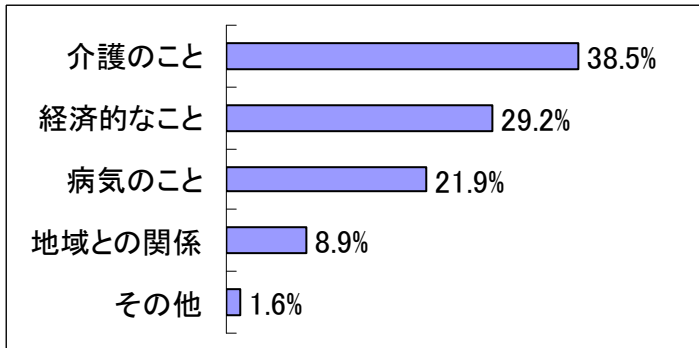


【問4】 問3で「考えたことがある」と答えた方にお聞きします。どのようなことを考えましたか。（複数回答可）

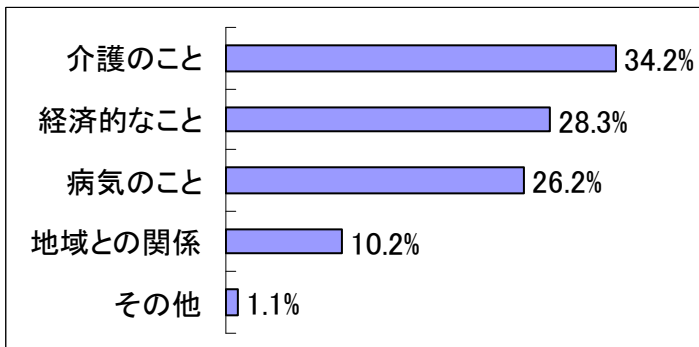
選択項目	件数	構成比
介護のこと	650	36.3%
経済的なこと	529	29.6%
病気のこと	414	23.1%
地域との関係	167	9.3%
その他	29	1.6%
合計	1,789	100.0%



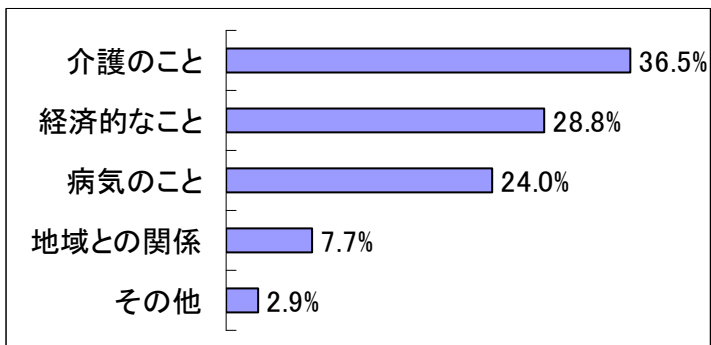
[本庁管内]



[河内地区]



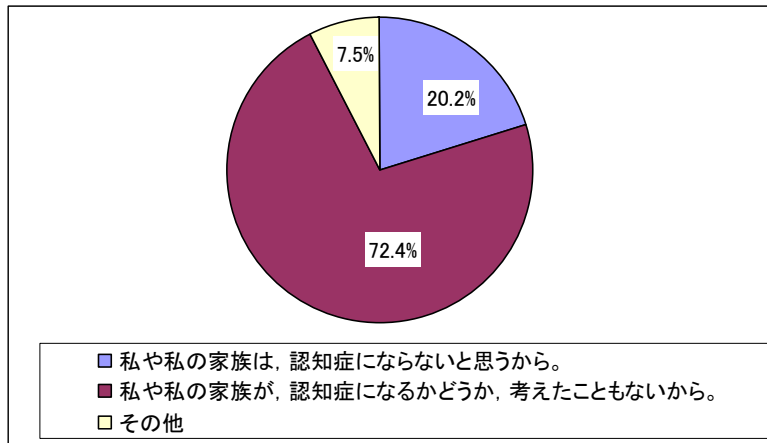
[横川地区]



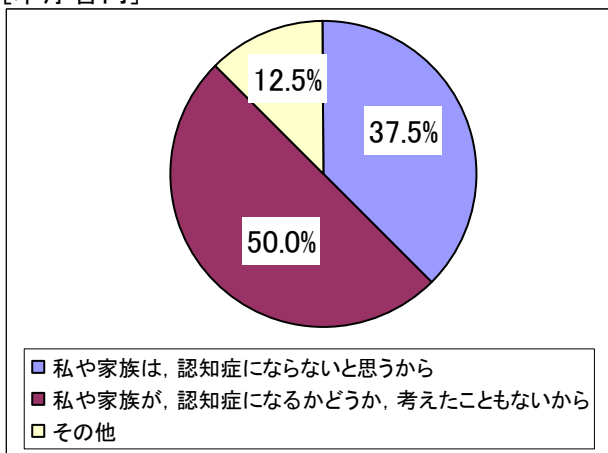


【問5】 問3で「考えたことはない」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。  
(1つに〇)

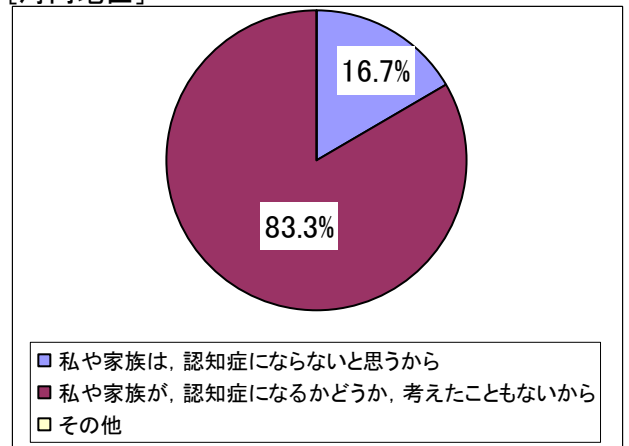
選択項目	件数	構成比
私や私の家族は、認知症にならないと思うから	46	20.2%
私や私の家族が、認知症になるかどうか、考えたこともないから	165	72.4%
その他	17	7.5%
合計	228	100.0%



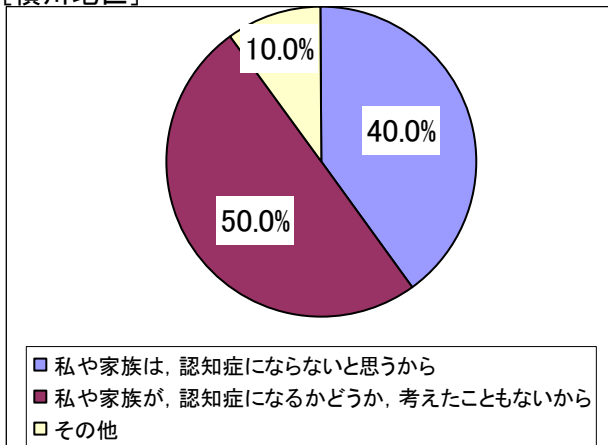
[本庁管内]



[河内地区]



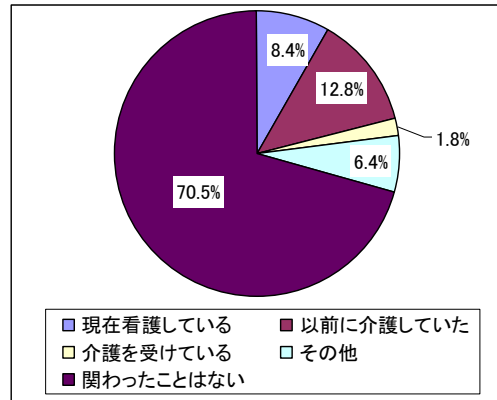
[横川地区]



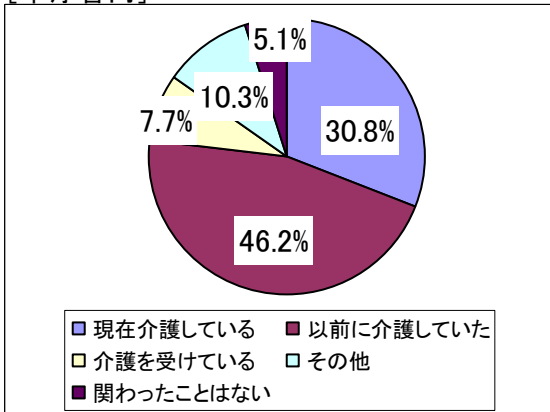
○ 認知症介護について

【問6】認知症介護の状況

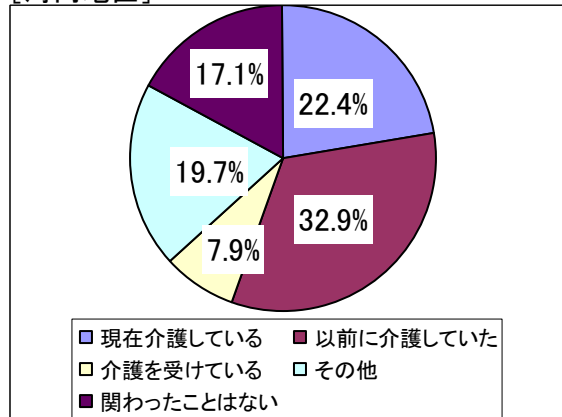
選択項目	件数	構成比
現在看護している	64	8.4%
以前に介護していた	98	12.8%
介護を受けている	14	1.8%
その他	49	6.4%
関わったことはない	539	70.5%
合計	764	100.0%



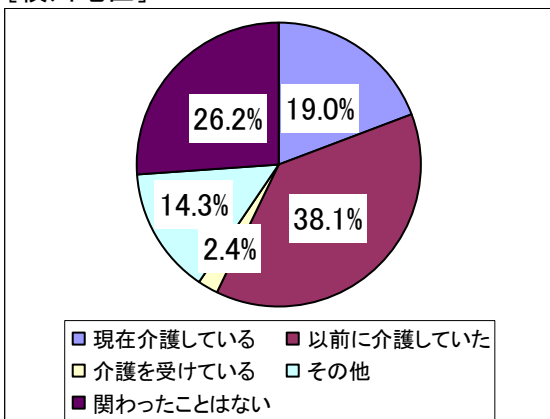
[本庁管内]



[河内地区]



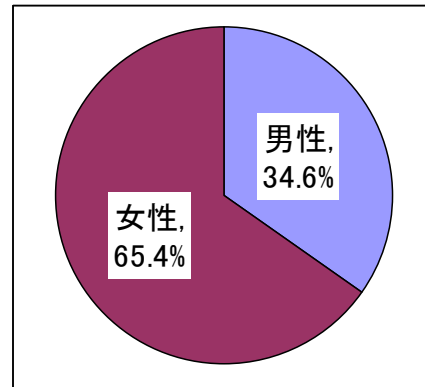
[横川地区]



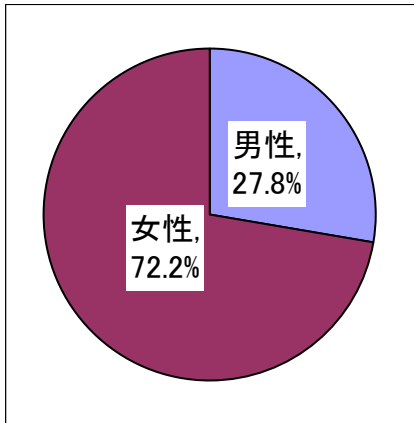
【問7】認知症のご本人の状況

(1) 性別

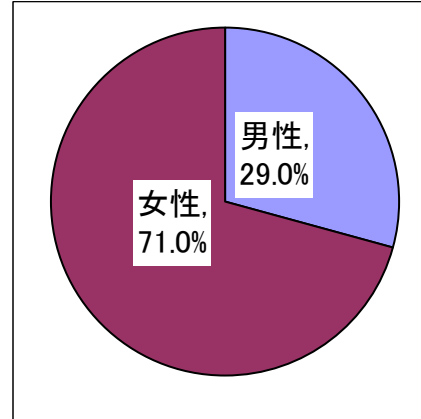
選択項目	件数	構成比
男性	71	34.6%
女性	134	65.4%
合計	205	100.0%



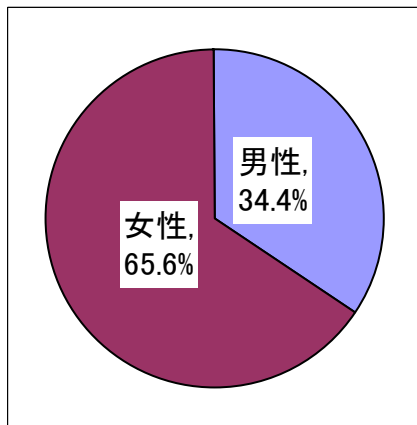
[本庁管内]



[河内地区]

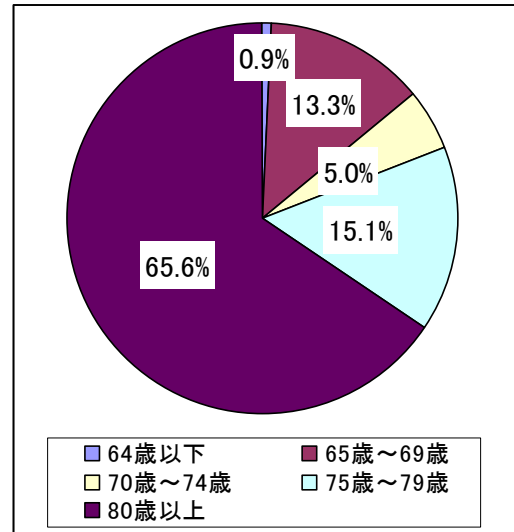


[横川地区]

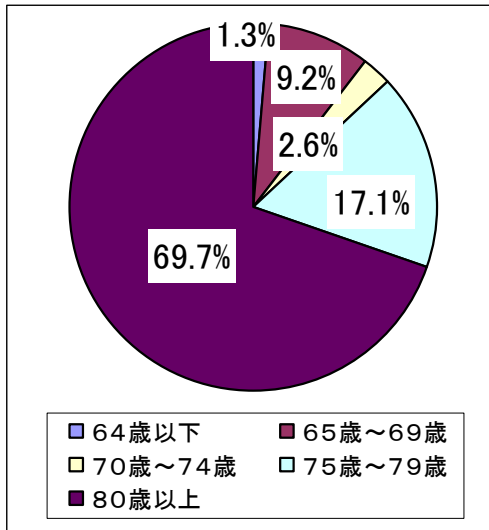


(2) 年齢

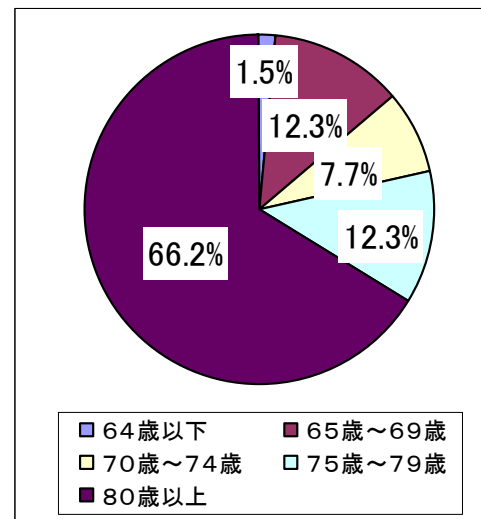
選択項目	件数	構成比
64歳以下	2	0.9%
65歳～69歳	29	13.3%
70歳～74歳	11	5.0%
75歳～79歳	33	15.1%
80歳以上	143	65.6%
合計	218	100.0%



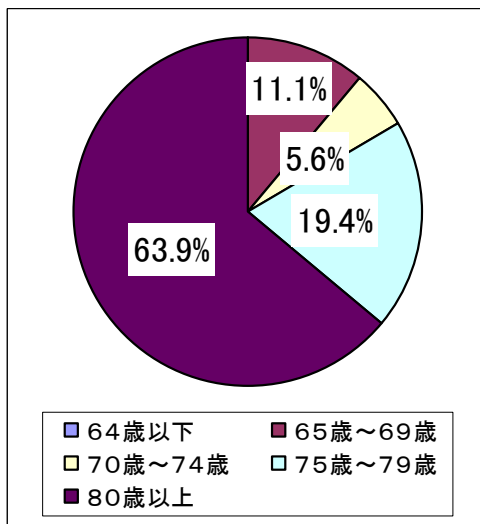
[本庁管内]



[河内地区]

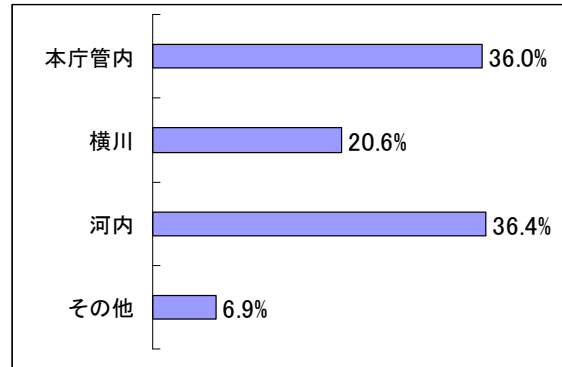


[横川地区]



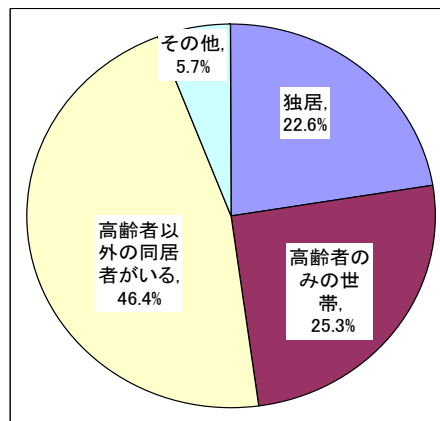
(3) 居住地域

選択項目	件数	構成比
本庁管内	89	36.0%
横川	51	20.6%
河内	90	36.4%
その他	17	6.9%
合計	247	100.0%

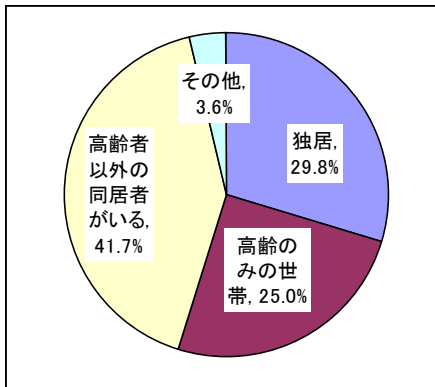


(4) 世帯

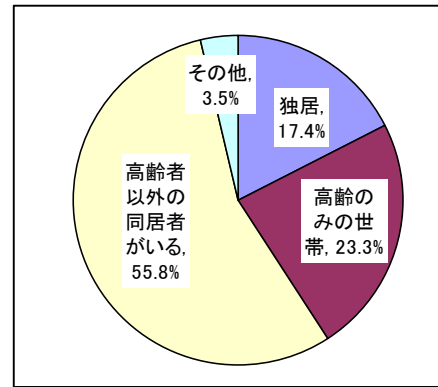
選択項目	件数	構成比
独居	59	22.6%
高齢者のみの世帯	66	25.3%
高齢者以外の同居者がいる	121	46.4%
その他	15	5.7%
合計	261	100.0%



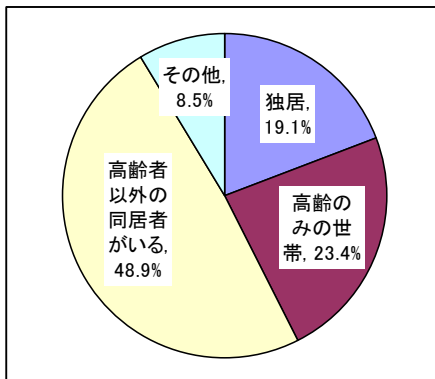
[本庁管内]



[河内地区]

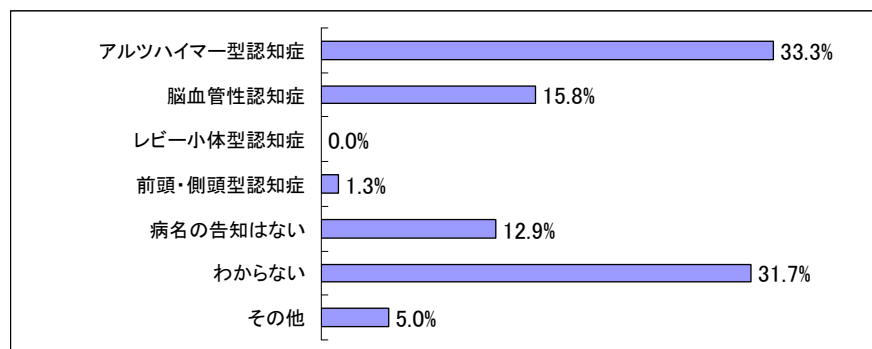


[横川地区]

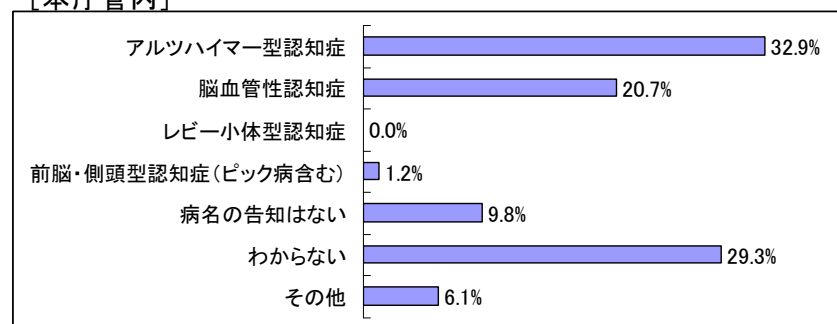


(5) 認知症の原因となる病名

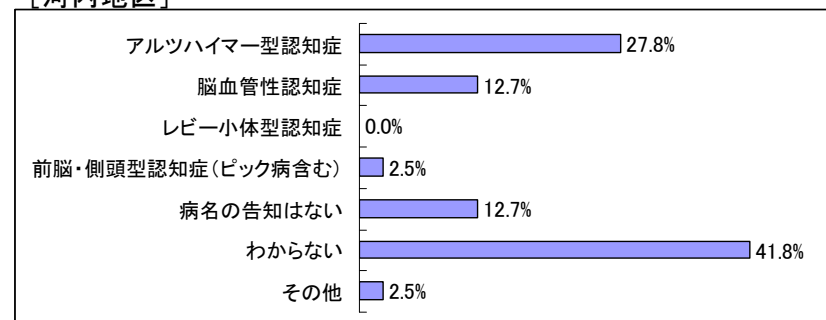
選択項目	件数	構成比
アルツハイマー型認知症	80	33.3%
脳血管性認知症	38	15.8%
レビー小体型認知症	0	0.0%
前頭・側頭型認知症	3	1.3%
病名の告知はない	31	12.9%
わからない	76	31.7%
その他	12	5.0%
合計	240	100.0%



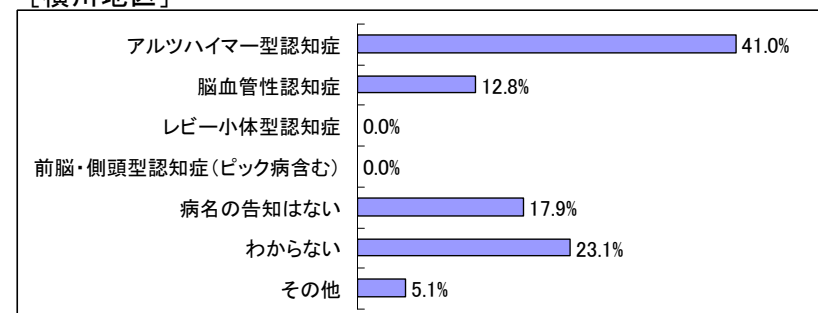
[本庁管内]



[河内地区]

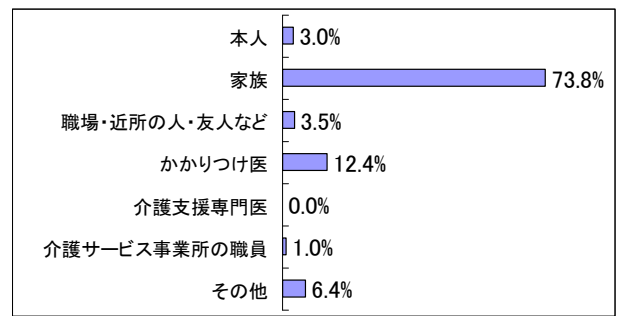


[横川地区]

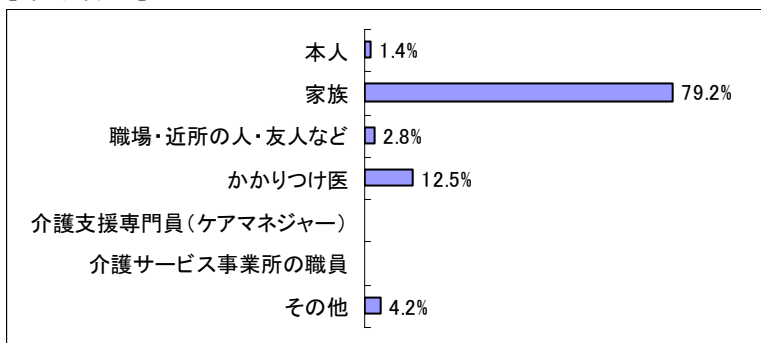


【問 8】 認知症のご本人の変化に、誰が最初に気づきましたか。(1つに○)

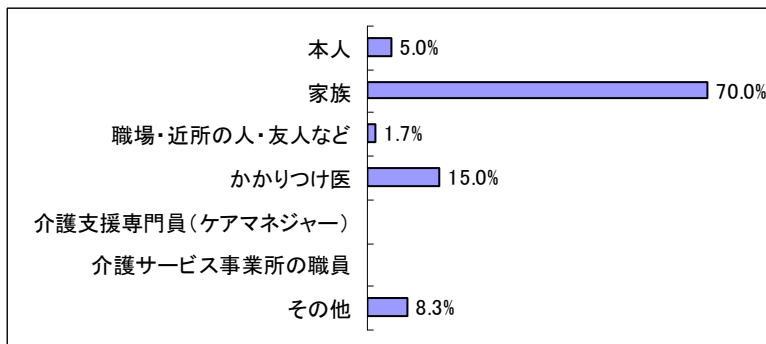
選択項目	件数	構成比
本人	6	3.0%
家族	149	73.8%
職場・近所の人・友人など	7	3.5%
かかりつけ医	25	12.4%
介護支援専門医	0	0.0%
介護サービス事業所の職員	2	1.0%
その他	13	6.4%
合計	202	100.0%



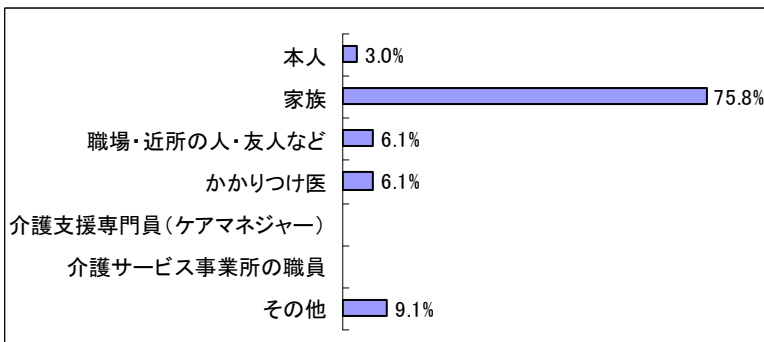
[本庁管内]



[河内地区]

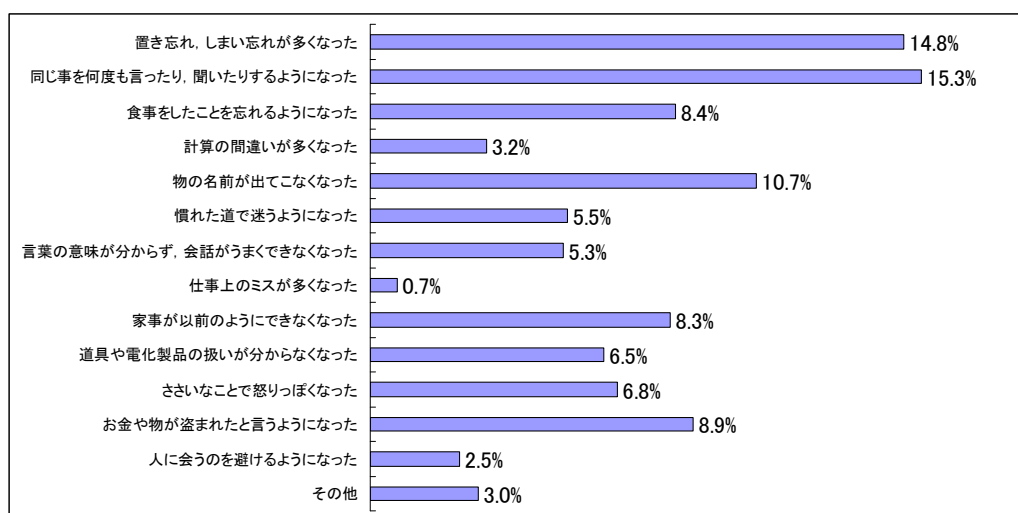


[横川地区]

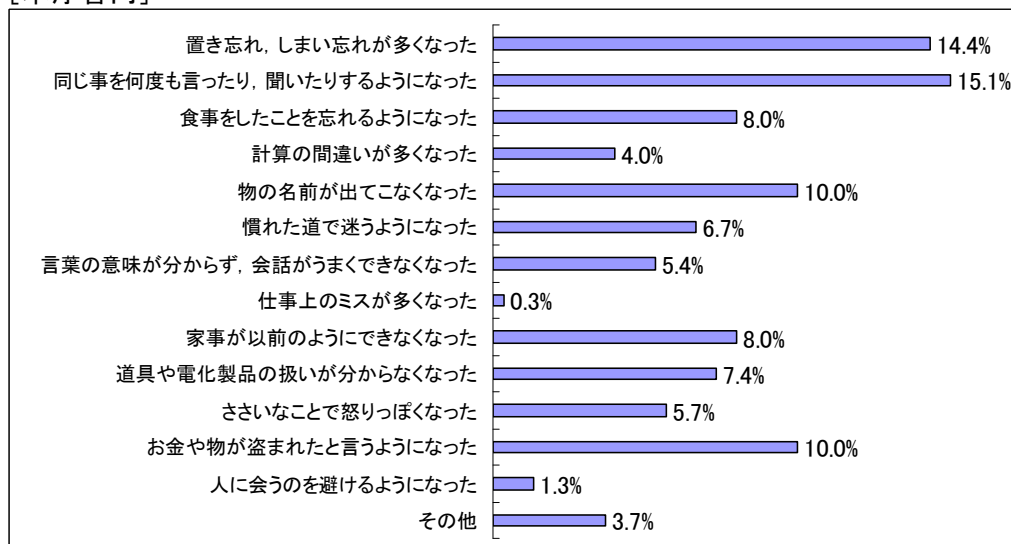


【問9】 認知症のご本人の家族が、認知症ではないかと気付いた、あるいは不安に思うきっかけとなったのは、どのようなこと（変化）でしたか。（複数回答可）

選択項目	件数	構成比
置き忘れ、しまい忘れが多くなった	119	14.8%
同じ事を何度も言ったり、聞いたりするようになった	123	15.3%
食事をしたことを忘れるようになった	68	8.4%
計算の間違いが多くなった	26	3.2%
物の名前が出てこなくなった	86	10.7%
慣れた道で迷うようになった	44	5.5%
言葉の意味が分からず、会話がうまくできなくなった	43	5.3%
仕事上のミスが多くなった	6	0.7%
家事が以前のようにできなくなった	67	8.3%
道具や電化製品の扱いが分からなくなった	52	6.5%
ささいなことで怒りっぽくなった	55	6.8%
お金や物が盗まれたと言うようになった	72	8.9%
人に会うのを避けるようになった	20	2.5%
その他	24	3.0%
合計	805	100.0%

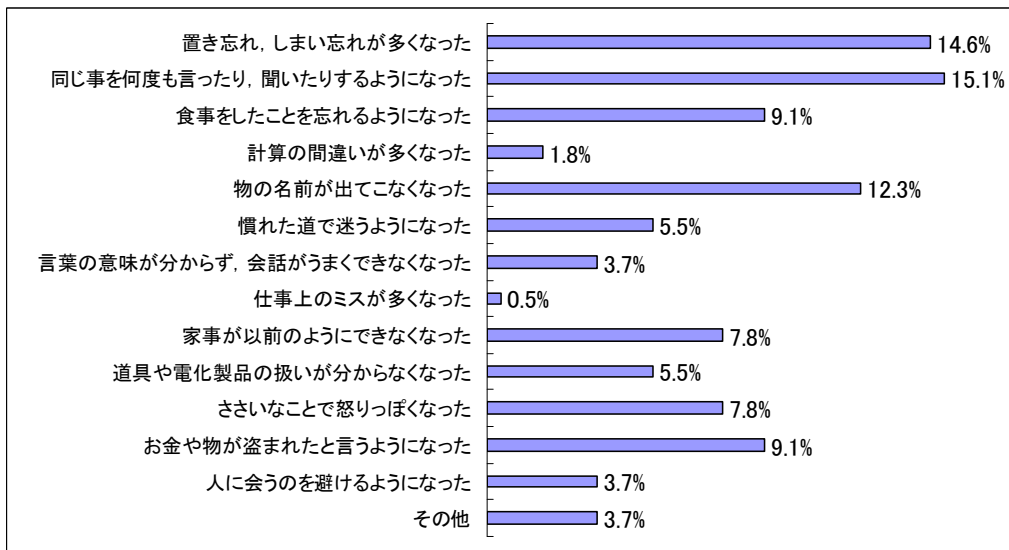


[本庁管内]

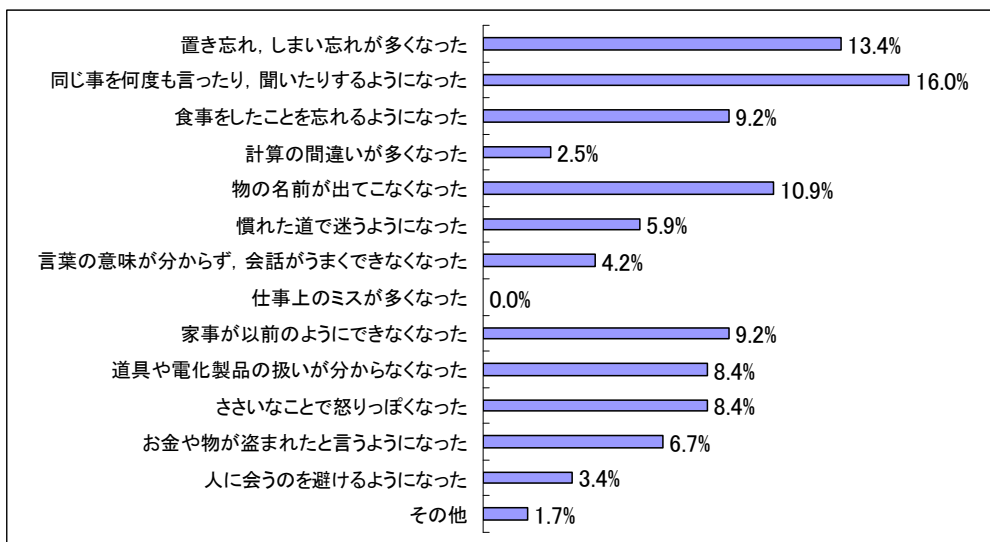




[河内地区]

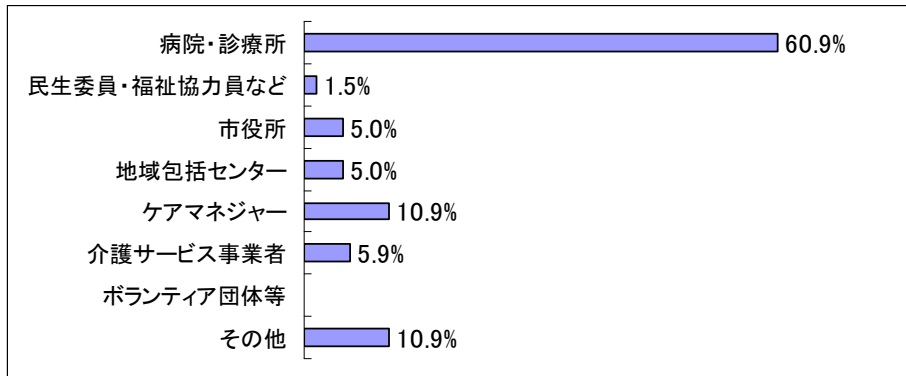


[横川地区]

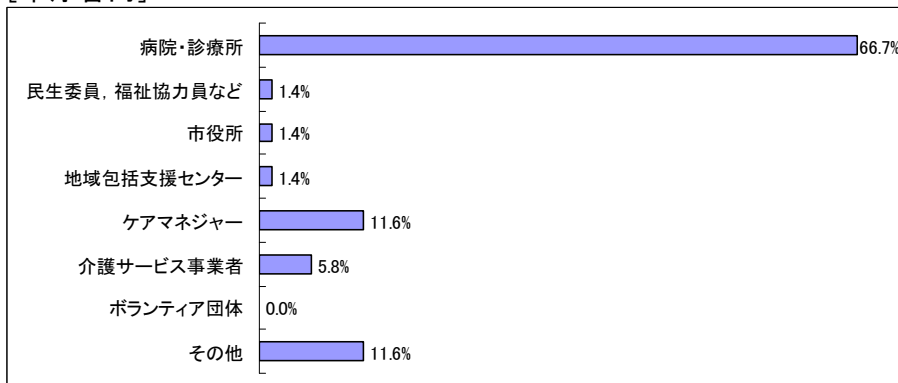


【問 10】 問 9 の変化に気づいたときに、家族、親戚、知人以外で最初に相談（または受診）したのは誰（どこ）ですか。（1つに○）

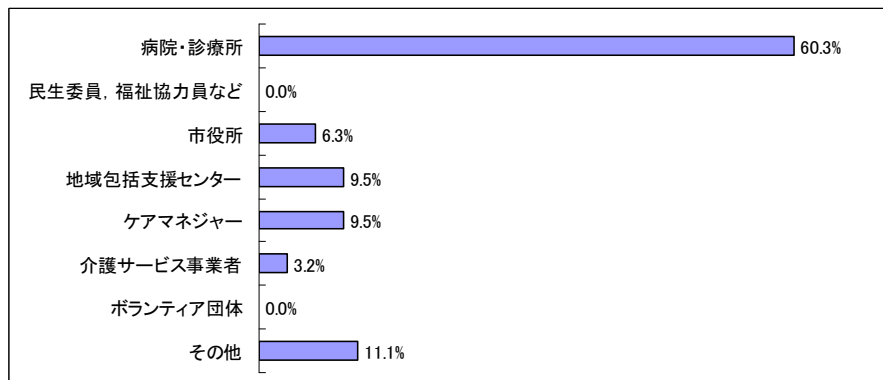
選択項目	件数	構成比
病院・診療所	123	60.9%
民生委員・福祉協力員など	3	1.5%
市役所	10	5.0%
地域包括センター	10	5.0%
ケアマネジャー	22	10.9%
介護サービス事業者	12	5.9%
ボランティア団体等	0	0.0%
その他	22	10.9%
合計	202	100.0%



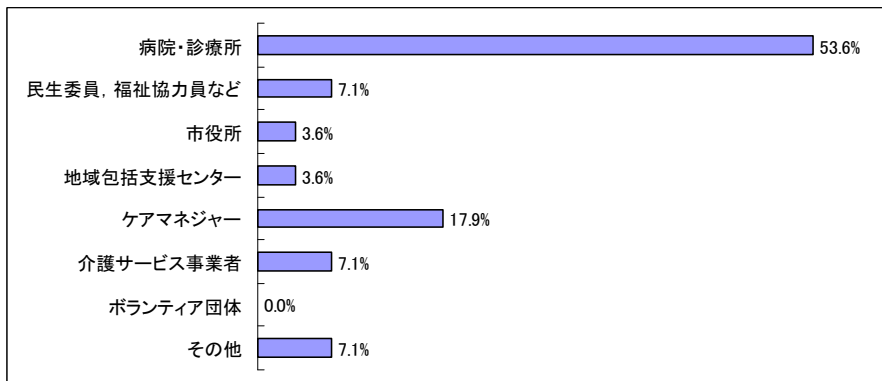
[本庁管内]



[河内地区]

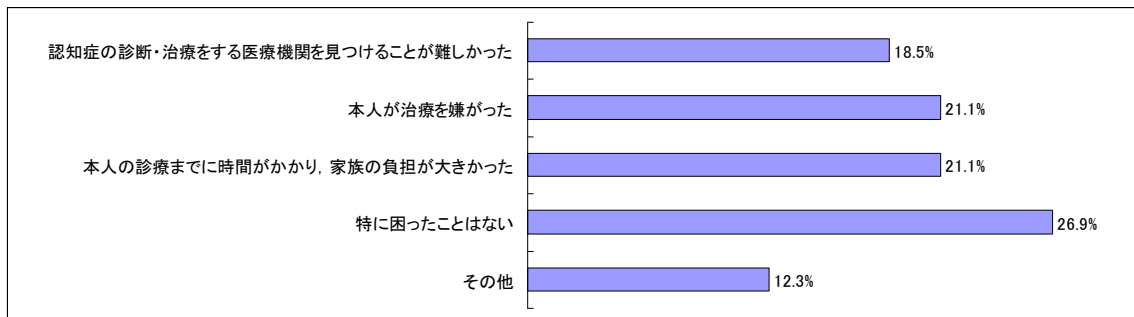


[横川地区]

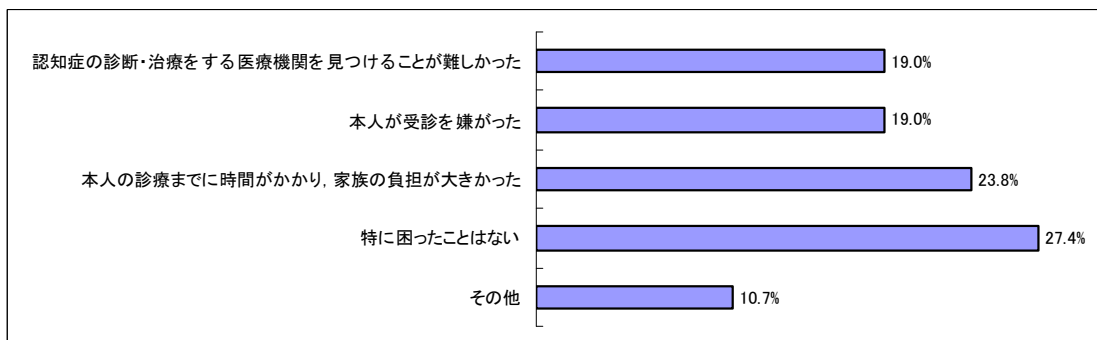


【問 11】 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、どのようなことに困りましたか。  
(複数回答可)

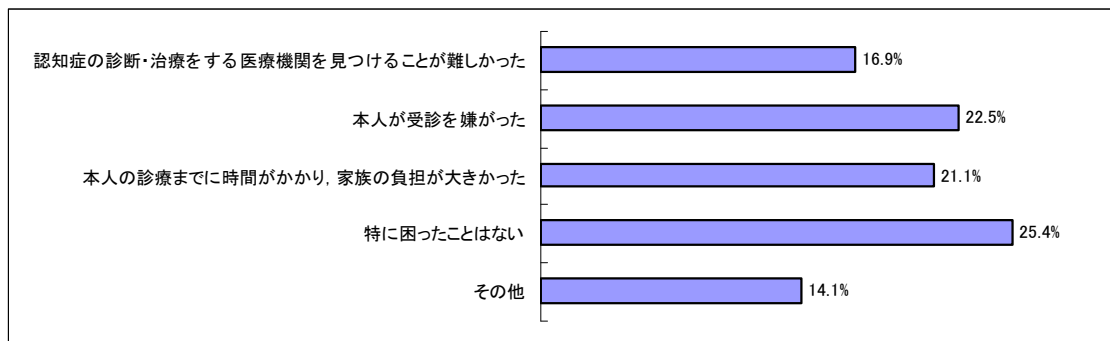
選択項目	件数	構成比
認知症の診断・治療をする医療機関を見つけることが難しかった	42	18.5%
本人が治療を嫌がった	48	21.1%
本人の診療までに時間がかかり、家族の負担が大きかった	48	21.1%
特に困ったことはない	61	26.9%
その他	28	12.3%
合計	227	100.0%



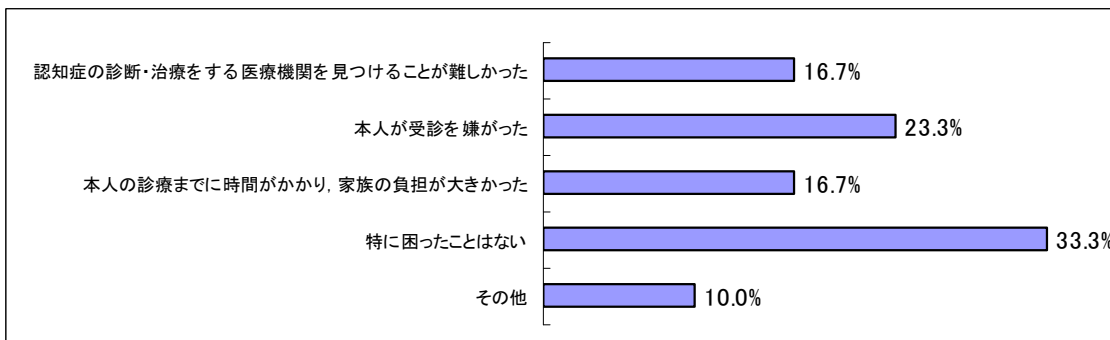
[本庁管内]



[河内地区]

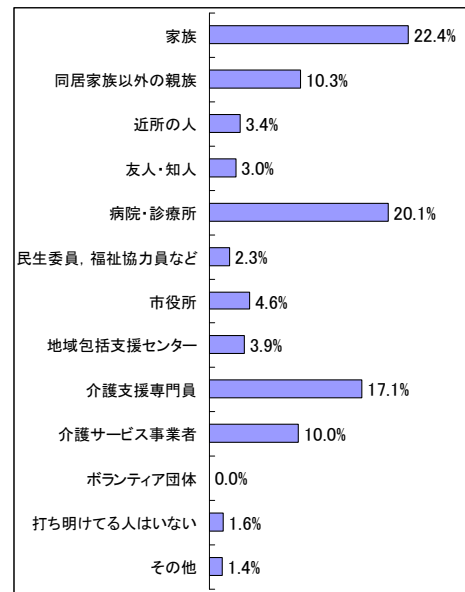


[横川地区]

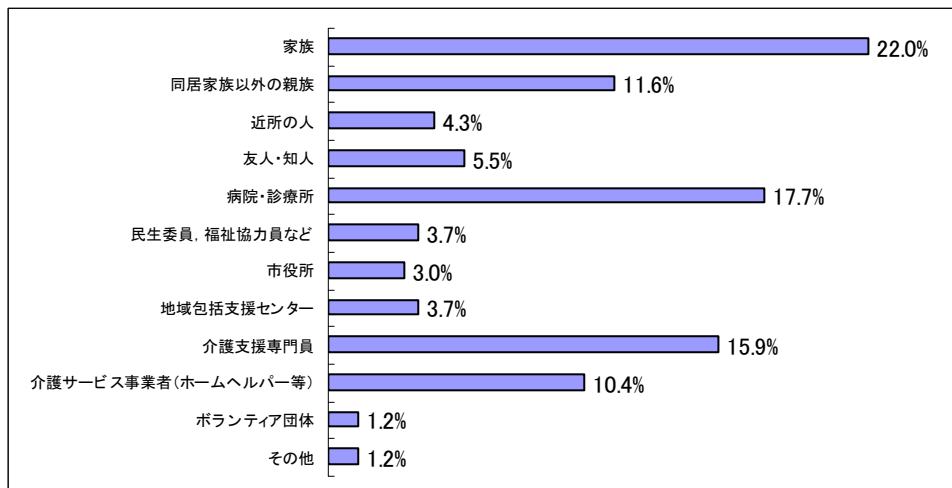


【問 12】 認知症の診断後、認知症のご本人への必要な支援について、どなたに相談していますか。（複数回答可）

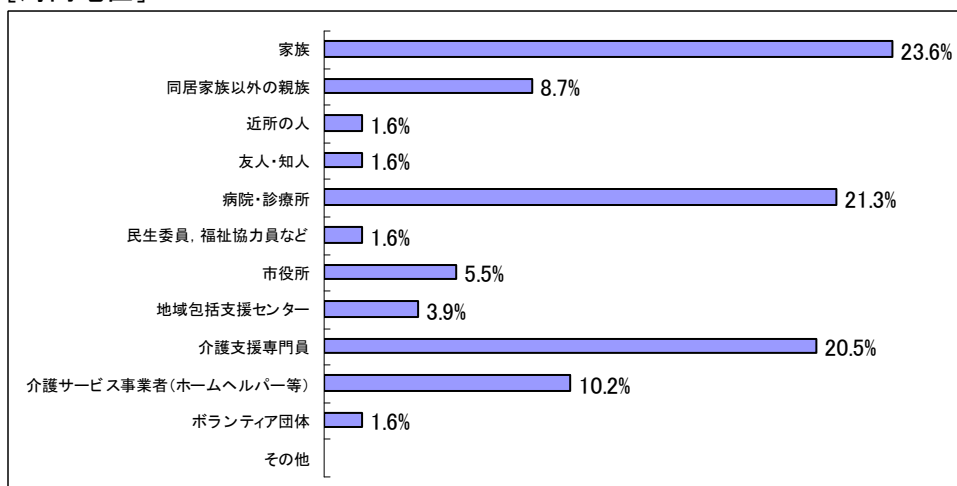
選択項目	件数	構成比
家族	98	22.4%
同居家族以外の親族	45	10.3%
近所の人	15	3.4%
友人・知人	13	3.0%
病院・診療所	88	20.1%
民生委員、福祉協力員など	10	2.3%
市役所	20	4.6%
地域包括支援センター	17	3.9%
介護支援専門員	75	17.1%
介護サービス事業者	44	10.0%
ボランティア団体	0	0.0%
打ち明けてる人はいない	7	1.6%
その他	6	1.4%
合計	438	100.0%



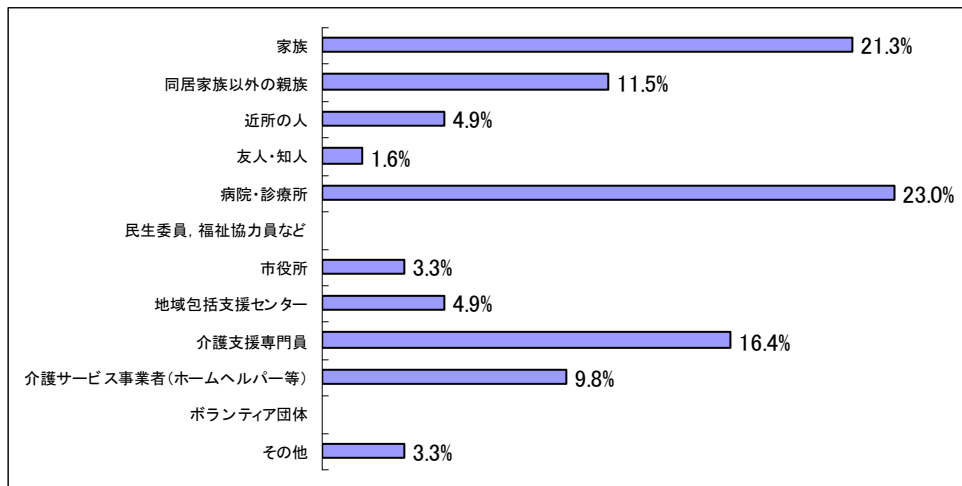
[本庁管内]



[河内地区]



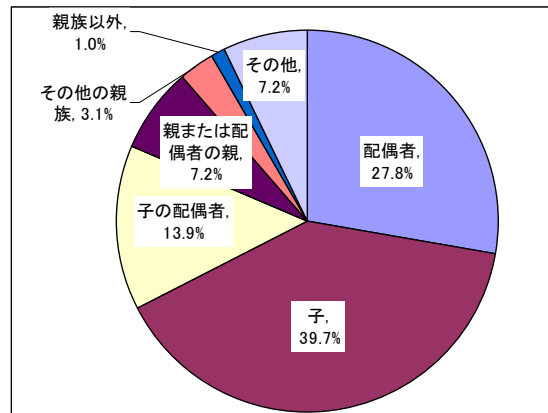
[横川地区]



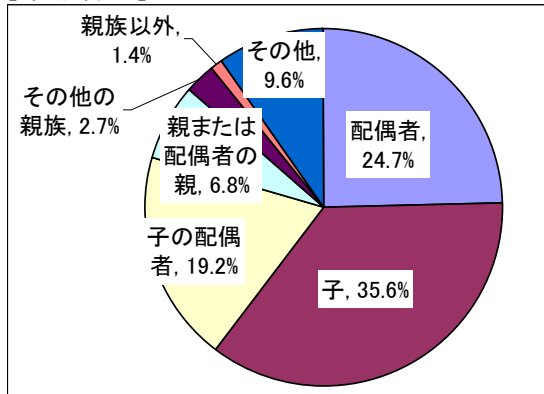
【問 13】 主な介護者の属性

(1) 主な介護者

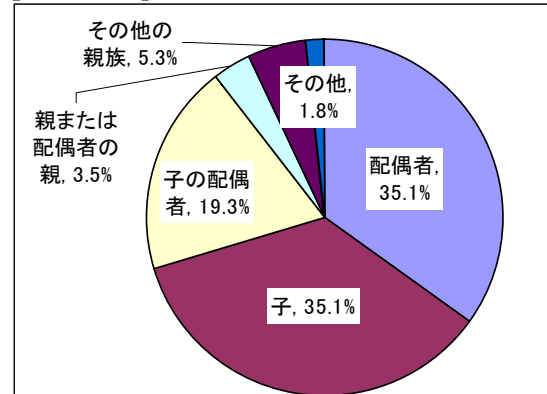
選択項目	件数	構成比
配偶者	54	27.8%
子	77	39.7%
子の配偶者	27	13.9%
孫	0	0.0%
親または配偶者の親	14	7.2%
その他の親族	6	3.1%
親族以外	2	1.0%
その他	14	7.2%
合計	194	100.0%



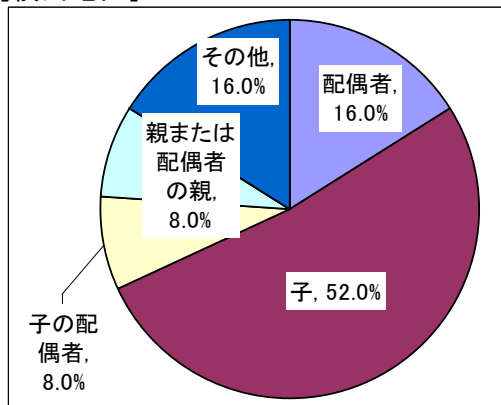
[本庁管内]



[河内地区]

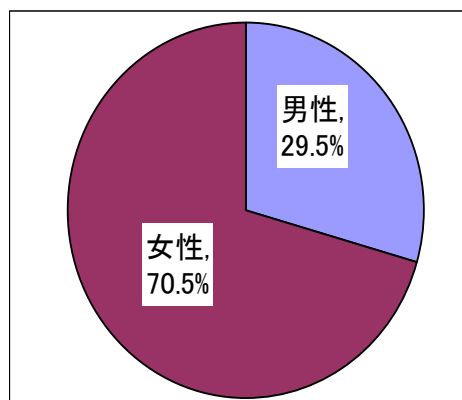


[横川地区]

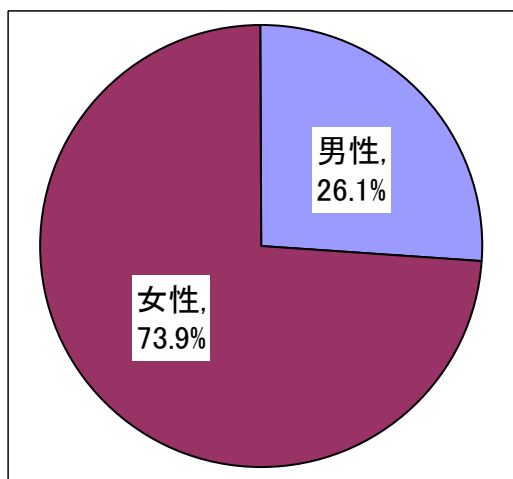


(2) 性別

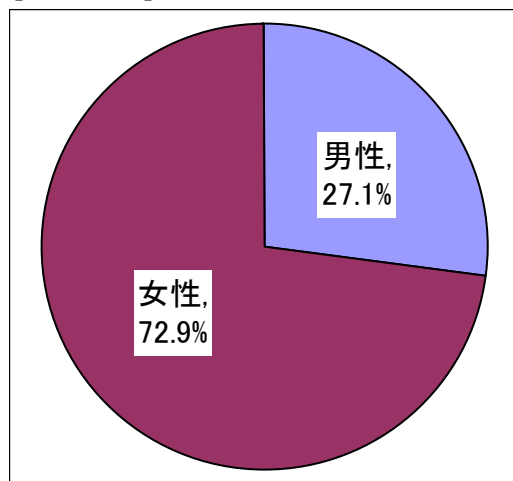
選択項目	件数	構成比
男性	57	29.5%
女性	136	70.5%
合計	193	100.0%



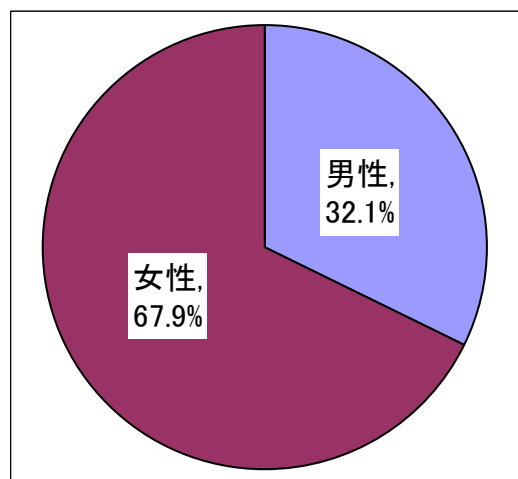
[本庁管内]



[河内地区]



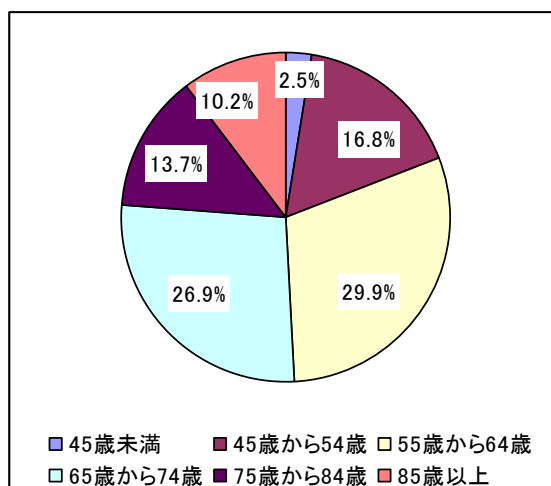
[横川地区]



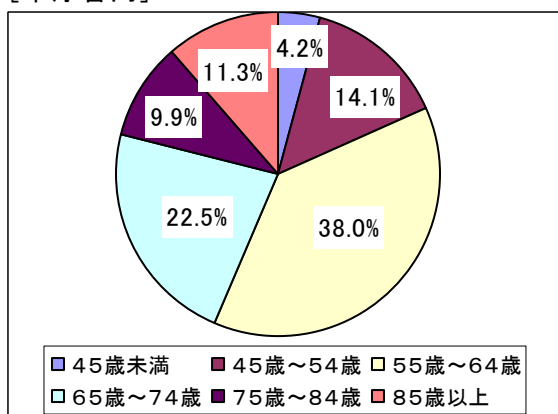


(3) 年代

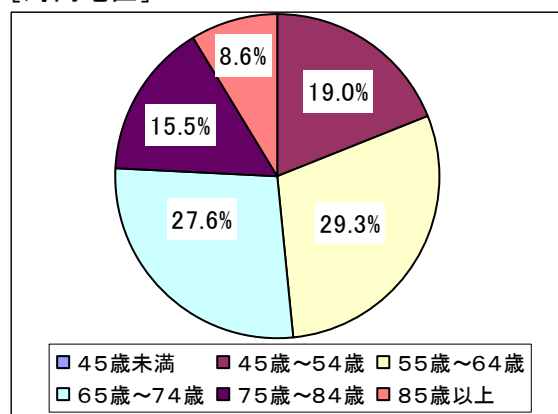
選択項目	件数	構成比
45歳未満	5	2.5%
45歳から54歳	33	16.8%
55歳から64歳	59	29.9%
65歳から74歳	53	26.9%
75歳から84歳	27	13.7%
85歳以上	20	10.2%
合計	197	100.0%



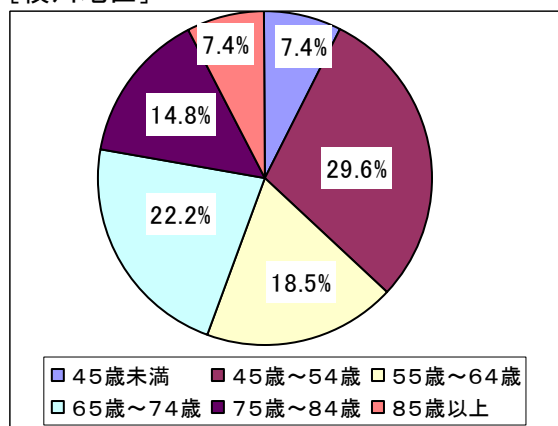
[本庁管内]



[河内地区]

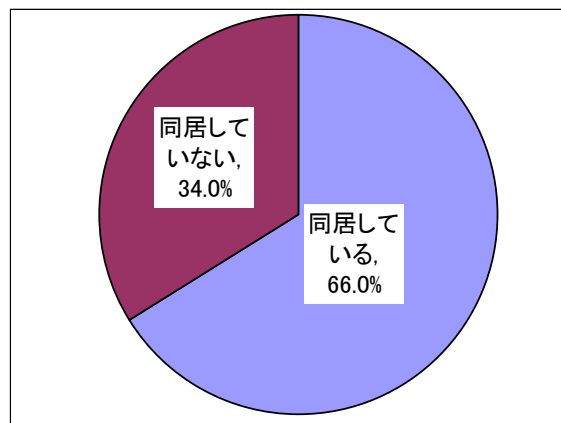


[横川地区]

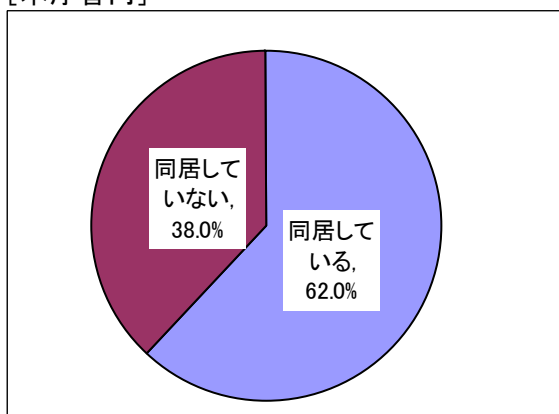


(4) 同居の有無

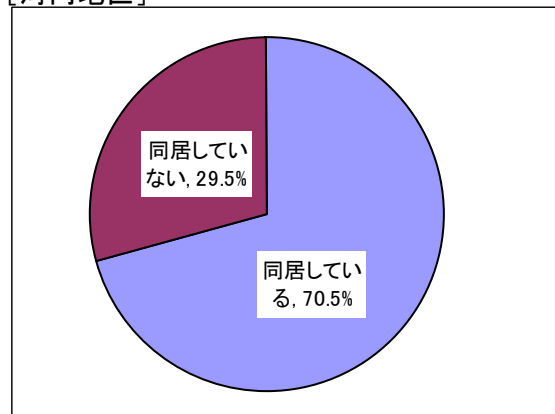
選択項目	件数	構成比
同居している	130	66.0%
同居していない	67	34.0%
合計	197	100.0%



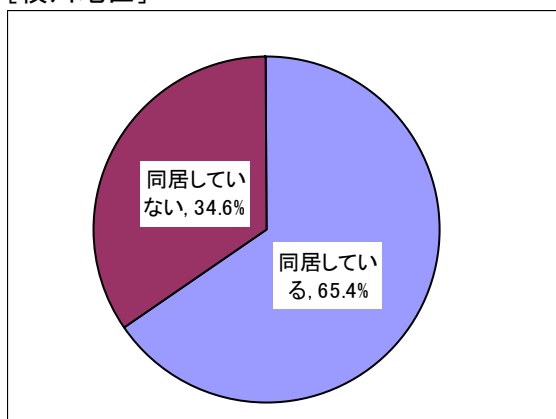
[本庁管内]



[河内地区]

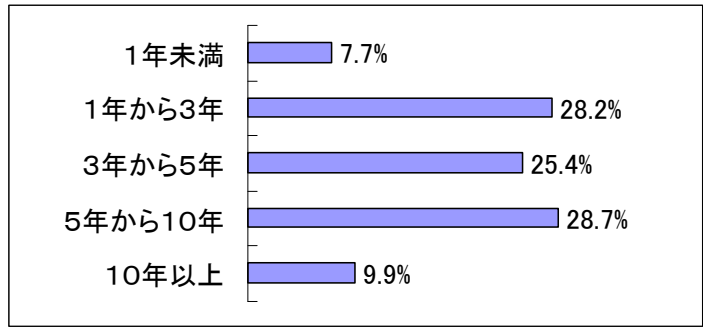


[横川地区]

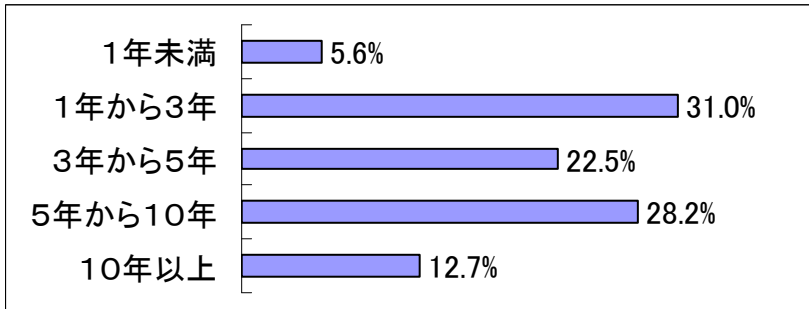


(5) 介護期間

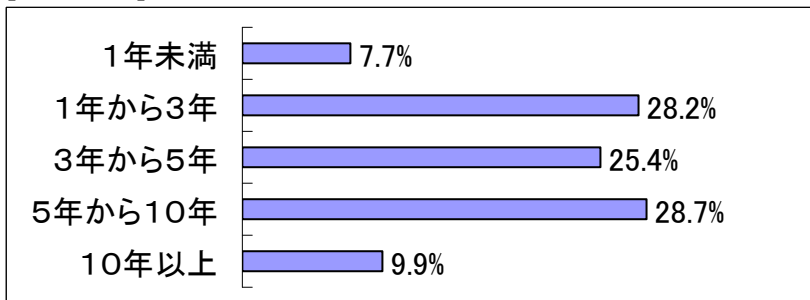
選択項目	件数	構成比
1年未満	14	7.7%
1年から3年	51	28.2%
3年から5年	46	25.4%
5年から10年	52	28.7%
10年以上	18	9.9%
合計	181	100.0%



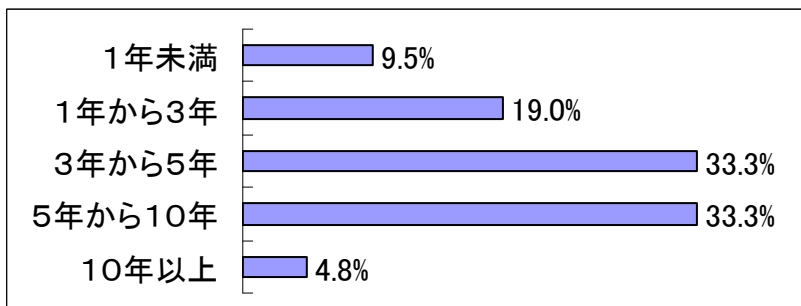
[本庁管内]



[河内地区]

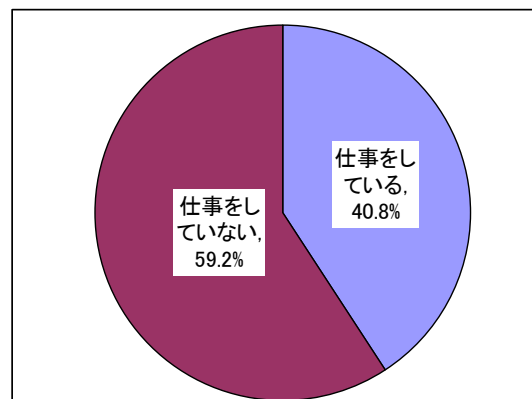


[横川地区]

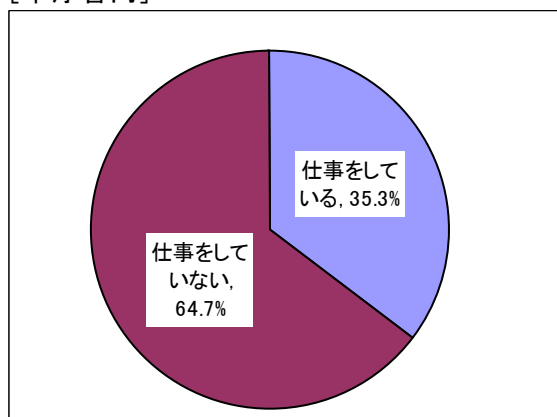


(6) 仕事の有無

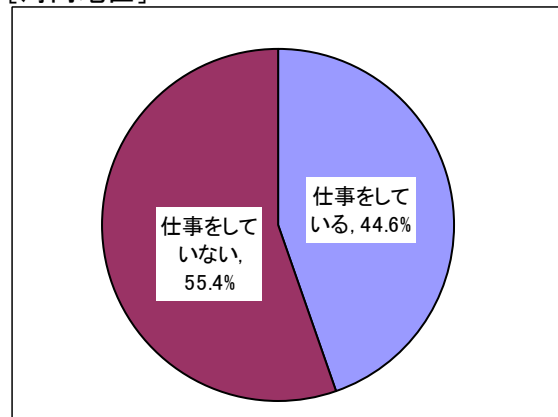
選択項目	件数	構成比
仕事をしている	73	40.8%
仕事をしていない	106	59.2%
合計	179	100.0%



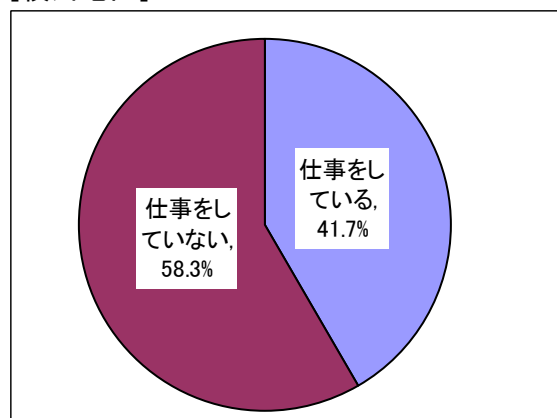
[本庁管内]



[河内地区]

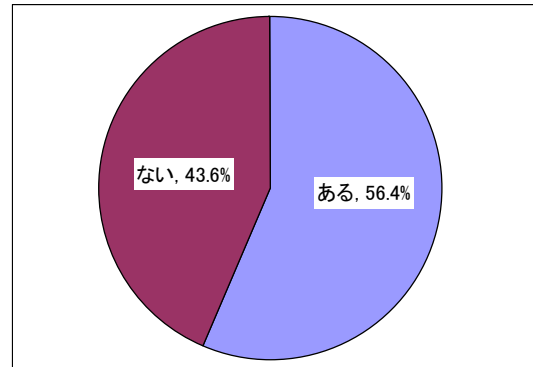


[横川地区]

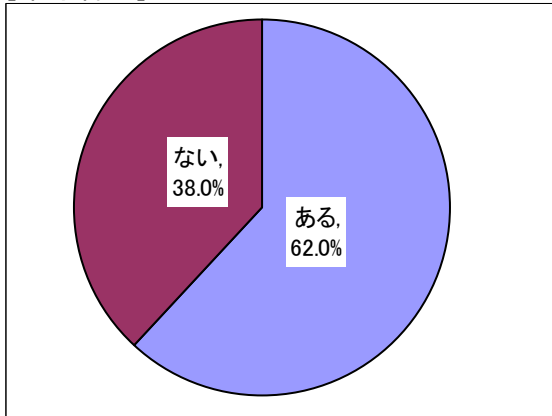


【問 14】 認知症のご本人は、介護保険サービスを利用したことがありますか。

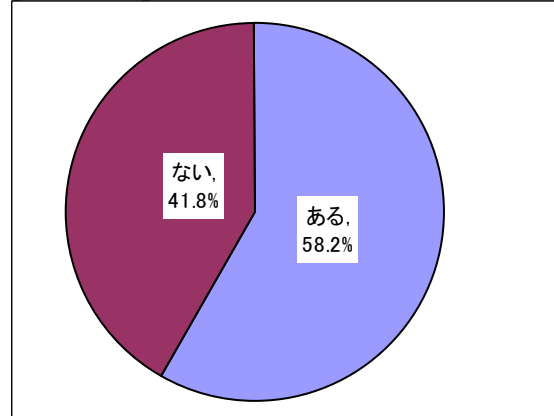
選択項目	件数	構成比
ある	106	56.4%
ない	82	43.6%
合計	188	100.0%



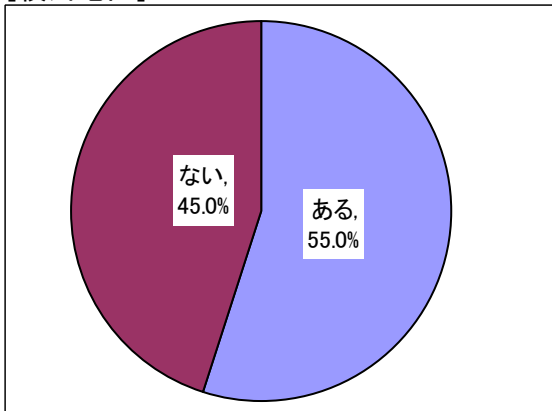
[本庁管内]



[河内地区]

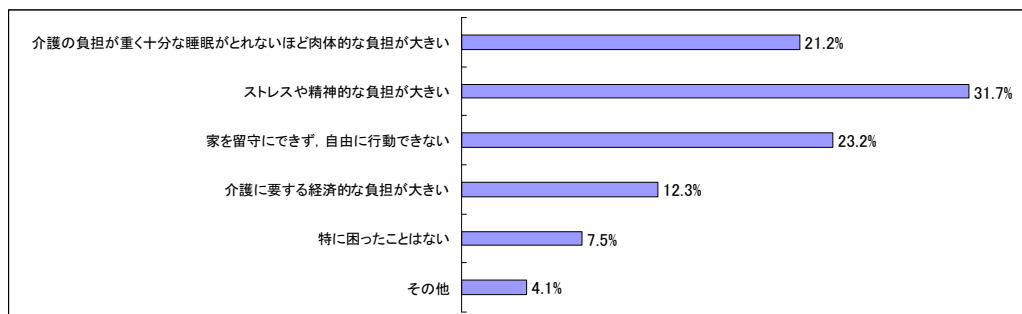


[横川地区]

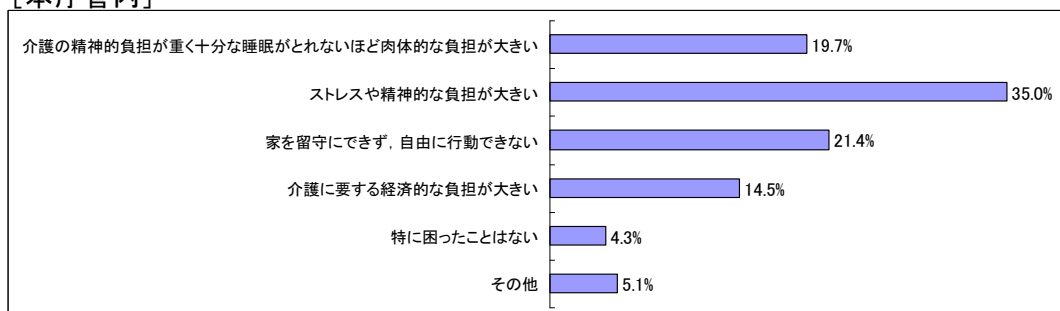


【問 16】 認知症のご本人の介護について、主な介護者はどのようなことに困りましたか。  
(複数回答可)

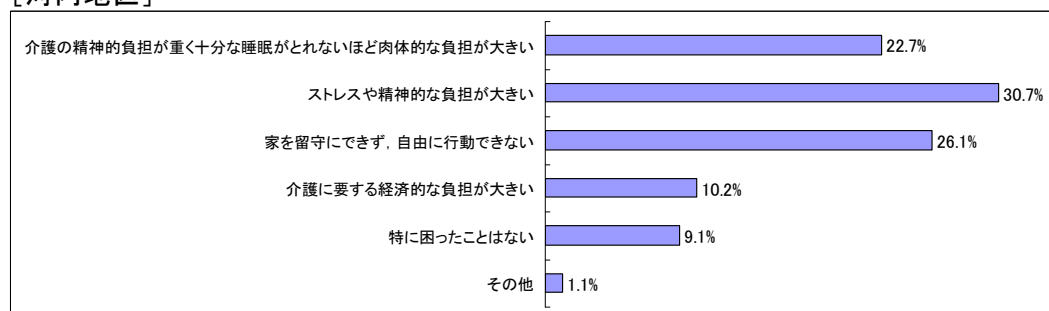
選択項目	件数	構成比
介護の負担が重く十分な睡眠がとれないほど肉体的な負担が大きい	62	21.2%
ストレスや精神的な負担が大きい	93	31.7%
家を留守にできず、自由に行動できない	68	23.2%
介護に要する経済的な負担が大きい	36	12.3%
特に困ったことはない	22	7.5%
その他	12	4.1%
合計	293	100.0%



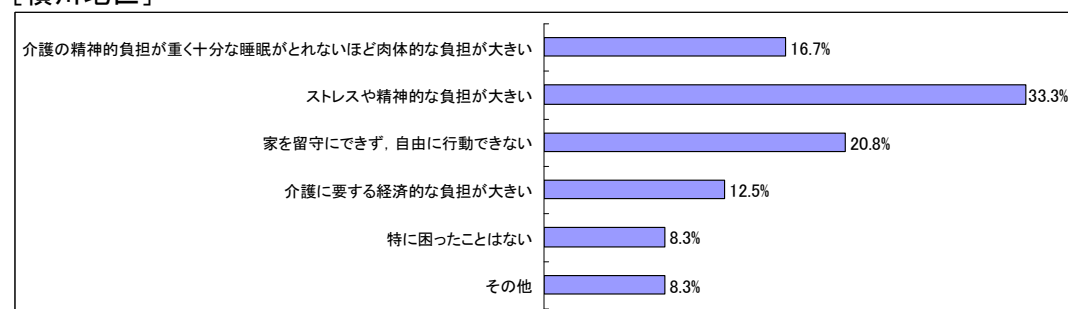
[本庁管内]



[河内地区]

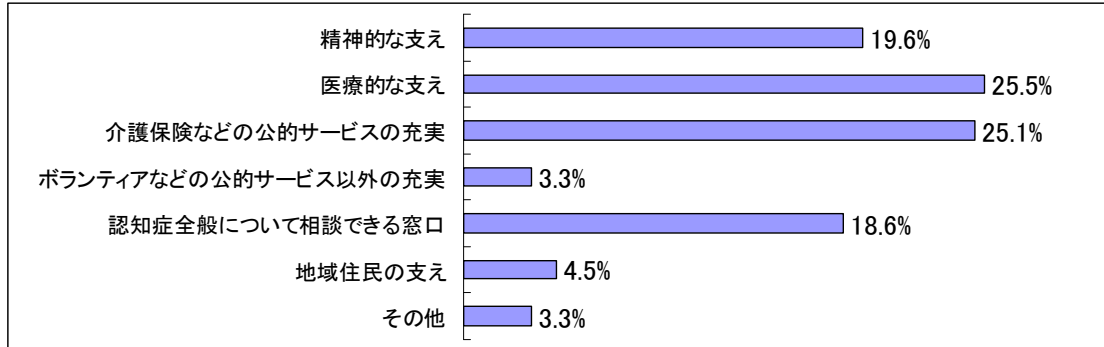


[横川地区]

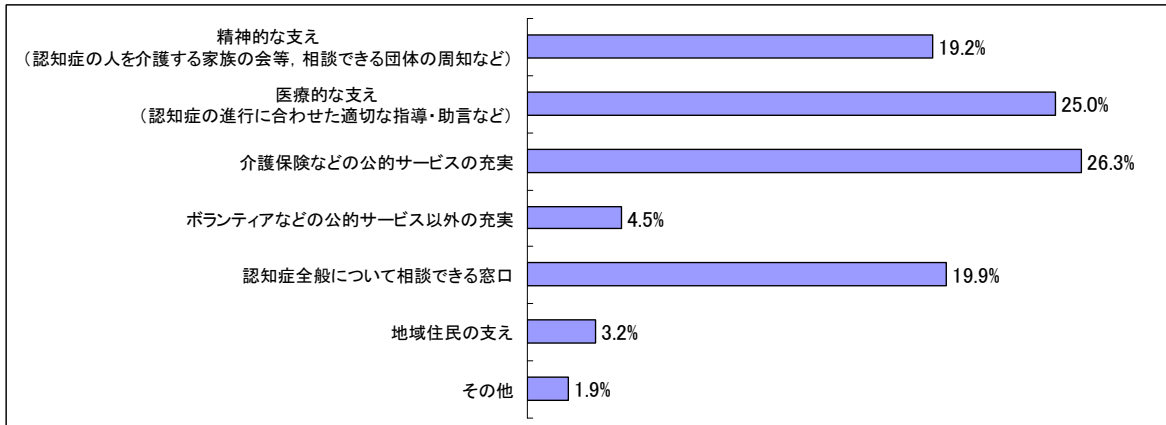


【問 17】 認知症のご本人の介護について、必要と思うことはありますか。（複数回答可）

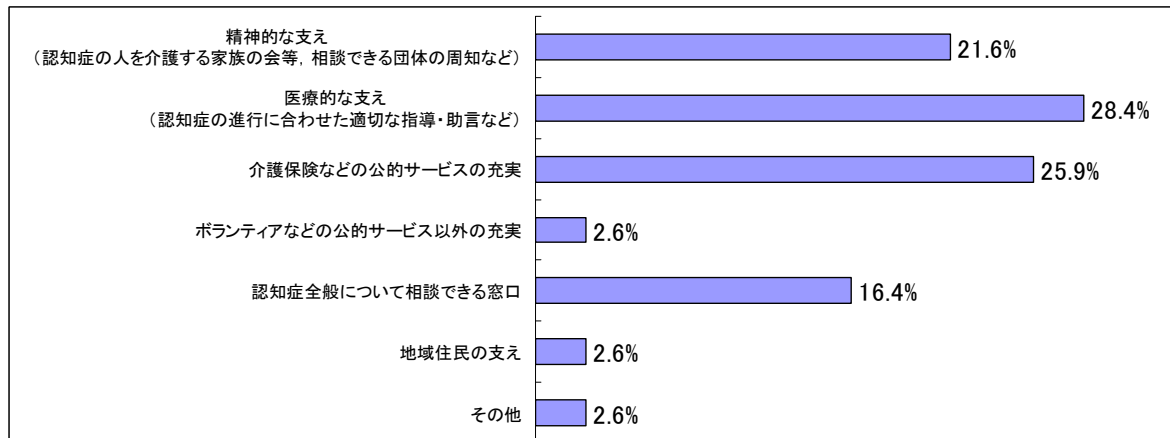
選択項目	件数	構成比
精神的な支え	82	19.6%
医療的な支え	107	25.5%
介護保険などの公的サービスの充実	105	25.1%
ボランティアなどの公的サービス以外の充実	14	3.3%
認知症全般について相談できる窓口	78	18.6%
地域住民の支え	19	4.5%
その他	14	3.3%
合計	419	100.0%



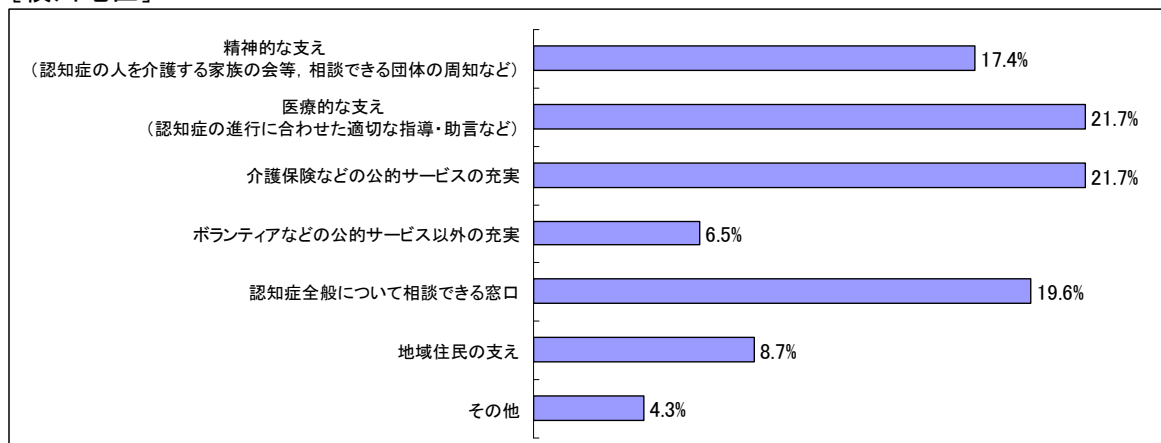
[本庁管内]



[河内地区]



[横川地区]

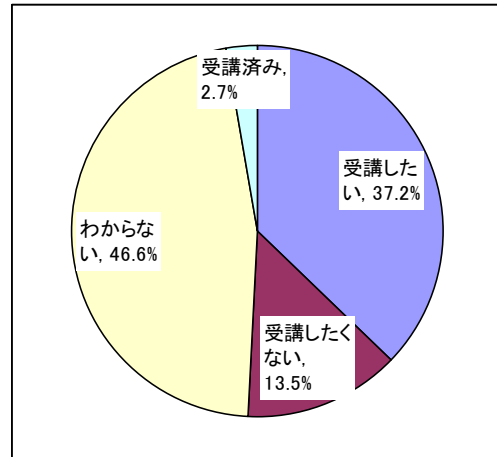




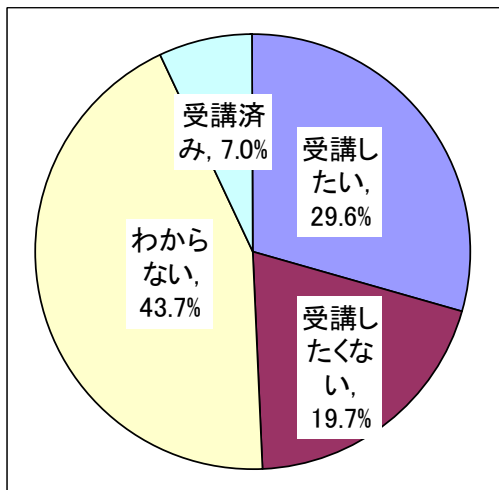
○ 認知症サポーター養成講座について

【問 18】 あなたは、認知症サポーターの養成講座があれば、受講したいと思いますか。  
(1つに○)

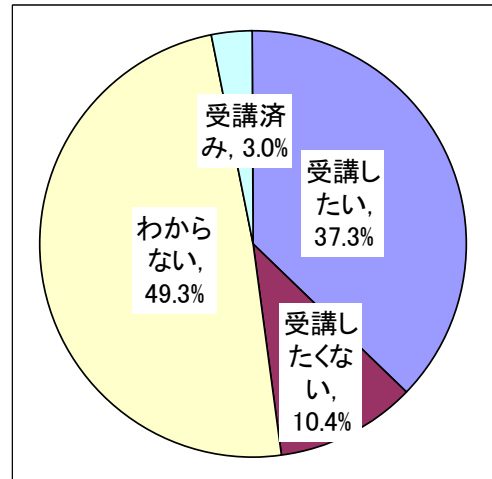
選択項目	件数	構成比
受講したい	287	37.2%
受講したくない	104	13.5%
わからない	359	46.6%
受講済み	21	2.7%
合計	771	100.0%



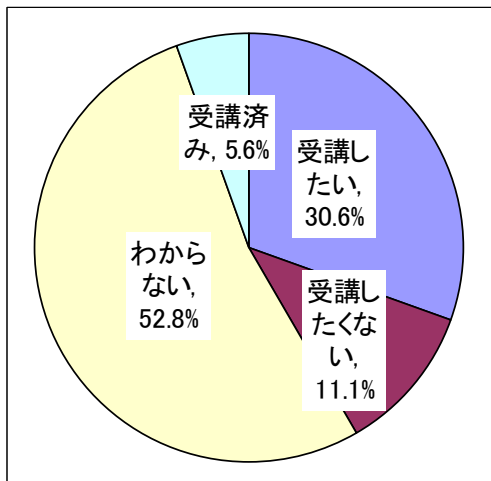
[本庁管内]



[河内地区]



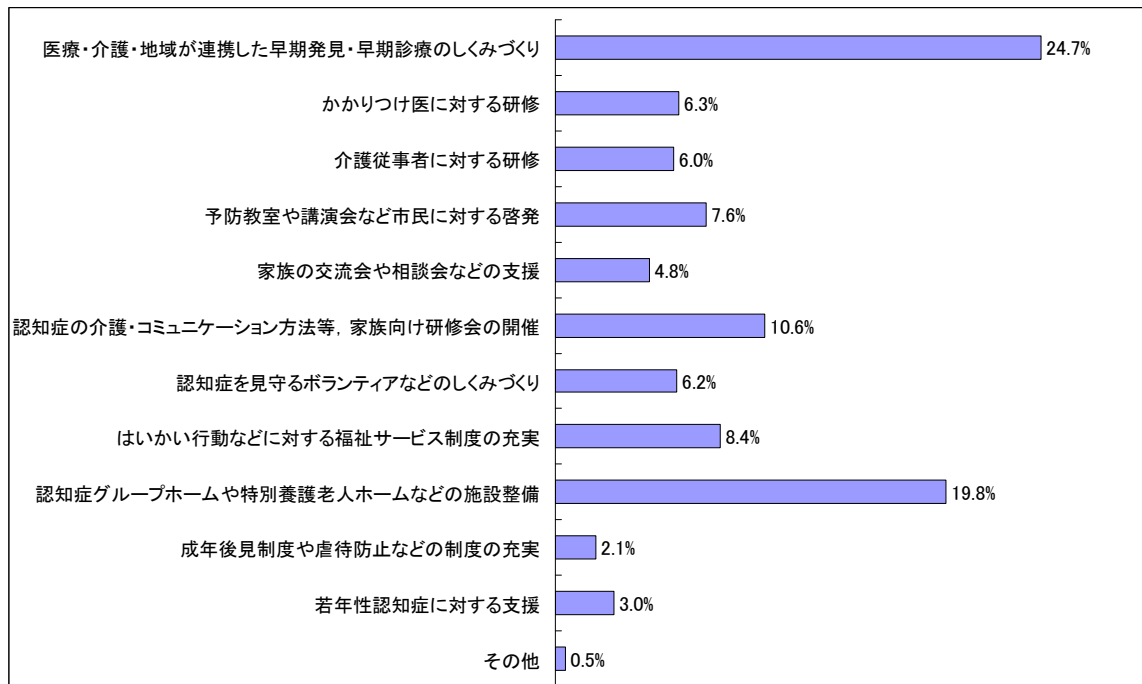
[横川地区]



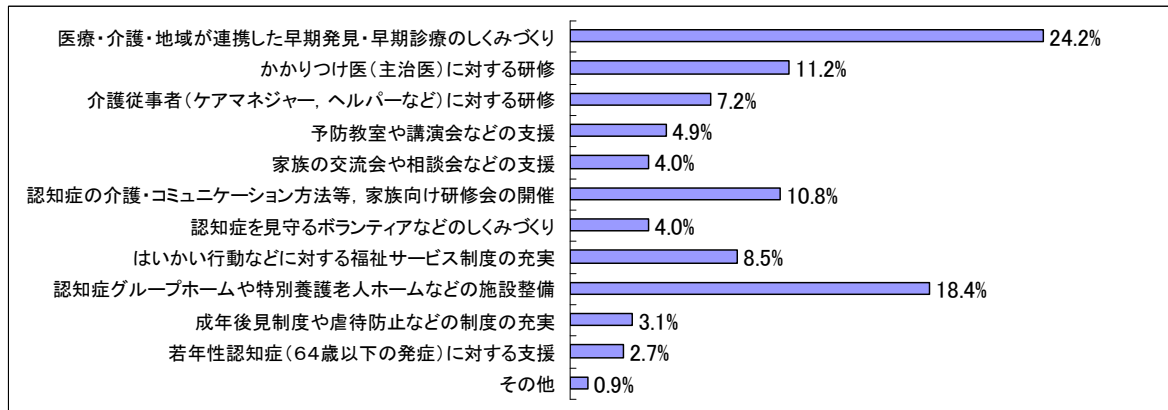
○ 認知症対策全般について

【問 19】 今後、認知症対策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと考えますか。（3つに○）

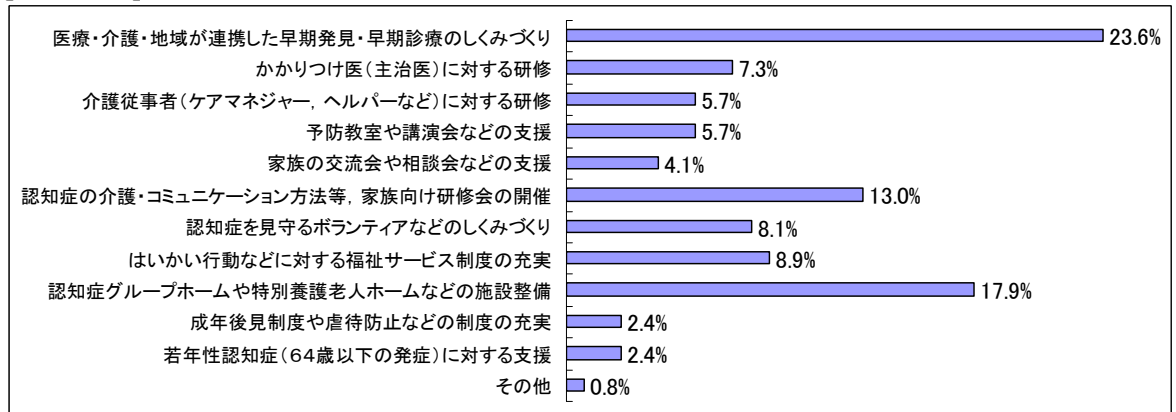
選択項目	件数	構成比
医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診療のしくみづくり	597	24.7%
かかりつけ医に対する研修	152	6.3%
介護従事者に対する研修	146	6.0%
予防教室や講演会など市民に対する啓発	185	7.6%
家族の交流会や相談会などの支援	115	4.8%
認知症の介護・コミュニケーション方法等、家族向け研修会の開催	257	10.6%
認知症を見守るボランティアなどのしくみづくり	149	6.2%
はいかい行動などに対する福祉サービス制度の充実	203	8.4%
認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備	480	19.8%
成年後見制度や虐待防止などの制度の充実	50	2.1%
若年性認知症に対する支援	72	3.0%
その他	13	0.5%
合計	2,419	



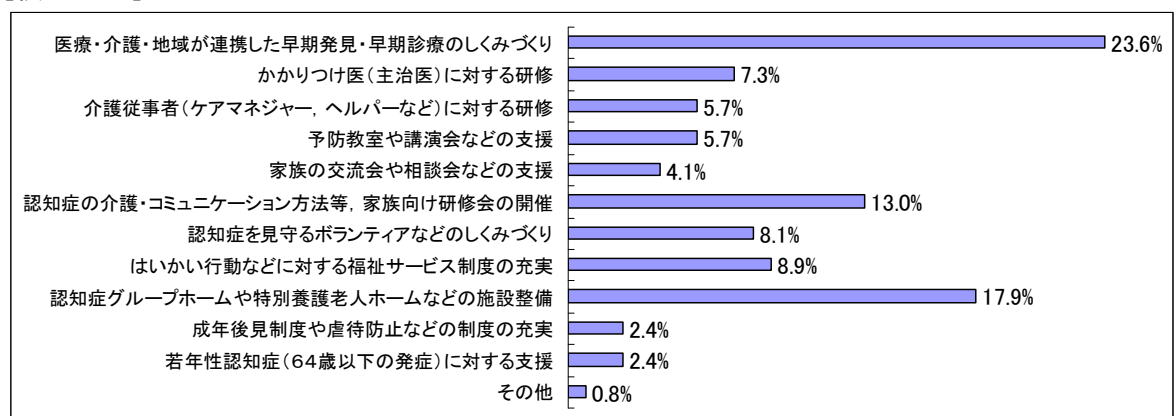
[本庁管内]



[河内地区]



[横川地区]



発行者  宇都宮市

〒320-8540 宇都宮市旭1丁目1番5号

<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>

編集

宇都宮市保健福祉部高齢福祉課

電話：028(632)2904 ファクス：028(632)3040

E-mail: [u1903@city.utsunomiya.tochigi.jp](mailto:u1903@city.utsunomiya.tochigi.jp)